

7. 自己点検・評価報告書

(1) 2022年度第1クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	1
人文学部	人類文化学科	4
人文学部	心理人間学科	8
人文学部	日本文化学科	12
外国語学部	英米学科	15
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	19
外国語学部	フランス学科	20
外国語学部	ドイツ学科	23
外国語学部	アジア学科	23
経済学部	経済学科	24
経営学部	経営学科	28
法学部	法律学科	33
総合政策学部	総合政策学科	39
理工学部	ソフトウェア工学科	46
理工学部	データサイエンス学科	49
理工学部	電子情報工学科	52
理工学部	機械システム工学科	52
国際教養学部	国際教養学科	54
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	60
教職センター		61
外国語教育センター		62
体育教育センター		69

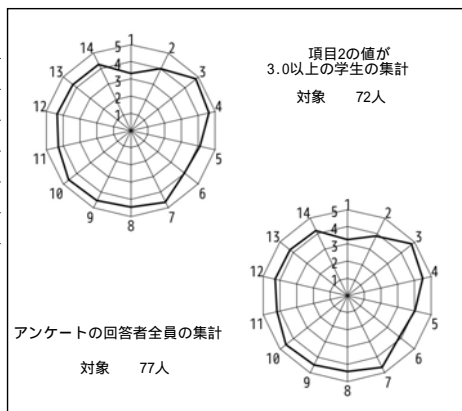
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	70
人文学部	心理人間学科	71
人文学部	日本文化学科	72
外国語学部	英米学科	73
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	73
外国語学部	フランス学科	74
外国語学部	ドイツ学科	75
外国語学部	アジア学科	76
経営学部	経営学科	77
法学部	法律学科	79
総合政策学部	総合政策学科	80
国際教養学部	国際教養学科	81
共通教育	仏語	83
共通教育	西語	84
共通教育	ポルトガル語	86
共通教育	中国語	86
共通教育	共通	88
教職センター		96
外国語教育センター		97

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[T]1
 授業コード 10A51-017
 教員名 三好 千春
 教員コード 101173
 登録人数 141
 回答数 77
 回答率 54.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

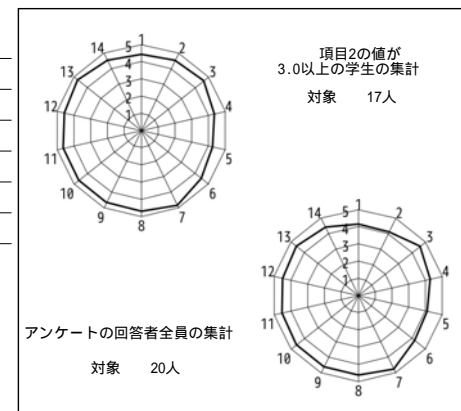
(1) 本講義の到達目標は、1 キリスト教の持つ世界観・人間観を理解している。2 キリスト教的価値観に基づき現代世界の諸問題を考察する基礎知識を身に着けている。であるが、特に、2に関しては、学生のリアクションペーパーや期末レポートの内容等から判断して、ある程度達成できたと考えている。

(2) 教員目線からは、上記のようにある程度の達成はできていると考えているが、アンケートの結果では、到達目標に向かって力がついてきているという点について、学生の点数は4点に達しておらず、教員と学生の間には齟齬がある。そもそもアンケートの設問1も3点台であることに示されているように、必修科目として、心ならずも履修している学生が多い状況下で、興味関心を持ってもらい、力がついていくと認識してもらうのは難しく、さらなる工夫が必要である。

(3) 講義の途中で、キリスト教文化になじんでもらう目的で様々なキリスト教音楽を聴いてもらったが、これはおおむね好評であり、今後も継続していきたいと考えている。なるべくその日のテーマに関連するような音楽を選んで聴いてもらっていたが、今後は、さらに有機的につながるような講義内容を工夫していきたい。また、今年度は実験的に、マルコ福音書を取り上げて最初から最後まで重要な部分を見ていくというコーナーを作ってみたが、これについては、そこで扱った内容をメインの内容に溶かし込んでしまった方がよかったかもしれないという反省があるので、来年度はこの点も改良したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 旧約聖書学(預言書A)
 授業コード 21C20-001
 教員名 加藤 久美子
 教員コード 103475
 登録人数 24
 回答数 20
 回答率 83.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

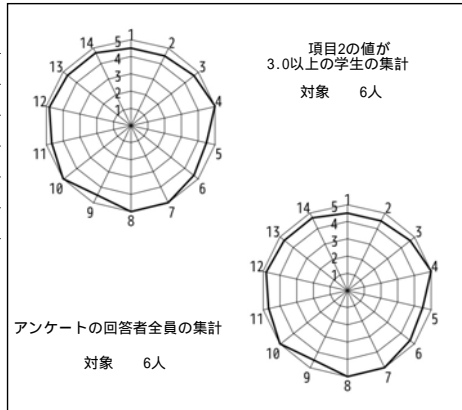
今期は、アンケート項目1にみられるように、履修前に授業内容に興味を持っていた履修者の割合が例年よりも低かった。その理由として同じ時限に開講予定だった別の学科科目が不開講となり、代わりにこの科目を履修した学生がいたことが考えられる。期末レポートとアンケート項目6を総合すると、開講当初に設定した目標の到達については、履修前から内容に興味を持っていた履修者については概ね達成できたが、そうではなかった履修者の一部については不十分だったといえる。

到達目標達成以外の点については全般的に履修生からよい評価を受けることができた。特に自由記述欄には授業資料の工夫に関する肯定的コメントが多くみられた。

来年度以降については、より広い範囲の履修者が到達目標を達成できるように、シラバスにおける到達目標の内容をもっと具体的限定的にし、それを授業内で履修者に伝えることにしたい。また自由記述欄に改善すべき点としてあげられた「ややうるさい人がいるときがあった」については、今期以上に明確な方法で注意するようにしたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 新約聖書学(福音書・使徒言行録B)
 授業コード 21C25-001
 教員名 KUCICKI, Janusz
 教員コード 101877
 登録人数 9
 回答数 6
 回答率 66.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

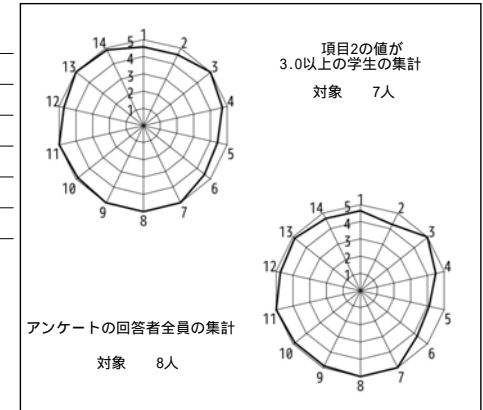


授業評価結果を踏まえた点検・評価

As the radar exposes, the course: New Testament Studies: The Gospels and the Acts of the Apostles (B) was well accepted and evaluated by student. Due to the fact that course took place in classroom, intermedia and interacitve technique of teaching was used sufficiently. It made a big impact on active participation of the student, which directly causes very well scour examination. The course was cared according to the Syllabus. As soon as possible, I would like to teach in a classroom, not only this subject by all my subjects.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(終末論)
 授業コード 21C41-001
 教員名 寒野 康太
 教員コード 104315
 登録人数 9
 回答数 8
 回答率 88.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスの目標としていた、終末論に関する一般的知識の習得を、様々な観点から、つまり、キリスト教全般の歴史の総括、ついでキリスト教における終末、歴史というものの持つ意味、また、各時代どのように終末論を取り扱っていたか、これらの関連も含めて、示し得たように思う。学生自身、この点をよく理解し、できるだけ習得するように務めていた。基本的に欠席はなく、質問に対して、それが奇妙に見えるものであっても、よく考え、自分なりの解答を提出してくれていた。また単に知識の吸収にとどまらず、終末論を通して、様々な現象を自分なりに理解し、テキスト読解にあたって各自の見方を分析、議論によって表現するという大学における基本的なスキルを習得することも目標としていたが、この点でも学生たちは、目的を理解し、自分なりにこうしたスキルの習得に留意を払っていた。本講義においてこの点を特に強調したので、終末論の知識習得だけではない人文学のスキルを各学生が習熟しようと努めたことは、今後終末論以外の科目でも当然応用できるものであり、評価できる。次回もこのことに留意して授業を行なっていきたいと思う。授業に関して、特に改善を目指していくこととして、自由記述にある、板書の際 書き取りに間に合う速度で書き、学生が見やすいように教員が一時黒板を離れるという点が挙げられる。受講者にとって、板書の筆記は大事なことで、次回から留意していきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 基礎神学(啓示論)

授業コード 21C42-001

教員名 SUSAI, Raj

教員コード 101347

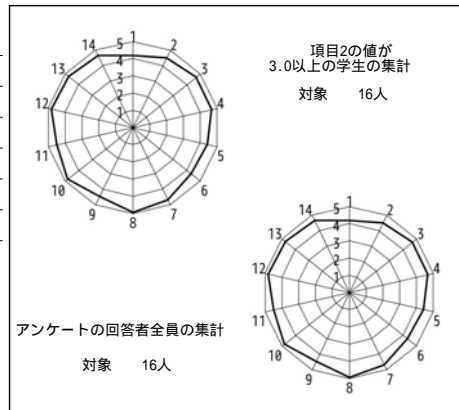
登録人数 19

回答数 16

回答率 84.2%

休講回数 1 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度第1Qの基礎神学（啓示論）の授業が、シラバスにそって行われた。またシラバスに取り上げられていた到達目標に達することができた。久々対面式でやりながら学生の反応をみることができた。学生もわりと積極的に授業に参加してくれた。ほとんどの学生がキリスト教徒でもなければ、キリスト教の知識も少なかったため、難しい面もあったと思われる。学生の評価意見にもあったように、内容が難しかったという指摘は内容があまりにも専門的だったからと思われる。また受講生は2年生から4年生までだったので、理解度様々だったと思われる。コロナ禍にもかかわらずできるだけ学生たちの授業参加向上のためにグループワークを実地し、発表を行ったことは、非常に良かった。学生たちも積極的に参加してくれたことは良かったと言っている点から次回もこれを行うことにする。上述したように、授業内容がある程度専門的だったため学生の理解度が乏しかったため、次回はもう少しわかりやすくすることを目指す。今回他宗教についての発表があったように今後も似たようなことを継続する。全体的に基礎神学（啓示論）を通して学生がキリスト教について専門的に学ぶことができたと確信している。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教学

授業コード 21C55-001

教員名 KISALA, Robert

教員コード 018275

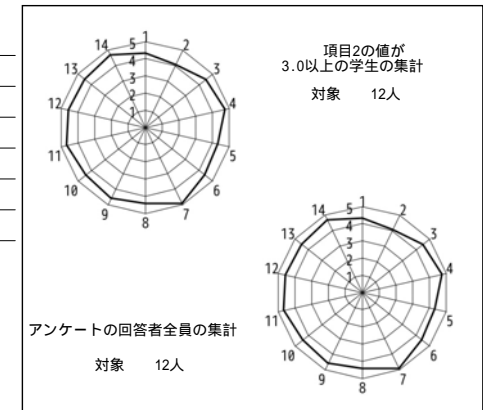
登録人数 14

回答数 12

回答率 85.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「学問としての宗教学を理解する」と「現代宗教について考察する」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号5：平均値4.33；設問番号6：平均値4.42）から、学生らは到達目標を十分理解して授業に取り組んでいたことが言えるであろう。しかし、まだ改善する余地があるので、講義の内容の丁寧な説明と毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認することに努める。一方、自由記述式設問の回答結果からは特に課題と定期試験のテーマは積極的に評価されていると言える。また、毎回のディスカッションを通して講義の内容に関する自分の考えをより明確にして他の学生の理解・考えを確かめることができた、という点も積極的に評価されている。

本講義の改善点として、学生が講義の到達目標を意識させるためにさらなる工夫を考えている。学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明、または毎回到講義の到達目標を確認することにする。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教思想A
授業コード	21C59-001
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

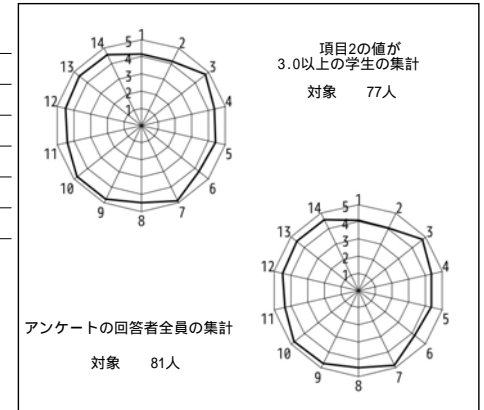
本講義は、多面的宗教現象を広く検討するとともに、宗教の起源や本質を解明しようとする。代表的宗教学者や思想家の文献を解読することによって、様々な宗教領域に必要な基礎的知識を習得するとともに、文献の分析力を高めることを目指している。

学生による授業評価の回答数4件以下のため、集計・レーダーチャートは提供されていないので授業評価の結果を把握しづらい。自由記述には肯定的評価として「授業の始まりに、前回のリアクションで生徒がわからないと回答したことについて詳しく説明していた点」、「レポートの時間を授業内に確保してくれること」があげられる。否定的な評価としては、「内容が難しい」という記述があります。

来年度には、講義の各項目についてより分かりやすいレジメを提供し、関連文献を紹介することにより、主体的な学習と学習意欲を向上させる工夫をしたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本との出会い1
授業コード	13B01-001
教員名	藤川 美代子
教員コード	103115
登録人数	200
回答数	81
回答率	40.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

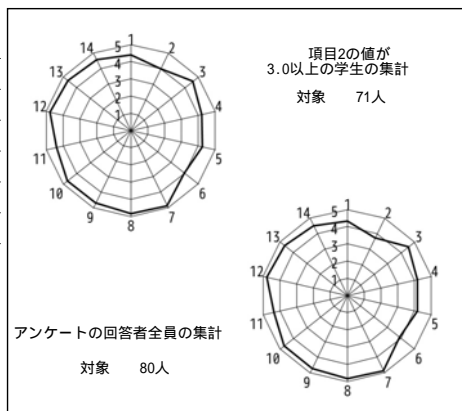


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初目標としていた「自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作る。日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につける」という目標は、達成されたものとする。受講生の自由回答には「日本のさまざまな世間一般では異質と呼ばれている部分に対して考えを持つことができた」「今まで考えたことのないことを考えさせられることが多くて、視点が広がったような気がする」「今まで雑然と聞いたり使ったりしてきた「日本」という概念を深く考えることができ、学びになった」との意見が見られ、当該授業が受講生にとって身近な「日本」についての新たな視点を提供することに成功したのではないかと考える。とりわけ、映像を鑑賞することで難しい、もしくは自分とは縁遠いと思われる話題を身近なものとして捉えたり、具体的な事例を通して抽象的な議論へと昇華させたりすることができたことがわかる。授業の進度が遅れ、シラバスの予定とずれていくことを解消する必要がある。より多くの情報や論点を提供しようとして時間が足りなくなることが原因であるが、授業ではより多くの話題の要点について伝えることとし、詳細な情報は配布版資料でのみ提示するという方法をとることも有効であるとする。また、質問をWebclassで受け付けるという方法は好評のようだったが、よりライブ感を重視するために授業中に質問時間を設けてほしいとの意見もあったので今後の課題としたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館概論
授業コード 15M07-001
教員名 黒澤 浩
教員コード 100758
登録人数 83
回答数 80
回答率 96.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

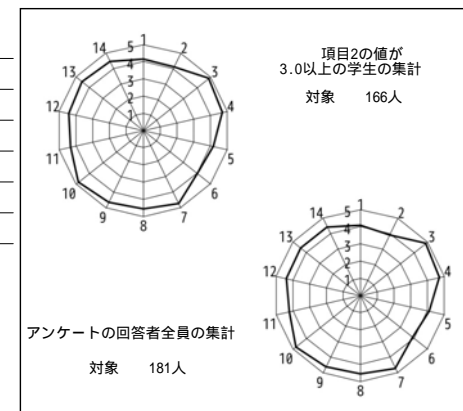


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的な評価は良かったものと思う。
自由記述の指摘にあったように、質問への回答やコメントに時間を取られ過ぎていたことは確かなので、この点は改善したい。
また、授業進行のペースがなかなかつかめず、最後の方が不十分になってしまった点も反省すべきことである。
全体的に言って、私の授業進行に改善の余地がある。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学概論
授業コード 22B03-001
教員名 石原 美奈子
教員コード 100080
登録人数 268
回答数 181
回答率 67.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

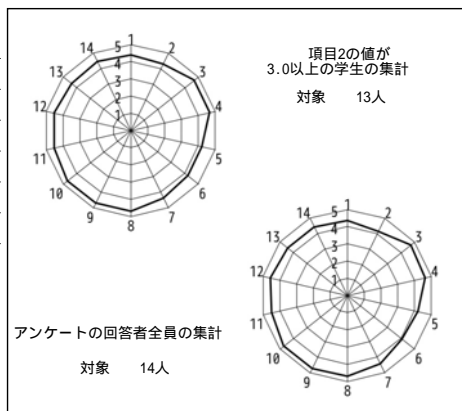
本授業は、文化人類学の基礎的な知識を提供することを目的としており、文化人類学がどのような学問であるのか、何を対象にし、どのような手法・考え方に基づいて、何を学ぶ学問なのかについて教える内容となっている。したがって、内容は広範囲に及び、内容の深度は浅い。担当者が作成したパワーポイント教材を用い、毎回小テストをwebclassで実施し、その点数をもとに成績評価を行った。

学生のなかには、パワーポイント教材が詳しすぎる、鑑賞した民族誌映画に字幕がなく、「衝撃的」映像があったというコメントがあったことは反省点に相当するだろう。「衝撃的」映像とは、おそらくはフランス人民族誌映画作家ジャン・ルーシュの『狂気の主人公たち』において憑依した人々が犬を食らうシーンのことであろう。担当者もこの点については、「衝撃的」であることを認識しており、そのような映像があることは事前に何度も伝え、その部分を見たくなければ見なくてもよい、とも伝えておいたが、今後は、鑑賞の仕方を変えることも考える必要があるだろう。字幕がない点については、日本市場に出回っている映像でない場合には、致し方がないと思われるが、鑑賞を控えるか、あるいは、少し音量を下げて、解説するという方法に変えてみようと思う。

ズームを介してパワーポイント教材を用いて授業を行い、成績評価を小テストをもとに行うというスタイルに慣れてきたが、学生の目線に立って、さらに教材をわかりやすく変えることや、映像の選択を行うなどの改善を行いたいと考えている。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学文化論B
授業コード 22C23-001
教員名 中尾 央
教員コード 102505
登録人数 39
回答数 14
回答率 35.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

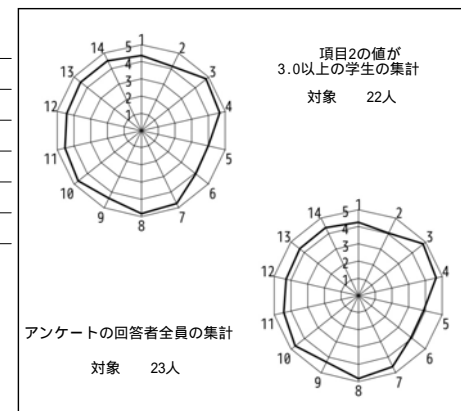


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
到達目標は以下である。
・自然哲学の基礎知識・思考法を身につけている。
・各種個別分野の理論的・哲学的基盤を理解している。
アンケート結果も4点を超えているようなので、概ね達成できたのではないだろうか。
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
「早口で聞き取りにくいときがあった」とあったので、よりゆっくり喋るようにしたい。「スクリーンが太陽光で見にくかった。カーテンを閉めれば見やすくなると思う」という記述もあった。教室の使い方がわかりにくいので何か指示を教室に書いておいていただきたい（カーテンの締め方を探したが見当たらなかった）。その他はおおむね「理解しやすかった」との意見だったので、特に問題はないのではないかと。
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など以上踏まえて、よりゆっくり話す、教室の使い方を覚えることが大事なのだろうと考える。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東アジア考古学A
授業コード 22C38-001
教員名 上峯 篤史
教員コード 104108
登録人数 32
回答数 23
回答率 71.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

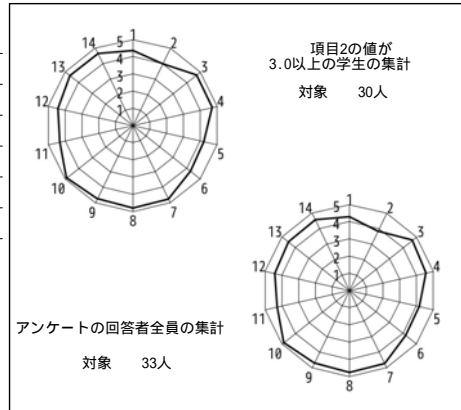


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業は、旧石器文化と旧石器考古学の概説講義で、到達目標は 旧石器文化を構成する様々な文化要素について、大まかな特徴、地域性や変遷の概略を説明できるようになる、日本列島と海外の旧石器文化との共通点と相違点を、具体的な事例をあげながら説明できるようになる、の2点であった。授業はこの目標を強く意識して進め、毎回の授業冒頭でのポイント解説、WebClassで実施した確認テストや期末試験でも、到達目標に関わる点を出題した。一方、受講生による授業評価ではQ5とQ6のスコアが開講科目平均をやや下回る。Q5についてはシラバス内容やガイダンス・アナウンスが理解されていない、Q6については毎回の確認テストのスコアが低かったことと関係していると推定される。
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
受講生による受講評価のスコアは、開講科目平均スコア付近を推移している。極端なスコアをつけている回答者が1名いるため、小数点第2位の高低に意味を見いだすことは難しいが、開講科目平均スコアとの差がやや大きい以下の設問がある。Q9とQ13である。これらは端的には「授業がやや難しかった」ことを示すと思われる。それを裏づけるように、WebClassで実施した確認テストの平均正解率は42%しかない。一方で、これよりやや難しい難易度・同一形式の期末試験では平均正解率は76%と大きく改善されているため、試験勉強を通じて、授業内容がよく復習されたと考えられる。
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など上記の検討結果からすれば、授業内容を復習しやすくする環境を整えることを優先すべきと考える。オンライン授業時に実施していた、音声ファイルの公開などを検討したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(環太平洋)
授業コード	22C44-001
教員名	吉田 竹也
教員コード	019158
登録人数	62
回答数	33
回答率	53.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

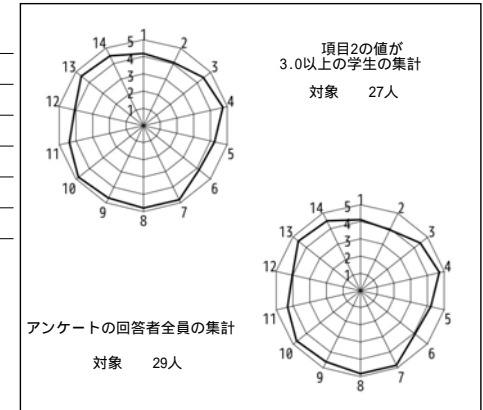
この授業の副題は「琉球弧の総合的研究」である。地理学、歴史学、考古学、文化人類学・社会人類学、島嶼経済学、ポストコロナル研究、観光人類学などの知見を講義担当者のフィールドワークのデータと組み合わせ、この地域の総合的な理解をはかることが、この授業の目標である。

数値や学生のコメントを見るかぎり、こうした目標はそれなりに達成されたと判断する。「沖縄や他の島々の初めて知った情報が多かった」「先生の経験や行ったときに撮った写真があることで分かりやすい情報もあった」「資料や写真が充実していた」「色々な視点での考え方を知ることができた」「琉球の歴史のいろいろなことや、沖縄の基地問題について、沖縄の人の認識や感情と本土の一般的な認識を両方知ることができた」「対象地域の歴史的な経緯に加えて、現在の様子や観光といった視点から論じられた内容が多く、興味深かった」といったコメントがあった。改善を求めるコメントとしては、1件「動画なども取り入れた方が、より興味を持つことができると思う」というものがあった。しかし、既成の動画をもちいることは基本的にしない方針なので、この要望には応えられそうにない。

学生たちは総じておとなしく、質問がなかったのが気がかりであったが、中には熱心にメモを取る学生もいて、ある程度こちらの趣旨は伝わったと考える。今年は沖縄の復帰50年の年である。この授業が、沖縄の人々や社会が抱える困難と可能性を学生が考える一助になればと願う。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(オセアニア)
授業コード	22C46-001
教員名	後藤 明
教員コード	101380
登録人数	42
回答数	29
回答率	69.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

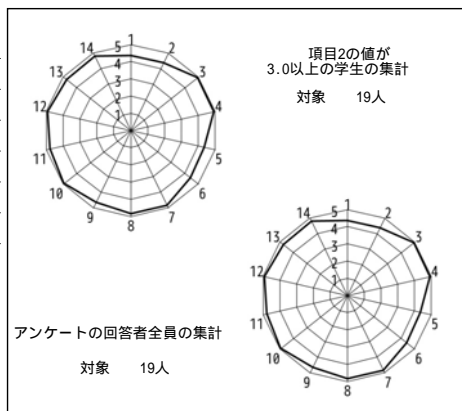


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 計画していた各項目についてはほぼすべて網羅して講義することができた。また時間に余裕があったので補足的な話題(ハワイから日本に到来した文化の例として小笠原諸島について)一コマ講義することができた。(2) 全項目4ポイント以上の評価を得ているが、相対的に低い項目は学生が目標に到達したかどうかの実感、および質問の時間が十分かどうかのこうもむであった。(3) 今年度は成績評価はレポートにしたが、事実を書かせるというよりも、ハワイで起こっている社会問題や意見の相違に関する記事や本の一節をいくつかあげて、学生の考えを尋ねる形式にしたため、講義を踏まえてものを考える姿勢は涵養したつもりであるが、次年度に向けて、まず講義の目標や到達点について最初の時間に具体的に話す努力をする予定である。また久しぶりに対面で行ったが、過去二回はオンラインであった。オンラインの方がメッセージなどで比較的自由に、積極的に質問する学生がいた反面、今回、ウェブクラスなどでの質問を度々促したが、講義の終わった後に2, 3回あっただけで、学生からの質問はほとんどなかった。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(英米哲学)
 授業コード 22C66-001
 教員名 和泉 悠
 教員コード 103645
 登録人数 32
 回答数 19
 回答率 59.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



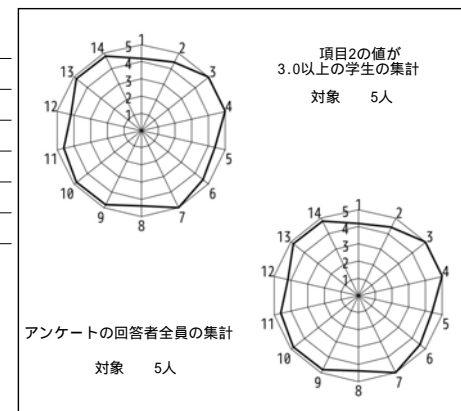
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義の到達目標は次のとおりである。

1. 嘘にまつわる哲学的問題のいくつかについてきちんと議論できる。
 2. 自分の意見をきちんと根拠を挙げて、論理的に述べることができる。
 3. 相手の意見をよく聞き、その内容と根拠を理解することができる。
- 1、2、3すべての項目についての評価を、今学期は授業内の課題にもとづいて行った。関連主題に関する文献にもとづいたプレゼンテーションにより1を、プレゼンテーションに対する特定質問者としての議論参加により2を、そして授業内に義務化したテキスト・口頭にもとづいた質疑応答、ディスカッションにより、1～3すべてを評価した。参加の程度は成績にはっきりと反映させることを宣言したことにより、相当程度高く、十分に目標に到達できたと言える。
- プレゼンとディスカッション中心の組み立てに対する満足度、ハイレベルの議論ができたことへの満足度は高かったように思われる。しかし学生の理解を優先し、文献の精読とその理解を中心とし、さらに発展的な内容までは踏み込めなかったと考える。
- 特殊講義にふさわしい、よりオリジナルな内容を議論する、学生にオリジナルな議論を展開してもらおう、といった目標を今後立てるならば、評価方法にレポートを含めるかどうか検討しなければならない。しかし、レポートを課すだけでは、レポートを単にこなすだけ、という結果も避けられないため、講義内容と関連づけた課題をうまく構築しなければならない。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳9<国際科目群
 授業コード 10D01-902
 教員名 ABRAHAM, Joy Plathottathil
 教員コード 104278
 登録人数 13
 回答数 5
 回答率 38.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

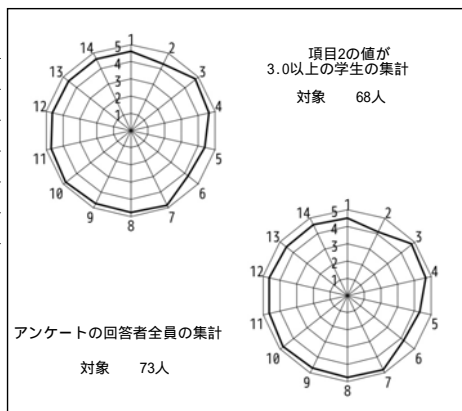


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The main scope of this course is to develop in the participants the value of self-worth and to initiate in deeper understanding of human life from various perspectives beyond all kinds of prejudices.
2. The interest shown by the students serves as factor of motivation. However, most participants have trouble with understanding English vocabulary in the field of human dignity and religions. As this is not a language course, only an indirect way of getting familiar with the language through video clips and short-films were possible. The students were asked to write a short class review in order to assess their way of understanding. Although some refrain from writing the reviews, all those who wrote the review had taken the pain to understand the topic. Although I presented it from a totally unfamiliar viewpoint even for people who are familiar with the issues in human dignity. This method is followed not to cause troubles to the students but rather to keep certain questions alive in their memory even after the course is over. Mainly the questions like: What is the purpose of your life? Why do you work? etc. I am happy with the responses I got from the students.
3. Although many students might have problem with understanding the classes in English, I intent to use Japanese only for introducing the difficult terms. A one-to-one translation of the course is not in perspective. The number of attendants are very limited at the present.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A6
授業コード 12E03-006
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 198
回答数 73
回答率 36.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

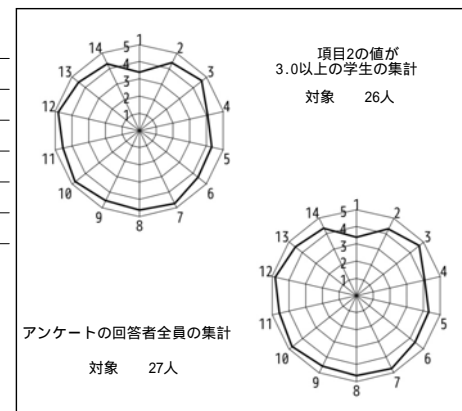
本講義は、基盤・学際科目（科学と情報）に該当し、全学部の学生を対象に開講されている。昨年度に引き続きオンラインで開催された。本講義の到達目標は、認知心理学、学習心理学、発達心理学分野に関して「各分野の概要を理解している」「基礎的な事項について説明できる」「生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」の3つをあげている。到達目標については、4割以上（項目5：4.33）の学生が理解していると回答している。一方で、到達目標に向けて力がついたという回答は若干低い結果（項目6：4.19）であった。

「2022年度第1クォーター『学生による授業評価』各種集計」の基盤科目の平均値と比較すると、概ね平均値であった：設問1-14の平均値：4.58に対し、心理学A6の設問1-14平均値：4.57、設問3-14の平均値：4.62に対し、心理学A6の設問3-14の平均値：4.62であった。このことが何を意味するかを考えることは難しいが、学生の評価としては悪くもなく良くもなくという授業であったと言えるのかもしれない。対象科目全体の平均値からも読み取れることだが、学生の達成目標の理解と達成感については、他の項目に比べ低いことが見受けられる。私自身も、この達成目標を学生と共有し、学生のモチベーション維持と達成感獲得について、更に改善する必要性を感じている。

オンラインで200名ほどの学生の学習状況を感じ取ることが難しいと実感している。様々な受講環境の中にいる学生に対して、グループ討議など主体的な活動をオンライン上で課すことも学生の間にも意欲の温度差がある。一方で、「オンライン環境を上手く生かして、パワーポイントや動画をしっかり取り入れることにより、我々学生を飽きさせないようにしてくださった」というコメントがあった。一方通行になりがちなオンラインによる講義の中でも、学生のモチベーション維持ができる工夫を引き続き行っていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIA
授業コード 23A08-001
教員名 土屋 耕治
教員コード 102287
登録人数 30
回答数 27
回答率 90.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、心理人間学学科の必修科目として開講されている。4クラスが同じ教材を用い行われ、論述文が書けるようになることが目標とされていた。

(1) 目標と到達の程度

新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じるかを問う項目13の平均値が4.52であった。これは比較的高い得点と言えます、論述文を書くという目標をある程度達成できたと言ってよいだろう。

(2) 総合的な自己点検・評価

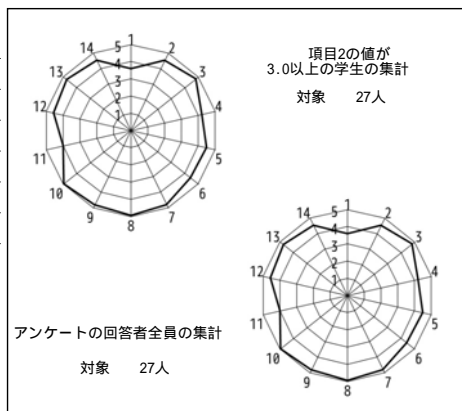
本授業では、演習形式の授業で、レポートを添削して返却する他、学生が作成した原稿を相互に批評する機会を多く設けていた。「自分の提出したレポートに評価とアドバイスが返ってくる点。また、それについてグループで話し合える点」という良かった点に関する自由記述コメントにあるように、一定の評価を受けていたと言える。

(3) 改善点、今後の抱負

話し合いや作業の時間を十分に取ることを配慮していたが、一方で、他のクラスとの終了時間の違いから、何のために取り組む時間かがわからないときがあったという自由記述があった。作業や話し合いの時間は、取り組むこととその意味を明示するとともに、コンパクトにできることはそのようにしていくということも心がけたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIA
授業コード 23A08-002
教員名 楠本 和彦
教員コード 055780
登録人数 31
回答数 27
回答率 87.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は、4クラス同じプログラムで実施しているacademic writingに関する心理人間学科の必修科目である。到達目標は以下のものである。

- ・論述的文章とはどのようなものかを知っている。
- ・論述的文章を自分の文章として書くことができる。
- ・文献を引用のルールにしたがい、自分のレポートに活用することができる。
- ・テキストのテーマに即して、自分の視点から自分の言葉で文章を作成することができる。
- ・明快な文章の構成とはどのようなものであるかを理解し、自分と他者の文章を推敲することができる。

当クラスの平均が、全学平均を下回った設問は、1と4と11であり、学生が履修前には授業内容にあまり興味をもっていなかったことがわかる。また、授業資料の説明は事前学習との重複と感じ、グループワークを増やした方がよいと感じている学生もいたことが4と11の項目および自由記述から読み取れる。

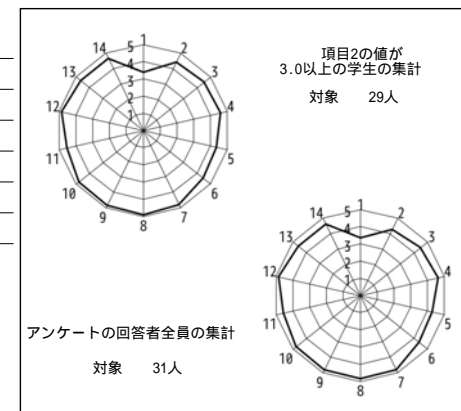
当クラスの平均が、全学平均を0.2ポイント以上高かった設問は、2、5、6、8、9、10、13であった。

この授業では、一定程度の宿題を課したため、設問2が高くなったと考えられる。各回のおける到達目標が明示され、到達目標に向けて授業が順をおって展開されるため、設問5、6が高くなったと考えられる。設問8や9や10が高いところから、教員の声の大きさや授業の妨げになる行為への対処等授業に取り組む担当教員の姿勢を学生は適切だと感じていたことがわかる。また、教科書や配布資料や課題等も効果的であったことがわかる。

設問13に関して、学生が授業課題を行い、提出課題に教員がコメントをつけることなどを通して、academic writingに関する知識や能力を向上させることができた。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIA
授業コード 23A08-003
教員名 中村 和彦
教員コード 055731
登録人数 31
回答数 31
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

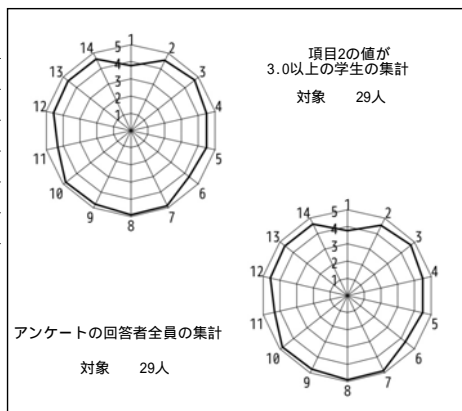
この授業は、心理人間学科2年生が4クラスに分かれ、各クラスにおいて同じ内容で授業が行われている基礎演習である。論述文のレポートや論文を作成する力を養うことを目指し、論述的文章とは何かを理解できていること、論述的文章を書けること、文献を引用のルールにしたがい活用できること、などを到達目標として設定している。

到達目標に向けて力が付いてきているかを尋ねる項目6の平均値は4.39であり、のびしろがあるものも、ある程度の力を身に付けたと学生が自己評価していると考えられる。項目14(全体としての満足度)の平均値は4.61(同項目について2018年度4.61、2019年度4.83、2021年度4.55)であり、2021年度よりは若干上昇している。2021年度よりも平均値が高まった項目は4(毎回の授業の構成や進行速度の適切さ)と12(質問や相談の機会/課題、実習等に対する事前・事後指導の十分さ)であった。自由記述には、学生の進捗具合を見て進め方や時間を変更していたことや、小レポートのコメントから気づきを得たことが書かれていた。このことから、学生の様子を見ながらの授業運営や個別のコメントが効果的であったことが伺える。

2021年度よりも平均値が下がった項目は8(教員の声:5.00 4.84)であり、グループワークの会話に私の声が消されないよう、メリハリをつけた声かけを今後さらに実施していきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IIA
授業コード	23A08-004
教員名	西脇 良
教員コード	100623
登録人数	31
回答数	29
回答率	93.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、「論述的文章」について理解し、テーマに即して自分の視点から自分の言葉で文章を作成できること、自分および他者の文章を推敲できること、等を学修目標としました。

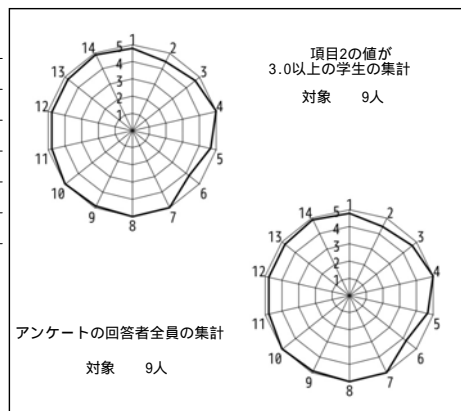
学生の皆さんからの評価ですが、全体としては「まあ良し」との判断であったように思います（全設問の平均値 = 4.56）。設問11（学習意欲を引き出す指導 = 4.31）のみ、いずれの開講主体平均値（4.34）よりも若干低く、課題が残りました。

自由記述についてですが、まず肯定的な意見として、「先生方のサポートがとにかく手厚く、どんな質問にも優しく丁寧に回答していただけた点」「個人作業のあとに必ずグループでの共有の時間が設けられていて、グループの人との話し合いの中で学びを深めることができたこと」「授業スピードが自分に合っていた」等の評価を多数頂戴いたしました。これからも、分かり易さや、質問への丁寧な応答等、心がけて参ります。

他方、改善すべき点として、「授業の進行スピードを早めた方がいい。また分かち合いに時間を割きすぎている」「教室で自由にやる時間は必要なのか？」「レポートの具体的な例を出してほしかった」「他のクラスとの連携をして休憩時間や終了時間を統一してほしいと感じた」「授業（木曜日）からレポートの提出期限（土曜日）までが短いと感じました」等の意見を頂戴いたしました。これらは、受講生の感じ方の違いもさることながら、授業担当者個人の裁量、公平性の確保、授業内容の量的/質的保証、等とのバランスをどう取るかという課題でもあり、担当者間でも適時相談し合ってきました。今後、不満のないよう丁寧に説明させていただきます。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理臨床実践概論(公認心理師の職責)
授業コード	23C79-001
教員名	青木 剛
教員コード	103923
登録人数	11
回答数	9
回答率	81.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目は、公認心理師に求められる職責を果たすために必要な倫理的問題の把握などについて理解することを目的としている。職責を果たすためには、専門知識の獲得と活用、その際の留意点を理解する必要があるが、学部生では十分とは言えず、資格取得後も学び続ける必要がある。そのため、現時点で既に知識として獲得している点、獲得したが知識の活用までには至れていない点、獲得できていない知識を把握し、十分でないところを補おうとする姿勢の涵養が必要となる。そのために、授業内で既に他の授業で学修した概念の説明を求め、ディスカッションを実施して、他の受講生と知識や知識活用のための発想を補完し合いながら、知識活用に向けた発想力を育む授業運営を行った。受講生はそれらを通して現時点での自身の理解度を確認し、知識の現場での活用、その際の留意点について理解を深めているように見受けられ、本科目の到達目標は概ね達成できていたと思われる。

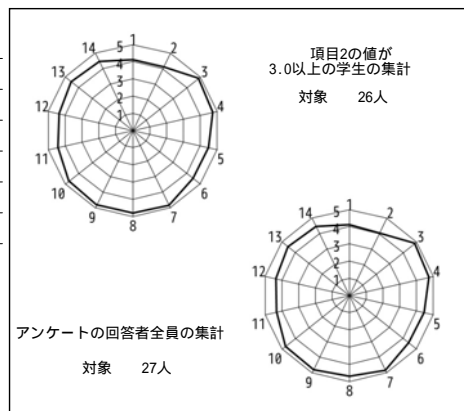
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値データは、全て平均4以上であり学生からの評価は高かった。自由記述からも、教員 学生間や学生同士でやりとりをしながら進められた点が評価されており、到達目標の達成のために計画された授業運営が授業効果や受講生の満足度を高めていることが分かった。力が付いたかという項目6で平均得点が4.22と最も低かったが、自身の知識不足に気づいたという自由記述からも、上述の到達目標でもある、自身の現時点での理解度と、これから理解していく必要がある点の把握がなされた結果と考えられた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後も、上述のような学生による授業評価や授業の満足度を維持・増進できるように工夫したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史B
授業コード 24C12-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 69
回答数 27
回答率 39.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

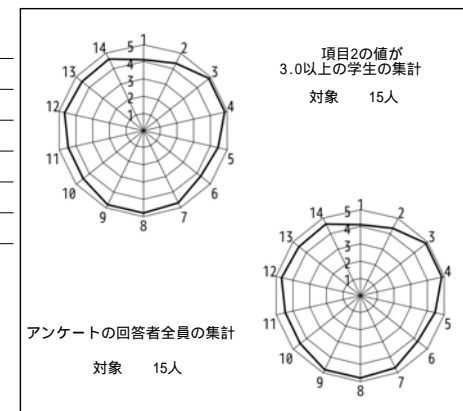
この授業では、教員作成の配布プリントとそれへの解説を中心に、関連する映像資料の視聴を織り込みながら、授業テーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後をリアクションペーパーの時間にあて、各回の授業の中心的なトピックに関する考察、映像資料を視聴した回においてはそれに関する感想や考察、その他自由な観点からの感想や質問等を書いてもらい、次回の授業の冒頭でその一部を紹介しながら復習を行うとともに、適宜、質問に答えることで双方向の授業展開を試みた。またテーマ毎の節目で、授業内容に深く関連する資料を読んで設問に答える形式の小レポートを課し、その解説を行うことで、授業内容への理解がより定着するよう努めた。このような方法で授業を進め、シラバスで示した授業計画はほぼ予定通りに進行できた。

上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の、授業の構成や進度に関する設問4の平均値4.74、授業に取り組む姿勢に関する設問7の4.85、学生の理解度への配慮や効果的な教材活用に関する設問9の4.78という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。また授業運営についても、授業の開始・終了時間に関する設問3の4.85、授業の妨げとなる行為への対処に関する設問10の4.74と比較的高い数値であった。反面、自主的な学習を促す働きかけに関する設問11については平均値4.33、質問や相談の機会に関する設問12については4.37と、大学全体の設問11の平均値4.34、設問12の4.46を下回る値となった。改善の余地がある数値であり、この点は反省点である。

以上のような反省から、今後は自主的な学習をより促すような予習課題の提示や、リアクションペーパーに記された質問により丁寧に回答していく等の工夫を行っていきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史C
授業コード 24C13-001
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 44
回答数 15
回答率 34.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

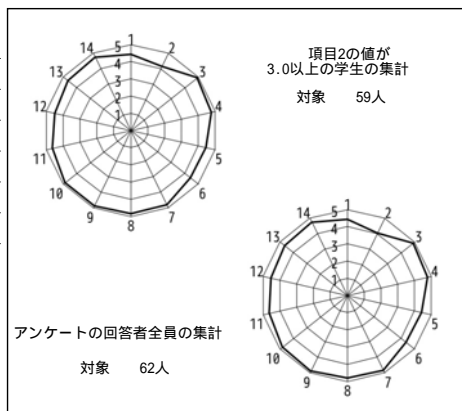


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は対面形式の授業であったが、対面授業としては例年以上に、授業内で感想や質問以外の課題を提示し、Webclassで回答してもらう形態を多く取り入れた。質問や相談の機会が十分に設けられていたかの項目は4.67で比較的平均値が高く、一方、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」という問いは4.47と前者に比べて低めとなっている。提出された質問を取り上げ回答する時間をとっていたことが前者の平均値に反映されたかと思う一方、自主的な学習を促すための指導という点では工夫が足りなかったかもしれないと考える。次年度は、発展的な学習に向けて、情報提供をより行うなどの工夫をしていきたい。自由記述では、レジュメに資料が多く、わかりやすかった、という回答が複数あった。映像も取り入れつつ授業を行ったが、その点を肯定的に評価するコメントもあった。今後も、授業形式や資料提示の形態等、よりよい形を探っていきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域文化論
授業コード	24C25-001
教員名	福本 拓
教員コード	104126
登録人数	121
回答数	62
回答率	51.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

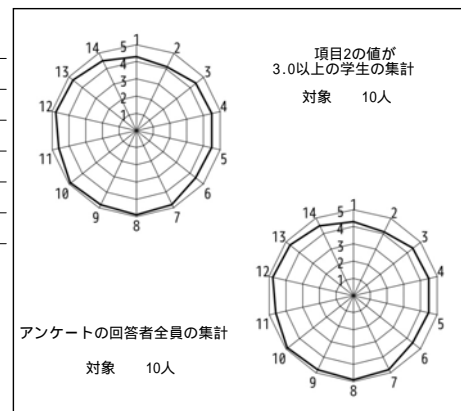
本講義においては、目標として、「『地域』と『文化』の関係についての基礎的理論について理解し説明できる」「様々な課題を抱える地域における文化の形成過程や意義について関心を高めている」「『地域文化』を相対化しつつ、自らの関わりとの中からその内実を議論することができる」の3点を掲げていた。毎回の授業のコメント（Webclassにて提出）を見ると、多様なトピックのそれぞれについて について考えを深めていることが確かめられ、全体として到達すべき水準に十分達したものと考える。また、 に関し、定期試験の解答からは、文化を地域から捉える際の基本的なキーワードを尋ねる設問で、おおむね良好な正答率であった。したがって、ほぼすべての受講者が期待される理解度に到達できたと判断する。

今年度の講義においては、Mentimeterによるオンラインアンケートシステムを随所で活用できたことで、平均を上回る満足度が示されたと考える。また、自由回答においても、画像資料の豊富さを指摘する意見が多かった。次年度も継続したい。

授業アンケートでは、全ての項目で平均を上回っており、学生にとっても好ましい講義を提供できたものと考えているが、ただし問12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」については4.53と例年より低かった。内容を消化できない恐れから、質問の受付・回答に十分に時間を割けなかったことが影響していると思われる。次年度以降の課題としたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物語・日記文学研究
授業コード	24C32-001
教員名	辻本 裕成
教員コード	019042
登録人数	11
回答数	10
回答率	90.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業について、シラバスに記載した目的は以下の通りであった。

- 1 いくつかの古典作品をある切り口から並べて読んでみるとどのようなことが見えてくるか、考えることができる。
- 2 現代とはちがった時代に於ける人間の心性を考えることができる。
- 3 古典文学を専門にやろうという人は古典文学研究の入門として授業を受け、今後の専門的研究についての指針を得ている。専門にするつもりがない人は古典文学が面白いものであることをわかっている。

アンケート結果の数値や自由記述の記載を見ると、本授業の目的はある程度達成されたものと思われる。ただし、以下の反省点がある。

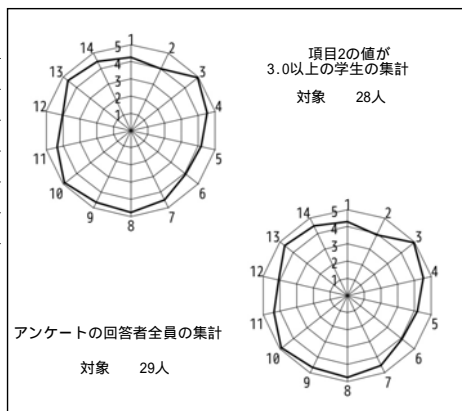
本授業は、日本文化学科二年生の必修授業と重なってしまい、受講者が非常に少なくなりました。これは大きな反省点であり、来年度よりは注意したい。

一方、怪我の功名で受講者が少なかったのも、さまざまな工夫が可能なはずであった。

講義型の授業を、討論型の授業に替えるなどの方法があったが、臨機応変に対応できず、当初から予定していたような講義型になってしまったことが工夫の足りないところであった。また隣接学問専攻の学生も受講していたので、その立場からの発言を促すなども可能であったかと思う。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語分析A
授業コード 24C50-001
教員名 初山 洋介
教員コード 041806
登録人数 36
回答数 29
回答率 80.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

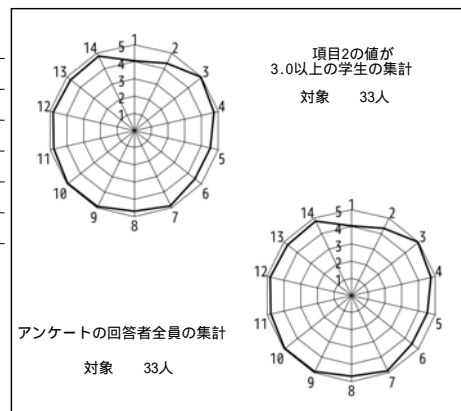


授業評価結果を踏まえた点検・評価

最終レポートを提出した受講者は、全員、開講当初設定していた目標に、十分にあるいは相当程度到達していた。講義について、「現代日本語の日常的な表現において、様々な表現に対し、具体的かつ正確にそれらの表現を分析していて、それを学生に伝えてくれた点がよかった」という意見があった。授業内容と熱心な学生の興味が合致した結果であると思われる。また、「(テキストに加え)補足資料に多数の例が挙げられていて、分かりやすかった」というコメントがあった。今後も小説・新聞などの興味深い実例を取り上げ、学生が意欲的に取り組めるようにしたい。さらに、「前回の講義での学生のコメントをまとめて、毎回取り上げていた点がよかった」という指摘もあった。これについても今後も継続したい。一方、「2時間連続の講義だったので、集中力の維持が難しかったので、授業中にも少しリラックスできる時間を設けると良かった」という意見もあった。毎時間、自分で例文の分析に取り組む時間を、10~20分程度設けたが、今後、状況が許せば、グループディスカッションの時間を設けるなどの工夫の余地があると思われる。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育史
授業コード 24C64-001
教員名 上田 崇仁
教員コード 103619
登録人数 86
回答数 33
回答率 38.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

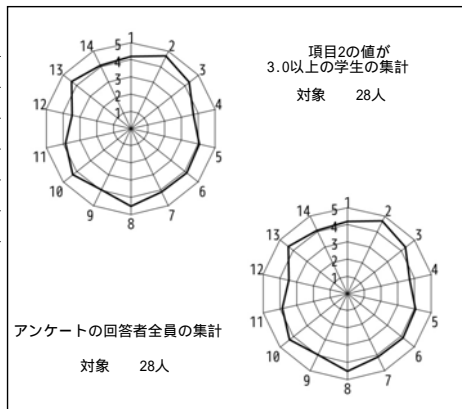
毎回の授業コメントを見る限り、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、おおむねすべての受講生が達成していると考えられる。

おおむね好意的なコメントをもらっているが、「仮に対面だとして、対面に出てくる必要性を感じない」というコメントがあった。今回、全面的なオンラインであるため、対面で予定していたものをすべて排除した形での授業構成となった。そのあたりを授業の冒頭で話す必要があったのか、と現段階でも自問自答している。動画の使用についても、もっと効果的に使えなかったのか、教員の解説を増やすべきではないかという意味での指摘があった。動画の使用に関しては、授業内でどういう位置づけで見せているか、また、動画の扱いに対する教員の考え方を解説したうえで書かれたコメントであるため、重く受け止めている。毎回の授業コメントには、原則として次の授業までに返事をすべて返すという形で、一方通行ではない授業を心掛けたが、そのコメント内でこういう指摘がもらえなかったことは、残念だった。コメントに共有すべきことがあれば次の授業で扱い、要望をもらった際もなるべく対応しており、そのことは授業で毎回話していたためである。

コメントのやり取りについては評価されているので継続したいと考えている。動画の扱いについては、オンラインであるが故、という側面もあり、その扱いについては来年度の授業形態がどうなるかを見ながら検討を重ねたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A I5
 授業コード 31A01-005
 教員名 COCHRANE, Robert
 教員コード 104483
 登録人数 28
 回答数 28
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

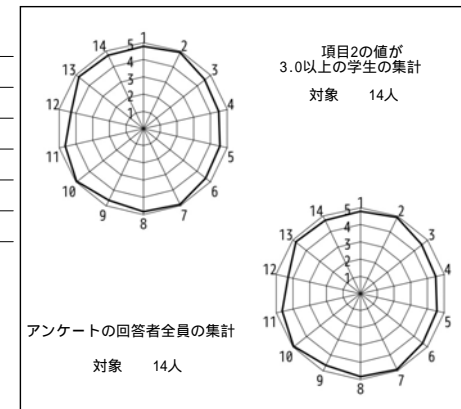


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the beginning of the class were largely achieved. As this is the students' first experience with the subject and university itself, some difficulty is expected from the students. While abundant opportunities for asking questions were presented, a few students commented that they wanted more chances to ask questions. In contrast there were numerous positive comments that there were many opportunities for questions. The positive comments outnumbered the negative comments which were largely personal preferences and subjective. The overall scores were quite high as well. With this in mind I will continue the current delivery of the course. I do not see an overwhelming necessity to make large changes. The course is challenging but students are rising to the challenge and performing as expected. Students appear to enjoy the content and curriculum mainly because it is a departure from the style of learning they previously experienced in high school. The main approach is to present students with challenging tasks where they have to manage their own time and approach to completing their assignments. The course also present opportunities to collaborate on assignments and to submit assignments on their own. This is largely successful and the program is working well as it is.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A I6
 授業コード 31A01-006
 教員名 WILSON, John
 教員コード 102696
 登録人数 27
 回答数 14
 回答率 51.9%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回

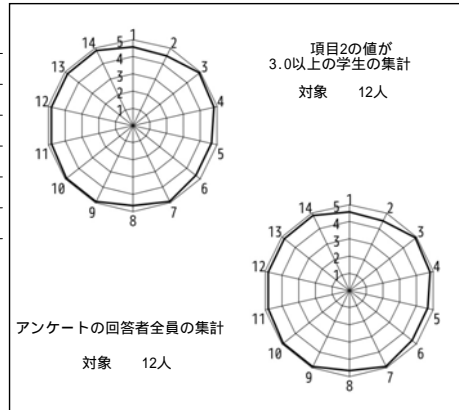


授業評価結果を踏まえた点検・評価

AEA is a very challenging course, and Eibei students are aware of this. The course goals by design are to encourage confidence in classroom English, collaboration between students on group projects and help improve the four skills; reading, writing, speaking and listening..as well as presentation. The students recognized the challenges and overall did very well, especially on presentation and writing tasks. In the comments, several students mentioned their English had improved and I noticed this as well. Myself and Cochran sensei plan to make some significant adjustments to AEA student materials and focus more on paragraph writing and critical thinking as I think this is a weakness of the course. By focusing more on paragraph writing early in quarter one, students will have more opportunity for their instructor to check their work and provide formative feedback. This adjustment will also align more with AEA students other English courses and prepare them more effectively for AEB, second year writing. Overall, I would give the class an A- as far as course lecture and delivery of information to students and an A in being available to students to answer questions, provide guidance and time for receiving assignments. Students in this course did very well and little adjustment will be needed.

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture B <国際科目群>1 (英米学科生用)
授業コード	31C07-901
教員名	PURCELL, William
教員コード	016501
登録人数	32
回答数	12
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



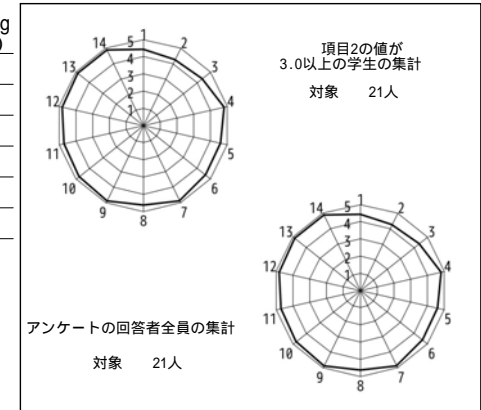
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Unfortunately, only 12 of the students registered for this course chose to answer the evaluation survey. The overall numbers indicate that the students who did take the time to do the evaluation were very satisfied with the course. Only a few students chose to offer comments to the fill-in questions. These in turn likewise suggested that these students were also satisfied with the specific aspects of the course that they chose to comment on. In particular they referred to the PowerPoint presentations as being useful. This is an aspect of the course that I take particular interest in, as I find these presentations good resources that the students can consult again after class when posted on WebClass.

Personally I was satisfied with the overall direction of the course. The students took an active interest in exploring the culture of the Igbo of Nigeria in comparison to their own Japanese culture. My primary goal in this course is to raise in the students an awareness of the peoples and cultures of the African continent. Judging from the results of their weekly essays this goal has been achieved. As usual, I will continue to refine the syllabus for this and other courses.

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language A <国際科目群>2 (英米学科生用)
授業コード	31C11-903
教員名	今井 隆夫
教員コード	104239
登録人数	25
回答数	21
回答率	84.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた複眼的な思考力の養成と英語での発信力の向上は、毎週提出してもらったフィードバックシート、最終レポートと本授業アンケート結果から、達成できたと思われます。

受講生の数値データおよび自由記述から、授業の趣旨が理解され、ほとんど全員の学生が、授業内容に満足し、学びがあったと思われます。数値データは、4.38～4.86の間に収まっており、満足度も4.86で問題ないと思われます。記述データでは、「具体的な例を挙げながら、実際に使えるような英語ばかりでとても楽しく学ぶことができた。また、ディスカッションも多く、英語を話す機会が多くて、英語を話すということにも慣れた。」「ためになること、新しい学びが多かった」「グループディスカッションが多いこと」「発言の機会が多かったこと。」「毎回違う人とグループになって話すことができたこと。」「内容が面白かった。毎回の最初に提示される熟語が興味深かった。」「様々な英語表現を知れたこと。また、英語のいろんなトピックについて考えられたこと。」「ディスカッションする時間がたくさんあったため授業内容を深めるだけでなくスピーキング能力を鍛えることもできた。」「英語の知識を深めることが出来る点」などのコメントからも当初の目標が達成できたことがわかる。

次回も今回の内容を踏襲し、さらに新しいテーマなども付け加え、現状を維持しつつ、さらに良くしていきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies D <国際科目群> 1 (英米学科生用)

授業コード 31C19-901

教員名 DORMAN, Benjamin

教員コード 100695

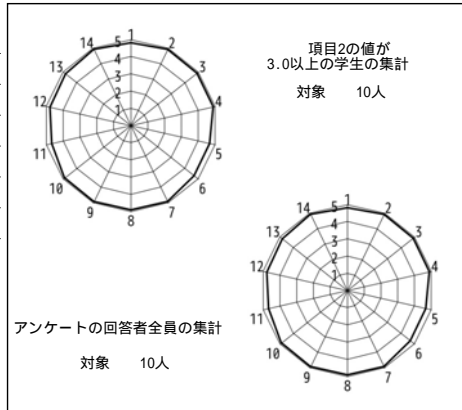
登録人数 20

回答数 10

回答率 50.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a survey course covering a wide range of topics related to diversity, equality, and indentity, including racism, sexism, ableism and (dis)ability, ageism, and LGBTQ+-related issues. It also touched on self-reflection and unconscious bias, in addition to intergenerational and interpersonal trauma. The materials included film, websites, lectures, and online articles. The goal was to engage students both individually (through recorded lectures and materials) and in group settings (weekly Zoom discussion meetings with up to 6 students). I also required students to submit 3 written assignments on the topics we discussed. This seemed to be the right amount of written work. One student indicated that although some time was required before "class time" (periods 3 and 4) (to view the materials), given that it was "on-demand" viewing, this student could adjust the schedules accordingly and so this did not cause stress. This particular point is something I am aware of - to not overburden students with too much before the class. On the other hand, this approach prepares students for the 40-minutes Zoom sessions. I will pay attention to this issues as I continue to teach.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの外交

授業コード 31E05-001

教員名 上村 直樹

教員コード 102463

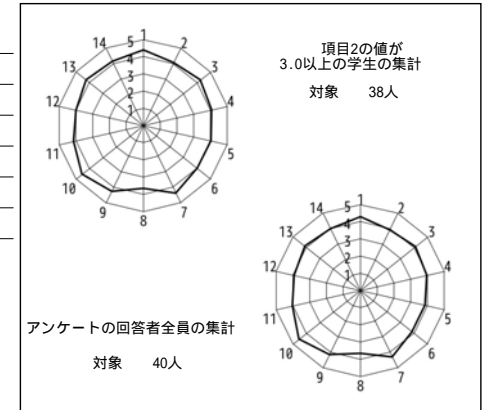
登録人数 110

回答数 40

回答率 36.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

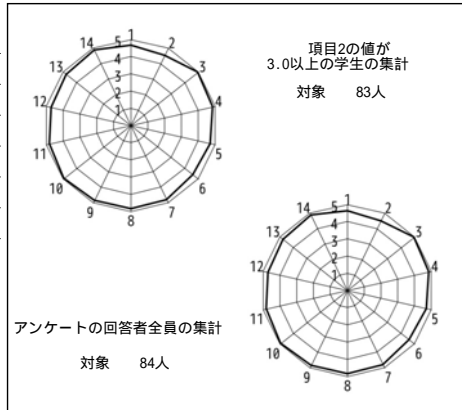


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の評価結果は、ハイブリッド授業をめぐる若干のトラブルもあってかなり低い数値も予想していたが、全体としては極端に低い評価とはならなかった。今回、初めて大教室でのハイブリッド授業を経験したが、100名以上の対面履修者と1名のオンライン参加者があり、授業のパワポやDVD等の補助教材も両方式の受講者に平等に提示できるよう努めた。しかし、視聴覚センターの助けを借りて事前の準備等にも努め、実際の授業においても何度か救援に来てもらったが、音響や映像等のトラブルによって何度か授業の開始の遅れや中断等が発生してしまった。その点は項目8の数値の3.65という低さや自由記述での指摘に端的に表れているが、項目4、12も4.0を下回ったことに見られるように、情報機器の運用に関するトラブルが授業全体を余裕のないものにしてしまったことも影響していよう。今後はハイブリッド授業に関しては、今回の経験を活かしてより適切に対応したい。また本科目の到達目標に関する項目5、6も4.0を下回る低い数値となってしまったが、今後は改めて到達目標の説明と授業内での確認をさらに丁寧な形で行っていきたい。自由記述欄にも授業のねらいやポイント等についてこちらの意図が必ずしも受講生にうまく伝わっていないと思われる記述が散見されたので、これらも参考にして授業の到達目標やねらいについてよりポイントを絞りながら丁寧な説明に努めたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間関係とコミュニケーション
授業コード	31E10-001
教員名	今井 達也
教員コード	102469
登録人数	100
回答数	84
回答率	84.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

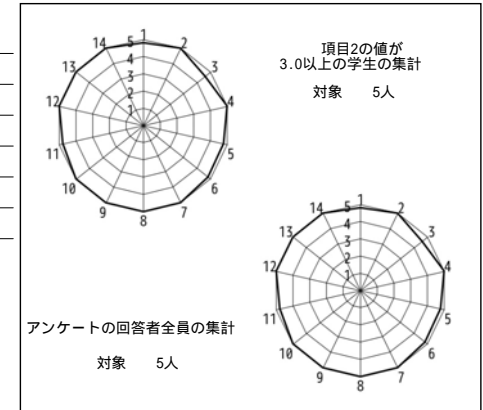
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業の目標は『コミュニケーション学の理論を理解し、それを身の周りの人間関係に応用できる』である。この授業はオンラインで行われ、それによりZoomでの話し合いが可能であった。出席も取っているので、学生は確実に学んだ内容について話し合う機会があった。話し合いは概ね活発で、当初の目標に少しでも近づいたのではないかと考える。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データは概ね良かったと感じる。『この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。』という項目が唯一低かったが、授業前のことはなかなか改善が難しい。自由記述では、留学生への配慮をもっとしてほしいと書いてあり、今後の課題となった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記にも書いたが、日本語母語話者ではない学生もいるため、そういった学生への配慮をもっとしていきたい。気軽に英語で質問できる雰囲気なども必要だと感じる。対面に戻ったとして、コロナの影響を配慮しながらどのようにディスカッションを進めていけるか、が検討課題である。引き続き工夫と努力を重ねていきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語教育特殊研究A<国際科目群>
授業コード	31E38-901
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	24
回答数	5
回答率	20.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of the course were explained clearly and were achieved.
2. The feedback about the course was very positive. I am very pleased with the effort of the students and the quality of their work.
3. I will continue to try and improve this course.

The following comments are indicative of how the students feel about the course:

英語教育に関する知識や実際の指導方法などを詳細に学ぶことができ非常に有意義な時間を過ごすことのできた講義でした。先生の生徒に寄り添ってくれる姿勢から毎講義をリラックスして受講することができました。

講義と演習のどちらも含む授業だったため、メリハリがあった。学んだことについてさらに自分たちで調べて考えを発表する場がありフィードバックを得ることもできたので、知識や考えを深めることができた。

自主的に考えるものが多かった。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語I111
授業コード	32A26-001
教員名	ESCANDON, Arturo
教員コード	102090
登録人数	19
回答数	2
回答率	10.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
 (回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

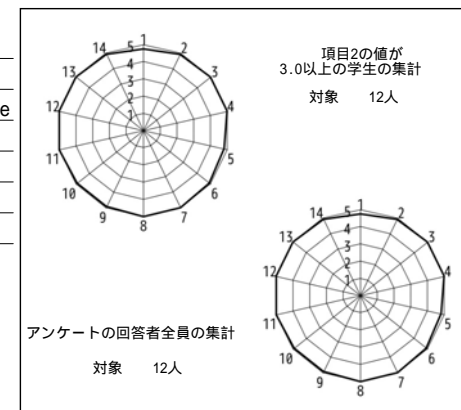
The goals and aims set for this course were met. Students approached reading materials more and more as active researchers. Texts were discussed during class. Learners interacted with one another, sharing points of view and understandings.

In terms of curriculum, this course is a continuation of 3rd year reading courses. The teacher who teaches the other group and I worked together in order to develop a similar approach toward the course. We had developed a book comprising reading materials and activities which are tuned to the level and goals set for this course.

One thing must be said: learners tend to focus on securing a job and sometimes it is hard to grasp their attention. However, toward the end of the course, most learners were concentrating and doing most of the activities in a good way. I look forward toward developing better strategies to engage learners and overcoming this obstacle.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語I112
授業コード	32A26-002
教員名	LOPEZ RODRIGUEZ, Francisco Javier
教員コード	103453
登録人数	19
回答数	12
回答率	63.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

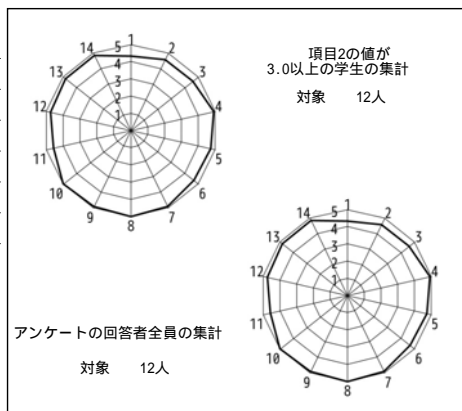
The main goals of this class are to increase the reading ability of the students, to know more about contemporary social issues, and to research about certain topics in order to share knowledge and explain ideas in Spanish. I think that these goals were achieved by most of the students. They were able to read complex texts in Spanish, they had discussions about present topics, and they delivered well-prepared presentations. I am satisfied with the effort and learning of my students.

According to the scores and comments from the students, I believe that they were also pleased with this class and my performance as an instructor. They said that my explanations were easy to understand, they liked the structure of the classes, and they appreciated the resources and materials that I shared on WebClass, such as links to videos or the PowerPoint files used in class.

The next time I teach this class I would like to include some improvements, such as offering students extra materials so they can practice by themselves, delivering written comments with feedback about their performance in the tasks, and offering them more freedom to choose the topics we read and discuss about in class.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語翻訳法I
 授業コード 32D10-001
 教員名 小阪 知弘
 教員コード 103689
 登録人数 12
 回答数 12
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

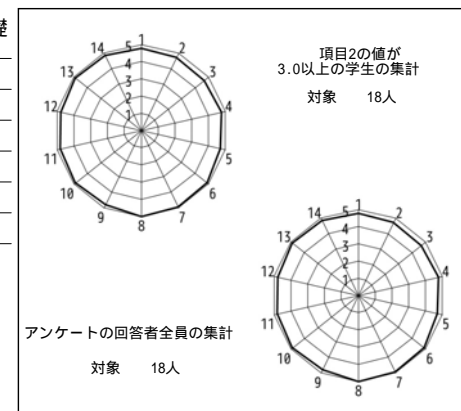
開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、予定していた作品を全て読み切ることができ、中級文法的な説明と同時に、翻訳理論の基本事項を扱うことができ、ひとつの作品に対して複数の翻訳を読むこともできたので、設定していた目標と到達をある程度達成できたと判断している。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、最低でも4.33であり、今回は5.00も獲得でき、自由記述も「小阪先生の持つ海外での経験や、先生の訳した文を読んだりすることが出来てよい授業でした」や、「授業で配られたプリント内の話だけではなく、日常的に使われるスペイン語などの豆知識も教えて貰えた点」が良かったなど、総合的に高評価を得ることができたので、うまく講義が展開できたと自負している。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、今後も一作品に関して、複数の翻訳を読みながら、文法事項と翻訳理論を平行させて講義を展開させていく予定である。また、散文だけでなく、詩作品の翻訳も扱いたいと考えている。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語コミュニケーションの基礎
 13
 授業コード 33A01-003
 教員名 COURRON, David
 教員コード 019026
 登録人数 19
 回答数 18
 回答率 94.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French reading through both oral and written exercises, with a particular attention given to spelling, pronunciation, intonation and acquisition of phonological patterns.

2. Degree of achievement of initial course objectives

This quarter, despite any previous knowledge of French by any, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them acquired the basics necessary to read French. Many valued the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also about what was not in the textbook and the many chances they were granted to study over and over through homework.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials such as songs to practice. Though I do my best to stick to the clock, I shall never refrain from adding a couple of minutes if needed to complete a class activity whereas I allow each student to leave when the chime rings if he/she has other classes or duties.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IB1
授業コード	33A14-001
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	18
回答数	3
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives of the course were, in interactive learning mode, to teach students to communicate in French based on the lessons of the "Season 2" method book, to be able to express feelings and opinions, to search for information in the internet.

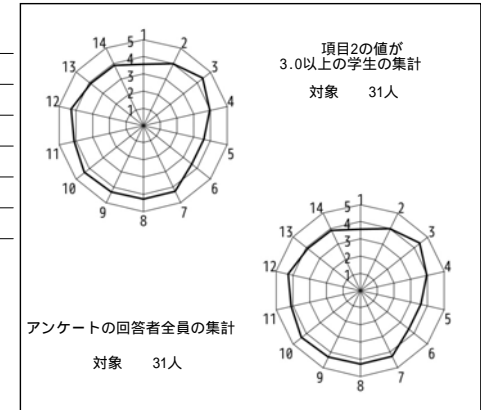
To do this, students must: 1. learn the vocabulary and the verbs offered to them (with weekly test), 2. prepare homework and practice alone for reading and pronunciation (every week), 3. participate orally in the course, ask questions, etc. I also offer them authentic and current documents through web pages, as well as listening to songs containing important cultural elements.

Despite repeated recommendations, a significant portion of students do little or no preparation. Because of this, we often do during class time some of the work that should have been done at home. It allows students to better understand how they can work better at home later.

After this learning, students will be able to: read simple texts (web, media, mail, etc.), express ideas or needs of everyday life (transport, housing, meals, activities and timetable), understand the way of life of the French (culture and society) and their culture (song, cinema).

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの思想
授業コード	33A22-001
教員名	平田 周
教員コード	103583
登録人数	96
回答数	31
回答率	32.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

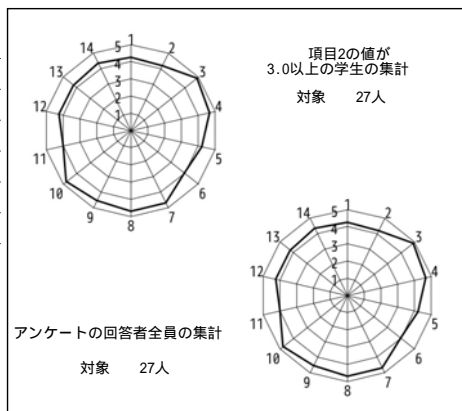
開講当初は、より多くのテーマを扱うことを想定していたが、初回時に哲学に関する受講者のアンケートをとったところ、知識、関心、意欲にばらつきがあることがわかり、こちらで用意していた内容をより易くするように心がけた。

その結果は、自由記述等(設問15)のレジюмеに関する評価などに読み取れるのかもしれない。項目16などには、一見心ないように思えるコメントが見られるが、ほぼ毎回課した講義後の簡単なアンケートに対する学生の回答の多くは、授業内容に関する十分な理解力を発揮しているように思われる。

哲学や思想の入門講義はいかにテキストを自主的に読むことができる学生を増やせるかが大事な目標であるように思われる。レジюмеで示した引用箇所を確認するレベルから始めて、学生自身が著作の一節、一章、最終的には一冊読む経験が積めるよう努力したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アカデミックフランス語12
授業コード 33A27-002
教員名 真野 倫平
教員コード 100083
登録人数 31
回答数 27
回答率 87.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

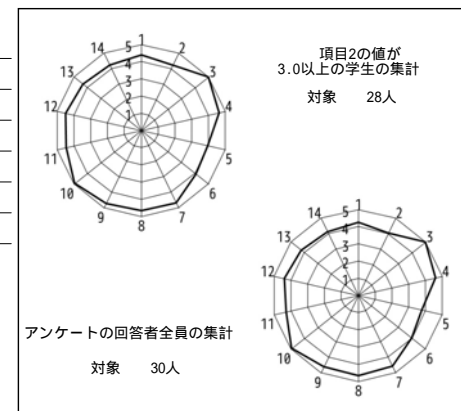


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義はフランス学科フランス文化専攻の3年次生を対象とする学科必修科目である。フランス語で書かれたアカデミックな文章を読解し、学术论文で使用される用語の調べ方を身に付けることを目的とする。テキストには歴史家イヴァン・ジャブロンカの自伝的エッセー『キャンピングカー』（2019）を使用した。授業方法としては、事前に履修生に課題テキストの日本語訳を提出させ、授業において教員がそれにコメントしながら訳例を示すという形式を取った。登録者数はフランス文化専攻所属の31名であった。目標と到達の程度については、提出物から判断するかぎり、多くの学生が学術的な文章の読解に慣れ、翻訳の技術にも習熟してきたように思う。総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均が4.41であり、大学の全体平均をやや下回った。個々の質問では11、12、13などの点数がやや低く、学生の意欲を引き出す工夫がやや不足していたように思われる。今後の改善点については、自由記述欄にも学生からの機会を増やしてほしいという意見があったので、今後はより議論の機会を設けるなど双方向的な授業をするよう心掛けたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語圏研究
授業コード 33C10-001
教員名 吉澤 英樹
教員コード 103584
登録人数 45
回答数 30
回答率 66.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

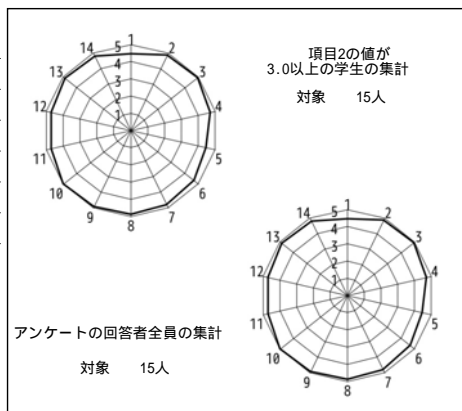


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで明記しているように、フランス語圏の成立と現況について理解し、現在抱えている問題について学生が自分なりの意見をもてるようにすることを目標とした。また「研究」と名打っている講座のため、毎回の課題において前もって教員の答えを提示したり、誘導したりすることを取らなかった。この点が学生によっては自身で考えるトレーニングとなったとして高く評価する学生がいた反面、やや難しい課題のように感じた学生もいたように見受けられた。それが「目標」に関する項目で4切るを平均値となった原因と考えられる。それゆえ各回の授業目標の到達度に関しては学生間でばらつきがあった。ただし期末レポートに関しては良いものが多かった。久々の全面対面ということもあり、意気込みから内容を少し詰め込みすぎたきらいがあった。それらが原因で授業進度が早く感じた学生もいた。そこから授業の到達目標についてこれない学生が出てしまったことは改善すべき点だと感じた。世界中のフランス語圏の現況についてのアップデートは必要であるが、来季はより多くの学生の積極的な参加を促すために情報量を絞ってよりシンプルな構成にすることを試みたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級講読A
授業コード	34C01-001
教員名	中屋 宏隆
教員コード	102885
登録人数	16
回答数	15
回答率	93.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

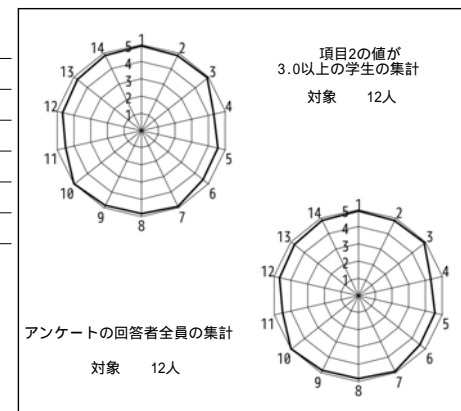


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
 目標は、中級レベルのドイツ語のテキストの内容理解ができることに設定した。
 到達の程度は、アンケート結果からもわかるように概ね達成できたと言える。
 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
 項目1～14は4.78、項目3～14は4.79で、ともに比較的高い結果が出た。ある程度学生目線で授業を実施結果である。
 自由記述でも「やればやる分だけ、理解できるようになった。」「長文の読み方がよく分かった。難しい文章を読むときの解説が分かりやすかった。」「小テストや暗唱テストが多くて大変だったが、確実に自分の身に付いたので受講して良かったと思います。」「文法の説明がわかりやすかった。」「ドイツ語の必修の授業ではあまりじっくり読むことをしなかったのととてもいい経験になりました。」「今までに読んだことのないようなレベルの高いドイツ語の文章を読んで、単語の意味や文法などの細かいところまで学べた点」など、どれも肯定的な意見を得ることができた。
 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 改善点としては、設問1と設問5は少し結果が低めなので、何かしたら改善方法を模索したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語1語法1
授業コード	35A07-001
教員名	鈴木 史己
教員コード	103651
登録人数	21
回答数	12
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

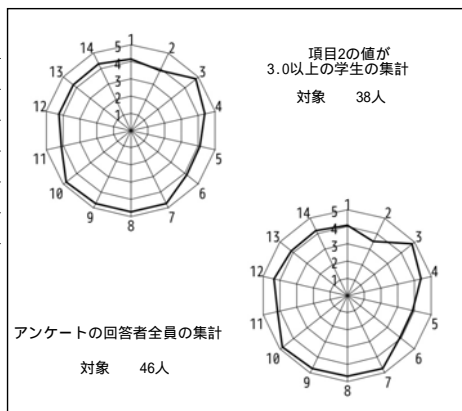


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
 本科目の目標は、1年次に学習した基本的な文法事項の理解の上に立ち、様々な語句や構文の機能について、その使用の実際に即して学習し、読解や作文の基礎ともなる学力をいっそう向上させることである。日本語表現と中国語表現の相違を手がかりとして既習の文法事項を捉えなおしたことで、より実践的な中国語表現力を身につけることができた。一方で、後述のように扱った内容が多かったため、消化不良になっている受講生も見られた。
 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
 数値データはおおむね高い評価が得られているが、個別にみると進度が早かったとの評価・意見が散見された。扱う内容は確かに多いが、今後のカリキュラムを考えるとこの進度には一定の理由が認められるため、授業ではできるだけ効率的に学習を進めることに注力した。肯定的なコメントが見られたスライド資料の活用や2コマ連続授業をふまえた時間配分は授業運営の工夫の一つであり、一定の効果があったと考えている。
 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
 進度と課題のあり方を改善していきたい。また、自由記述で指摘のあったホワイトボードの見づらさについても留意したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国社会研究
授業コード	35C15-001
教員名	江口 伸吾
教員コード	104423
登録人数	61
回答数	46
回答率	75.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 本授業は、中国理解の前提としての日中関係の推移を理解することができる、中国の政治社会を多角的、複眼的、構造的に考察することができる、等身大の中国社会を観察することができることを掲げた。本授業を通して、開講当初の目標は、おおむね達成できたのではないかと判断している。

(2) 数値データ、および自由記述をみる限り、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくに授業では中国社会の構造的特徴を多角的に考察することに加えて、新聞資料を参考資料として配布し、現代中国の新しい変化に目を向けさせるとともに、リアクションペーパーを通して受講生の意見を講義に反映させ、受講生の現代中国への関心を高めるよう心がけた。この結果、授業の良い点として「多面的に中国社会における様々な問題を紹介した」「リアクションペーパーにより前回の復習をし、新聞を紹介してくれて、学習意欲を促してくれた」といった意見が寄せられた。

(3) 改善した方が良いと感じた点として「内容が少し難しい」「動画も混ぜて説明して欲しい」といった意見も寄せられた。今後、新聞だけでなく、動画なども加えて紹介することにより、学生の現代中国社会への関心をさらに高められるよう工夫してまいりたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(国際)A2
授業コード	40C06-002
教員名	賈多 康弘
教員コード	100751
登録人数	13
回答数	4
回答率	30.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

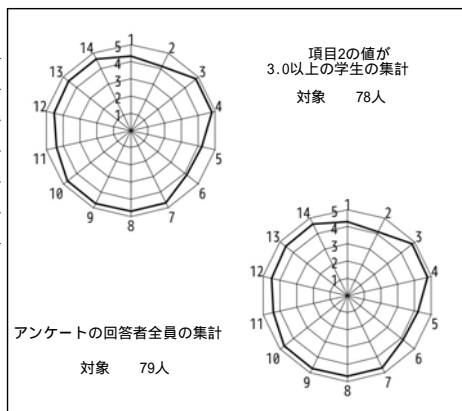
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、経済学部の選択科目で外国語科目に相当する授業で、今回で3回目の授業評価を受けた。世界的に有名な国際貿易の最新の英文テキストを用いて、学生に担当箇所を割り当て、各自で日本語ではなく、すべて英語でレジュメを作成してもらい、発表してもらおう形式である。今回は初回から対面で、少人数なので対面で議論が深まった。目標はほぼ達成できた。学生の評価は全般に高かったが、担当者が前で解説をする講義ではない、対面の少人数授業で、議論の進め方に慣れていない学生もいたようで、授業のやり方を理解していただけなかった点もあった。オンライン授業ばかりを受講した学生には、対面での大学の少人数授業に戸惑いがあったのかもしれない。今回の受講生は毎回一人の報告ができる程度の人数であったため、一つ一つの割り当て箇所を丁寧に進めることができた。テキストの内容は高度なものも含まれており、最新の経済動向も事例が掲載されているので、学生には難しく感じるかもしれない。そこで、私の方で補足説明を丁寧に行った。発表者以外は、質問やコメントを確実にするように加点方式として、多くの質問やコメントが出て、議論が盛り上がった。少人数だからこそできたのかもしれない。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	金融論A
授業コード	40D28-001
教員名	都築 栄司
教員コード	103265
登録人数	199
回答数	79
回答率	39.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初に予定していた講義内容は過不足なく扱うことができた。また、中間・期末テストの結果から、大半の受講生が当初予定していた到達目標に到達できていることがうかがえた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

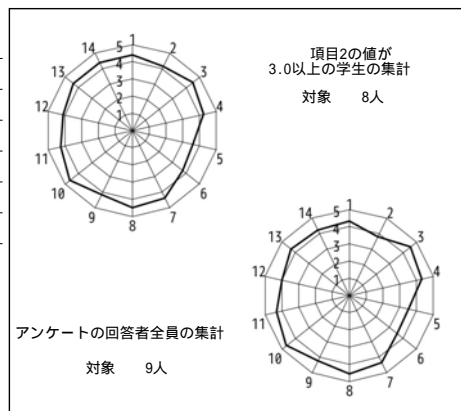
この科目の受講には若干の数学に関する知識が要求されるため、数学を用いた議論が苦にならない人とそれを苦手とする人とで、理解の速さに差が出ることは仕方がない。この点については、シラバスや初回のガイダンスで十分にアナウンスしている。

毎時限、理解度の確認のための練習問題を配布しているが、授業内で解説をするだけでなく、各自で自習ができるよう、煩雑にならない程度に、講義資料に幾分詳細な説明を含めるなどの工夫もしている。これは好評のようなので続けていきたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
債券等の金融商品の実際の購入方法などについて知りたかったとの意見があった。確かに、この講義では実践的な話をする機会は少なかった。そのような内容は、金融論Bの方で幾分詳しく論じる予定である。しかし吸収した知識を応用して実際に身の回りの問題解決に役立てる力を磨くことは、学問の習得におけるもっとも大きな意義の1つであると思われるので、今後は本科目でもそのような内容を充実させていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	産業組織論B
授業コード	40D37-001
教員名	上田 薫
教員コード	016832
登録人数	39
回答数	9
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



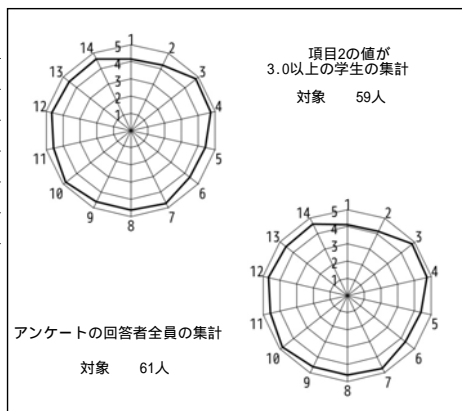
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は企業の価格戦略・品質戦略とその意義について基本的な論点を理解し、現実の企業行動に適用できるようになることを学修目標としている。消費者理論、企業理論、余剰分析の入門的知識の概説を行なったうえで、様々な価格戦略について不完全情報の経済学の基本的知識を用いつつ理解していくという構成である。数年ぶりに担当することになったことから昨年度講義ノートの記述を全面的に書き直したが、今年度も改めて増補改訂を行っている。昨年に続いての開講であったため受講生数が40名に満たない規模となった。このため各学生に目配りのきいた授業が可能になったように思う。設問3、8、10の平均値のいずれも4.5を超えていることに、その影響が表れているのではないかと。設問11、13、14の平均値がいずれも4.2を上回っていることから、学生の満足度についても概ね良好であったと考える。特に設問13の平均値4.33は、新しい知識を得られたと感じる学生が多かったことを示しており、手ごたえを感じている。

平均値が最低だったのは設問5、設問6であり、3.56という他の質問項目に比して著しく低い数字になっている。入門のミクロ・マクロでは扱わないような理論を含んでいることで、理解が困難な点があったかもしれない。授業内容の全面改訂後2回目の授業ということもあって説明のわかりやすさ等には改善の余地が残っており、今後の課題である。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域経済学A
 授業コード 40D40-001
 教員名 相浦 洋志
 教員コード 103642
 登録人数 111
 回答数 61
 回答率 55.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



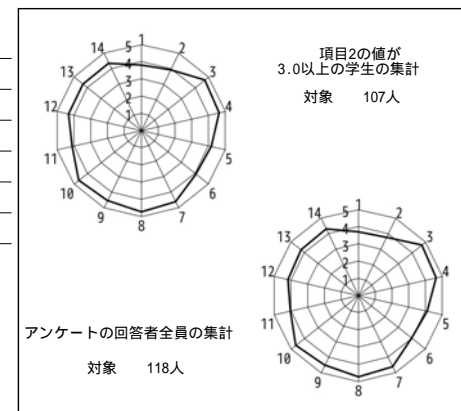
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では地域が発展・衰退するメカニズムを理論的に解説し、その理論が現実に沿ったものであるのかを中小企業庁が選定する"がんばる商店街"の取り組みを実例としてグループワークを通じた検証を行っている。本講義の特色は、学生が主体的な学習を行えるようグループワークを取り入れていることである。この取り組みは受講生にはおおむね好評で、アンケートでは全項目について平均よりも高評価を得られた。特に、"積極的な授業参加や自主的な学習を促すため指導"では、30名以下の講義の平均値とほぼ同じであり、グループワークが効果が表れた結果だと思われる。また、知識の習得についても期末試験で大部分の学生が基準以上の知識の得ていることを確認できた。

ただ、別途グループワークのアンケートを行ったところ、グループワークに負担感について受講者間で差があり、それについての適切な評価が行えていないことが分かった。そのため、グループワークの評価についてもうひと工夫する余地があると思われる。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋経済史A
 授業コード 40D60-001
 教員名 梅垣 宏嗣
 教員コード 102397
 登録人数 278
 回答数 118
 回答率 42.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

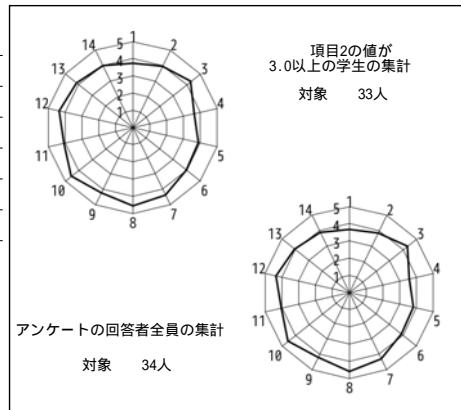


授業評価結果を踏まえた点検・評価

歴史（歴史学）上の特定のテーマに関する諸学説を紹介し、歴史（歴史学）に対する受講生の理解を深めるとともに、個人間・国家間の格差、環境問題、人口問題、ジェンダーギャップ等の、いわゆるSDGsに関連する諸問題の歴史的背景を紹介し、受講生が、現代的な課題を歴史的な文脈に位置づけて議論できるようになることを目指した。そして、成績評価の対象となるレポート課題の内容を見る限りでは、半数以上の受講生は、こうした授業の意図を理解した上で自説を展開しており、授業目標に到達したと言える。しかし、そもそも授業内容を理解していない（おそらく、そもそも授業に参加していない）受講生も少なからず存在した。授業評価のデータ等に関しては、とりたてて問題視する点はなかったものと考えられる。ただし、履修者数に対して、毎回実施してきた（成績評価対象外の）確認テストを提出した受講生の人数が少なく、授業への参加意欲の高くない層への働きかけが今後の課題となる。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学史A
授業コード	40D66-001
教員名	荒井 智行
教員コード	104493
登録人数	79
回答数	34
回答率	43.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

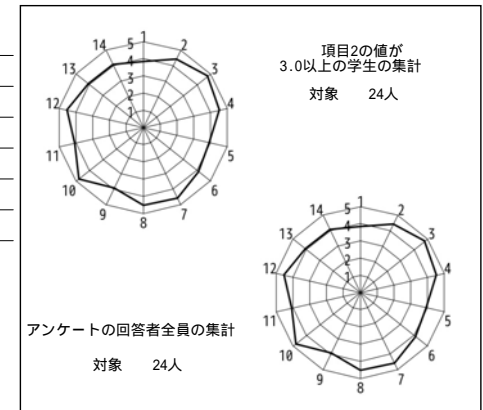
については概ね達成できたが、もう少し講義内容の分量を少なくする必要性もあると考えた。講義準備する立場からは、量が多いということはそれだけ準備する時間も労力もかかることになるが、今後は、各内容の分量について見直したい。

については、受講生がこの授業の達成度につながるよう、毎回の講義で授業後に復習用の配布資料を配布するなど、講義準備に尽力したが、授業の構成や進行速度についてのアンケート項目での結果を重く考えたい。また、授業中に、小テストを設けるなどして、理解度を深めるための工夫も必要であると感じた。

についてだが、受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。アンケートを行った受講生の数が少なかったのが残念であった。また、他の先生方にも、授業の仕方についてお尋ねしながら、いっそうの授業準備に努めたい。そのほか、の中でも触れたように、講義中に、小まとめや小テストを多く増やしていくことも検討したい。その場合、シラバスに14回分の内容を記すことになるが、小まとめや小テストを設けることも、シラバス内の「その他」や初回のガイダンスで説明することにした。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	市場の経済学A
授業コード	40D72-001
教員名	赤星 立
教員コード	103866
登録人数	46
回答数	24
回答率	52.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義で学生に課していた目標は次の3点である。(1)複数財の消費問題を理解し、需要曲線が消費者の行動の帰結として導かれることを理解する。(2)「消費者の理論の応用」として扱われる複数のトピックスについて(何も見ずに)講義できる。(3)(エッジワースボックスにおいて)厚生経済学の第1定理について説明できる。

初回授業では授業の目的を明確にするための講義を行った。また、1年次必修科目「ミクロ経済学」との整合性を保つことを心がけ、市場の役割を解き明かすために1から丁寧に説明を行った。

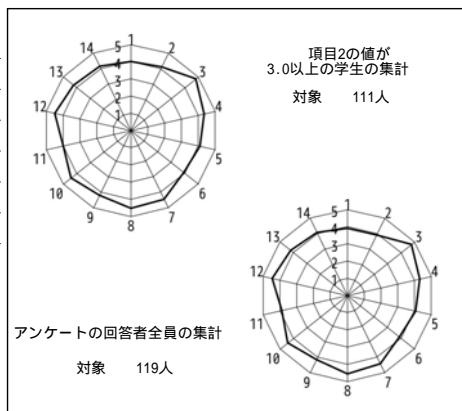
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

履修登録者数46名のうち24名の学生が回答してくれているが、毎回の講義出席者は30名程度であったことに鑑みると、実際の受講者の大半が回答してくれたことになる。評価については概ね満足している。どの項目についても高い評価がなされている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後も学生が経済学に興味を持ってくれるように改善していきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A / Economics A
授業コード	48C28-001
教員名	宮崎 浩伸
教員コード	101892
登録人数	187
回答数	119
回答率	63.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

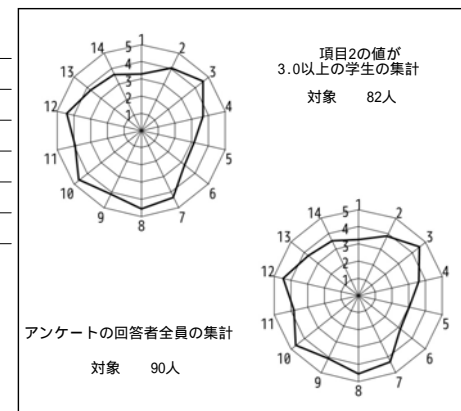
今回の授業評価結果は、設問1～14の平均値が4.22、設問3～14の平均値は4.27であった。この結果は、今までの授業評価と比べても最も悪い結果であり、たいへん残念に思う。

自分としては、開講当初に設定していた目標を達成することはほぼできたように思う。しかしながら、今年度はオンライン授業で履修学生が189名と非常に多くなったため、国際教養学部でのアクティブ・ラーニング形式の授業を行うのが難しくなり、また、学生からの要望も様々であり、意見の集約が困難であった。もう少し様子を見て、今後もこのような状況が続くようであれば、授業運営方法を見直し、大幅に改善していきたい。

自由記述欄では、チャットで質問を受け付け、その場で回答した点について、好意的な意見が多くあったので、今後も継続していきたいと考えている。一方、改善点として、オンラインテストに対していくつか意見があったが、この点については私の設定ミスであり、大いに反省している。テスト後も履修学生には謝罪し、状況を説明したが、一部には納得できない学生がいたようで申し訳なく思う。開講主体の学科長にも相談・報告したが、今後はこのようなミスの再発防止に努めていきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学I2
授業コード	42B01-002
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	141
回答数	90
回答率	63.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

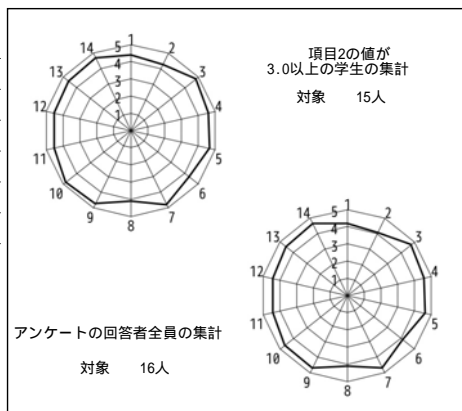
今年も授業目標を以下のように設定した。

1. 確率変数の定義や性質が分かる。
2. 正規分布の性質が分かる、また正規分布表が使える。
3. 正規分布からの標本平均の分布が分かる、また正規分布を用いた区間推定が分かる。

例年通り、履修者の基礎知識の差が大きかった。問1からもわかるように、授業に対する興味が非常に低かった。このため、多くの時間を質疑応答に割くように努力した。自由記述や項目、この影響が項目は設問7,12の中央値が5であることから、一定の効果があったとみられる。全体的に評価が下がった原因は5,6にある。13の評価が全体評価よりも低いことから、理解は深まったと感じる一方で到達目標がわからないために7,12の評価が下がったと思われる。以上の分析を踏まえると、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、この授業目標を再確認しながら授業を進め、到達目標が身についたかどうかを自覚できるような創意工夫をほどこすことを検討する。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論I
授業コード 42B05-001
教員名 池田 亮一
教員コード 101880
登録人数 50
回答数 16
回答率 32.0%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

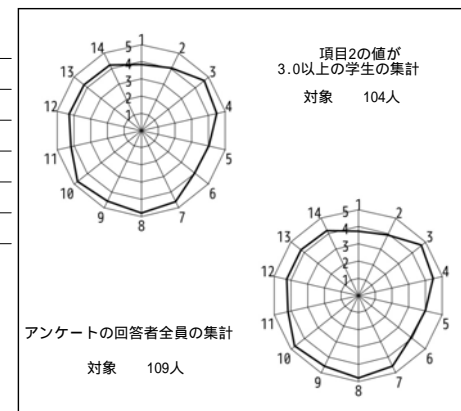
到達目標は

1. 財やサービスの価格や消費量がどのように決定されているかを論ずることができるようになる。
2. ナッシュ均衡、パレート優位・劣位などゲーム理論の基礎概念を論ずることができるようになる。

であり、それを直接的に論述する試験問題を出題したが概ね良い出来であり、受講者には講義の要点が伝わっていたように思われた。受講生は昨年度の2倍程に膨れ上がったが、授業評価の点数は例年になく高くなっていたのが驚きであった。理論的ではあるが数学に頼らない説明を、例を多用して丁寧に行い、経済学の基礎の本質を伝える授業を例年心がけてきたつもりで、ここ数年は授業評価の対象とならずにいたので学生がどのような評価をしているか不安であったが、コメントも好評であり授業のコンセプトは成功していると考えている。わかりにくそうなところを学生に確認しながら授業を進めていることも、熱心に聞こうとしている学生にとっては都合がいいようで、今後もこのスタイルを継続していきたいと思う。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営史A
授業コード 42C15-001
教員名 中島 裕喜
教員コード 103065
登録人数 250
回答数 109
回答率 43.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問項目 8：授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は「どちらとも言えない」を選択してください、が4.80ということで高い評価を得ている。本講義は完全オンラインで行われたため、なるべく丁寧に話すように心がけたつもりである。またリアルタイムで参加できなかった学生向けにはビデオ映像を1週間見られるように配慮した。この点は設問7、担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたので4.57だったことに現れていると思う。毎回のことであるが、設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか、は3.75と低い。経営学部で歴史の科目を教えることの難しさが現れており正直なところ仕方がない面もあると感じている。シラバスの記述などを工夫することで、より多くの学生の関心をひけるように努力したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	デリバティブ
授業コード	42C33-001
教員名	赤壁 弘康
教員コード	100788
登録人数	10
回答数	2
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

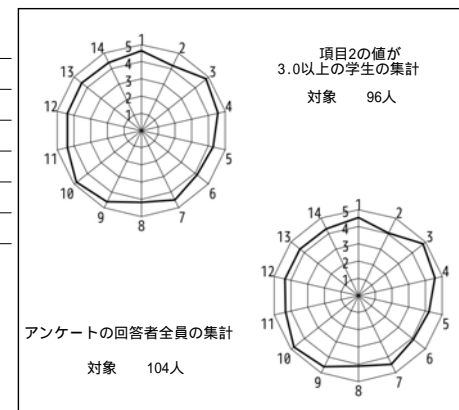
例年同様応用である信用リスクとクレジット・デリバティブは講義できなかったが、ファイナンスAの復習（ファイナンス関連の講義を始めて受講する受講生もいたため）を含め、その他は予定していた講義内容はすべて講義できた。

最終的な受講生は10名の小規模クラスである。うち授業アンケート回答者は2名であった。例年通り、講義資料はWebClass経由でダウンロードできるように、受講生に配慮した。ほぼ毎回受講生にはリアクションペーパーを配布し、時間中に講義内容に即した練習問題を解答させるなどした。練習問題の多くは公認会計士試験や証券アナリスト試験の過去問題を改題したものを採用し、講義時間中に模範解答を示したが、それでも、質問もしない代わりに問題にどのようにアプローチすればよいか戸惑う受講生も見受けられた。このリアクションペーパーと、クォータ末に提出してもらった最終レポートを総合的に勘案し、成績評価した。14回の講義の出席が良い受講生は、概ね良い成績で単位を修得している。一方で、講義内容がやや技術的・専門的であるため、当初から、あるいは途中で断念した受講生（過年度生や経営学部外の受講生など）も若干いた。

「計算時間を長めに設定してほしい」という自由記述との経験を踏まえ、次年度に向け改善を図りたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	消費者行動論
授業コード	42C34-001
教員名	石垣 智徳
教員コード	101889
登録人数	280
回答数	104
回答率	37.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



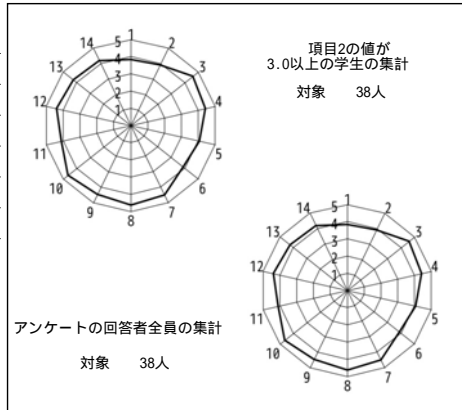
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の設定した目標は、消費者の行動に関する理論的枠組みを用いて様々なマーケティング現象を解釈できるようになることとそのプロセスを経て適切な戦略を策定できるようになることである。到達度としては、購買意思決定プロセスの全体像、その理論的背景である消費者の情報処理プロセスなどの基本概念を講義で理解するとともにほぼ毎回の簡単な課題によって自分の考えをアウトプットすることで目標に近づくことを想定している。

最終レポートから判断すると全員が到達目標に達しているとは言えないが、6割以上の学生が、目標を達成できて言えると判断している。しかし、アンケート調査の結果、「この授業の到達目標を理解することができましたか。」という設問が、4.09であり、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」の設問の4.01に次いで低く、もう少し丁寧に到達目標を説明すべきであったと反省している。すべての項目については、4点以上であり、全体評価（設問14）は4.29であるのである程度は評価されていると認識できた。時期以降に向けての改善点については、授業中に学生が主体的な学習をするための外部情報の手提供や演習（宿題）をする際の例題が少ないことが理解の乏しい学生を生じさせているかもしれないため、さらに演習を増やすつもりである。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外部監査論
授業コード	42C39-001
教員名	安田 忍
教員コード	101561
登録人数	85
回答数	38
回答率	44.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

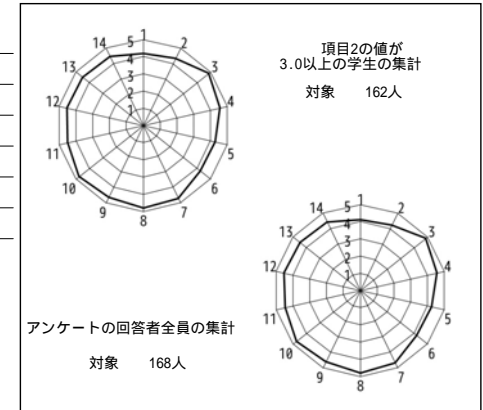


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、財務諸表監査の全体像（監査目的、実施プロセス、監査報告）について学習し、財務諸表監査の基本的な枠組みを理解すること、監査基準の内容を理解すること、監査が直面する課題を考えることを目標としている。アンケート結果では、設問6（授業の到達目標に向けて力がついてきていると思っているかどうか）が3.87であったので、4点台になるようにしたい。授業では、到達目標の一つとして掲げている監査の直面する課題について、近年の不正会計事例に関連付けた内容としては理解してくれたようであるが、それ以外については監査基準の近年における内容の改訂に絡めて触れる程度しかできなかった。到達目標の見直しまたは授業内容の見直しを図っていく必要がある。来年度は見直しをしたい。今年度は、出席状況が良かったためか、もしくは、復習問題を丁寧に取り入れた成果かもしれないが、定期試験での成績のばらつきがそれほど激しくなく、学生の評価ではそれほどでもなかったが、担当者としては授業の到達目標は達成できていたように思う。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法と経済学
授業コード	42E08-001
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	376
回答数	168
回答率	44.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げている「学生の到達目標」は「法制度のメリットとデメリットを経済学的に評価できるようになること」および「法制度のあるべき姿を考える際に、経済学的な発想ができるようになること」である。4回の小レポートおよび期末レポートの出来ぐあいから、この目標にある程度到達した者が受講生のほとんどを占めていると自己評価している。

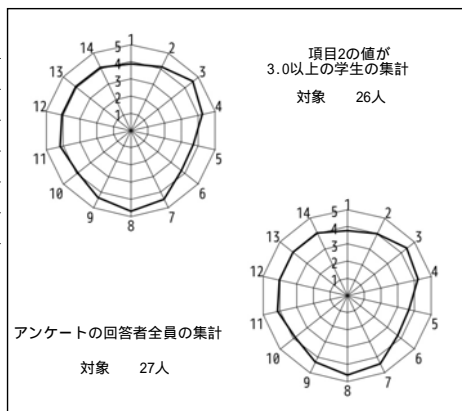
設問14（総合的な満足度）の平均値は4.43で、受講者数241名以上科目の平均値4.54を下回ったものの、経営科目の平均4.15は上回っており、まずまずの授業運営ができたのではないと思う。また、全168件中61件に設問15（良かった点についての自由記述）の回答があり、口頭での説明、板書、教材などについて肯定的な評価がなされた。

設問16（改善してほしい点についての自由記述）については、「経済学で用いる記号の意味を都度都度伝えて欲しかった」といったものが数件あった。記号を断りなく用いたことは一度もないし、「経済学の基礎知識」と題した補助教材も配布していたが、それでは物足りなかったようである。

その他）設問で1を付ける学生に限って自由記述が何もなく、こちらとしては理由がわからず改善のしようがない。とくに、設問7「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」に理由もなく1を付けられてしまうとつらいものがある。1を付ける際には必ずその理由を述べていただくよう、システムを変更することはできないのであろうか。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	職業指導
授業コード	42F09-001
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	91
回答数	27
回答率	29.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目としてキャリア教育を担う教員志望者を対象とし講義計画を立てている。例年、教職課程の履修者は限られるため、他の受講者が卒業後の人生設計への興味を持てるようキャリアの多様な見方を習得し、今日的な話題に関心をもつことを到達目標の1つに掲げてきた。本年度は例年に比べ4割ほど履修者が多かったものの、評価結果から受講者の関心や講義内容の習熟度の二極化が示唆される。

過年度との比較で数値による評価は低調だった。データシートから数名による極端な低評価を窺い知ることができた。低評価だった項目は当初の関心、到達目標への理解、私語などであった。これらはいずれも初回授業とアンケート実施前に口頭、レジュメで説明した内容であった。他方、自由記述欄では過年度より肯定的な意見が散見された。「内容が非常に興味深い。資料が充実している。課題である講義メモに取り組むことで、授業への理解がより深まるとともに授業で得た知識をアウトプットに繋げることが出来た」「様々な視点からの授業を聞くことができてたのしかった。」「毎回の課題で、思考力を鍛えることができた。」などの回答も寄せられた。

前年度の反省を踏まえ、アンケートの予告を行い回答の機会を授業内で2度設けたものの回答率は伸び悩んだ。引き続き回答数向上への工夫を検討する。また講義計画の基本を堅持しつつ、視聴覚教材や配布資料の拡充に励みたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	International Management A <国際科目群>
授業コード	42G17-901
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	7
回答数	4
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

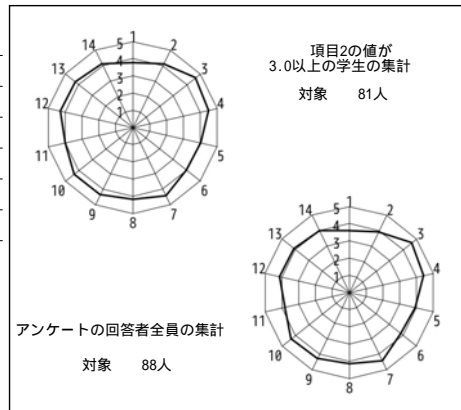
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, is to help students understand a range of complex factors that underlie operation and management in multinational corporations (MNCs). As planned, I took fourteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. This year, this course was conducted face-to-face. The number of students' registration was ten, three withdrew, and the remaining seven attended the classes. On the day of the course evaluation, six students were present. In the course evaluation report that I received, there was no radar chart and results were not collated because of only four or fewer responses. Consequently, it is not possible this year to make any statistical responses regarding "participation in the class" (Q1 to Q2), "evaluation of the course in general" (Q3 to Q7), "evaluation of the class management" (Q8 to Q12), and "overall evaluation" (Q13 to Q14). In 2021, compared with the other courses in this band, the score of this course was very high. As to "overall impression of the course" (Q15 to Q17), the students made some comments on Q15 「この授業の良かった点、評価できること」, which I added here directly: 「質問の機会が十分に用意されていた点、教科書とは別に要点をまとめた先生手作りのノートがあったこと、教科書をわかりやすく解説してくれること、先生がやさしいこと」. However, at this moment, it seems to me that the course contents, study materials, and class delivering styles are very sound. I would like to introduce some new features in most of the course contents. Finally, I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming year.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳4
 授業コード 10D04-004
 教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
 教員コード 101180
 登録人数 186
 回答数 88
 回答率 47.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

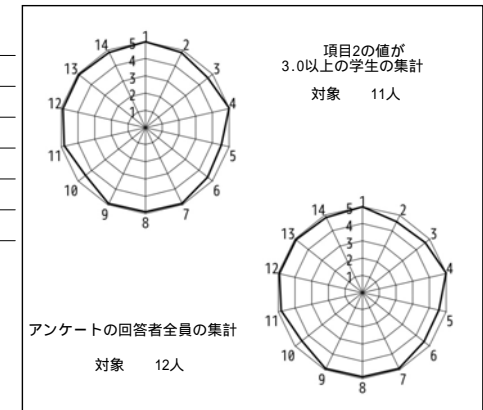


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The course was carried out in line with the goals set up at the start of the term and in general the goals can be said to have been achieved: to help students understand that *) all their daily conducts are closely related to economy and politics and *) all those economic and political conducts should be directed to the fulfillment of human dignity.
- 2) I concur with students assessment and evaluation and these are also mirrored in students reaction paper and their deep interests in participating the lecture. It can be observed that the students were able to understand complex economic and political issues relating to human dignity through various concrete samples and cases introduced during the lecture.
- 3) While taking into account all the recommendations for improvement raised by the students in this student evaluation, new approaches for a more dialogic lecture are necessary to allow students be more participative in the whole lecture.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倫理学2<国際科目群>
 授業コード 12A09-901
 教員名 ALVA, Reginald Joaquim
 教員コード 102369
 登録人数 13
 回答数 12
 回答率 92.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

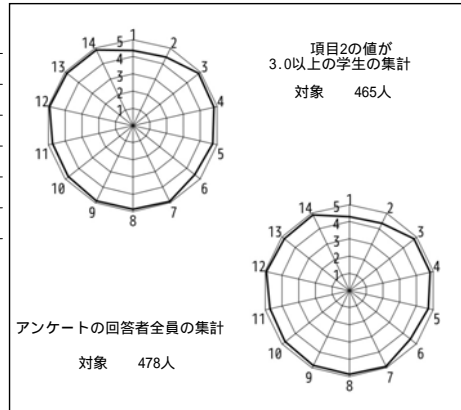


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、倫理学国際科目群の授業を対面形式でやらせていただきました。学生たちの意欲を引き出せるために授業の内容を分かりやすく説明し、また様々な工夫いたしました。その結果、学生たちは内容をよりよく理解できたと思います。以下の学生たちのコメントからも同様な印象を得られると思います。「英語を学ぶのではなく、英語を使う点が素晴らしいと思いました。キリスト教の倫理的観点は少し難しいところもありましたがとても有意義な時間を過ごせたと思います。」「授業の進め方として、まず資料をよく読み、Reginald先生がまた細かく説明したり、大事なポイントをハイライトしたり、そして自分の考えを共有したりするという形なので、とても内容がわかりやすいし、ためになると感じている。」「私自身が無宗教者なので宗教というまだ触れたことがないものを通して新しい学びを得れたこと。教授が生徒一人一人の能力に合わせて授業を進行していたこと。」「キリスト教倫理についてより深く理解することが出来ました。」「キリスト教的倫理を学ぶことができた点。聖書の内容を学ぶことができた点。」「the professor was understanding.」「The contents for the lessons were simple and good to be understood.」「キリストの倫理について自ら学ぶ気になった。少人数で話しやすかった。先生が温かかった。」「先生は資料を読ませた後、まずみんなが学んだことを聞かれ、その後、マンガを利用し、簡単な言葉で教えてくれたのは非常に役に立ちました。」「授業の内容がとても面白いです。」「授業の内容も素晴らしいものだった。」

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐる4
授業コード 13C05-004
教員名 森山 花鈴
教員コード 103223
登録人数 999
回答数 478
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

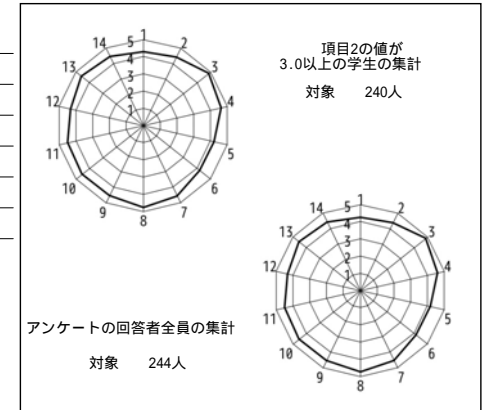
オンラインでの授業開講であったが、開講当初に設定していた目標については到達していると考え。自殺や人権に関する問題について、学生自身が深く学び、考えていることが、授業中のチャット、オンラインでのWebClassを活用したりアクションペーパー、レポート課題から確認することができた。

大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値をすべての設問で超えることができた。自由記述欄では「適切なデータ、具体例を説明してくれたのでわかりやすかった」など、レジュメや説明の丁寧さについての評価や、適切な課題の量や課題動画に関する評価があった。さらに、受講人数が999人と多く、かつオンライン授業だったものの、WebClassを通じ質問を集め次回授業で答えたり、リアルタイムでチャットを活用し毎回学生からの質問に答えていたため、「生徒からの質問や意見を授業中に多く取り上げてくれたので、理解をより深めることができた」「気軽に質問することができる」等の評価が数多くあった。そのため、オンライン形式でも授業はスムーズに実施できたように思う。ただし、一部質問に答えすぎているという意見もあったため、この点は配慮していきたい。なお、インターネット環境には注意していたため、オンライン授業の際の授業環境への不都合点は特になかったようである。

学生から質問を随時募集し、授業で答えていく形式については毎回評価が高いため、次クォーター以降も形式を検討しながら引き続き実施していきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 裁判法
授業コード 44A12-001
教員名 小原 将照
教員コード 102897
登録人数 284
回答数 244
回答率 85.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

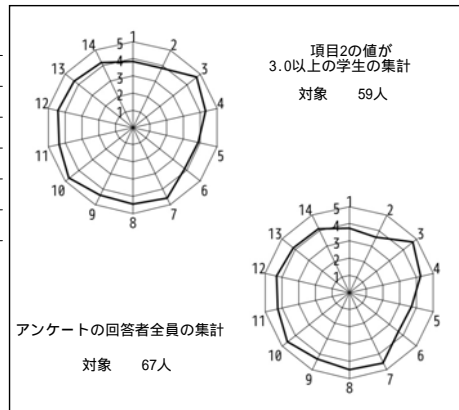
例年、設定した目標について、学生の主観的到達度が、質問項目で一番低く出る傾向が続いている。ただし、平均4.00台であることを考えると、学生自身がやや控えめに評価していることが影響していると考えられる。そのような要素を踏まえると、この授業の目標設定およびその到達度は、概ねクリアできていると評価してよいと考えている。

数値データは、4.00台中盤から後半が多く、数値的に問題が確認できる水準ではない、そのため、例年、自由記述欄から気になる点を取り上げることになる。それについてもここ数年は、良い点が多く、改善点が少ない傾向にある。また、改善点の中身を見ても、具体的な方向性を示すものはほとんどなく、学生個人の不満が記載されていることが多い。その不満についても、授業中に何度も説明したものや、他の運営方針との兼ね合いで選択が不能なものが挙げられており、参考にならないものが多い。

結果として、本授業は学生の満足度が高く、1年次の導入教育として成功していると評価してよいと考える。今後、同じ水準を維持していくことが課題となるだけであって、そろそろカリキュラム改正と担当教員の変更など、硬直化しないための方策を検討する時期に来ているかもしれない。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法総論A
授業コード 44B13-001
教員名 洪 恵子
教員コード 103537
登録人数 195
回答数 67
回答率 34.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

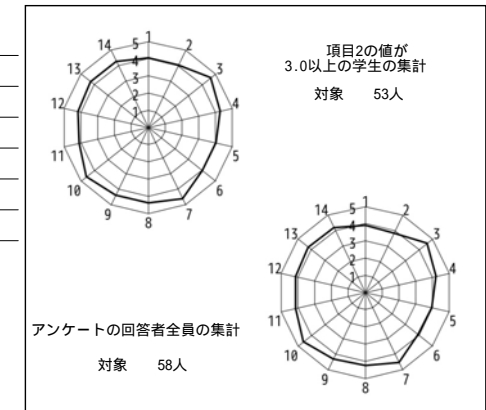
およそ2年ぶりの対面授業であり、200名近い登録者があるなかで、静粛な学習環境の下で、受講生が関心を持てる授業運営を心掛けた。対面授業である利点を踏まえて、受講生を指名して条文を読んでもらうなどしたが、マイクを消毒するなど感染対策に留意しながら授業を進めた。教室の機器もそろっており、教務課や情報センターのサポートもあり、技術的なトラブルもほとんどなかった。

受講生の科目への理解・関心が一程度深まったことには満足しているが、アンケート回答数が受講者数に比して少ないという本質的な限界は今回も感じられた。また授業にあまり出席していない学生がアンケートに回答しているのではないかと懸念は今回もぬぐえなかった。教員がたえず自分の授業をより良いものにしていく努力は大切であるが、授業評価は商品アンケートではないのだから、方式についての改善が必要であるように思う。

zoomによる遠隔授業の際に好評であったスライドの使用や提供は、対面授業でも有益だとわかったので、今後も継続したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 不法行為法
授業コード 44B19-001
教員名 王 冷然
教員コード 103577
登録人数 165
回答数 58
回答率 35.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

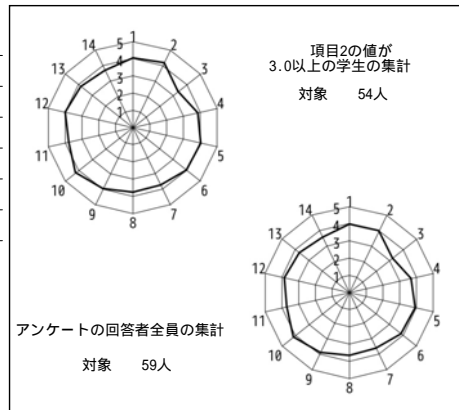
本講義では、民法典における債権各論の一部にあたる「不法行為法」を中心に、不法行為領域における基本的制度および不法行為責任の認定方法に関する基礎知識を解説するとともに、不当利得・事務管理をも説明し、受講生たちに不法行為法に関する制度趣旨、要件、効果を理解してもらうこと、不当利得、事務管理に関する基本的な知識を理解してもらうこと、具体的な法律問題について、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うことを目標としました。

学生からの評価評価アンケートの数値データや自由記述の内容、定期試験の成績状況からみますと、当初の到達目標はほぼ実現できたと思われます。とくに、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」、「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」という設問項目に関して、学生から高い評価が得られました。また、自由記述に説明がわかりやすいことや毎回のレジュメと判例資料の配付、練習問題の作成などに関する評価が多かったです。これらのことからみますと、本講義から学生たちはほぼ満足が得られたといえます。

来年度、当該講義を担当するときは、法理論に関する説明はよりわかりやすく行い、判例をより多く取り扱うよう改善を試みます。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 企業法総論
授業コード 44B22-001
教員名 家田 崇
教員コード 102459
登録人数 240
回答数 59
回答率 24.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね良好な評価となったが、個別の事象を検証して、今後改善していく点を追求していくとともに、今回寄せられた数値データおよび自由記述等を踏まえて、概ね良好な評価となった結果から、今後より望ましい評価が得られるよう新たな手法をどのように展開されるかなどについてなど、次クォーター・学期以降に向けて今学期に導入した新たな教育手法などを踏まえて総合的多角的に検証していきたい。

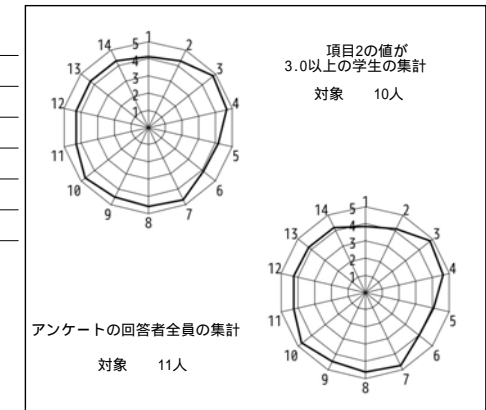
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価については、授業科目・演習科目それぞれ全体と個別のデータの詳細に分析し、それぞれの要因を把握し、より良いところを踏まえ改善するポイントを検証し、自由記述も踏まえて、その自由記述についても個別具体的に把握するとともに、全体の傾向を鳥瞰的に把握し、プランアクションドゥチェックを際限なく繰り返し、今後の授業と演習のそれぞれについて反映ができるように、それぞれの記述数値の実質的な意味が何かを、さらによく考え、自分のPDCAサークルに取り込んでいく。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて、まず次クォータは2Qになるが具体的には演習科目しか担当しないので、授業評価で大勢の学生を対象とした授業の評価結果が、個別の演習にどのように活かせるのか、数値データおよび自由記述等を踏まえてのそれぞれの意義が、仮に授業科目にのみか当てはまらないとしても、演習にも応用できることがないのか検証していきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治思想史A
授業コード 44B44-001
教員名 西村 邦行
教員コード 104090
登録人数 32
回答数 11
回答率 34.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

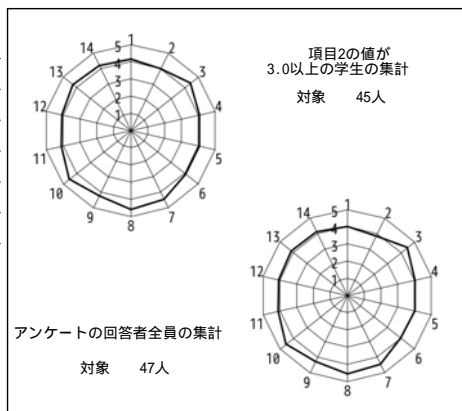


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度に比べてテーマを絞り、個々の内容を詳しく扱うようにした。そもそもの趣旨として、わかりにくい問題がなぜわかりにくいのかを考え、単に情報を持っている（いない）ことと理解している（いない）こととの違いを体感してもらうという、単純化することはできない（単純化すると意味がなくなる）論点を扱っていることもあり、テーマを絞ったことで、話が細かくなりすぎて難しくなってしまう可能性も危惧していた。しかし、学期を通して授業を終えてみると、重要な点に時間をかけて噛み砕いた説明をできたという実感はあり、アンケート結果からしても、不必要に難解との印象を持った学生はいなかったようで安心している。全体の分布を見ても、興味を持たずに受講した学生が少なくとも反発して終わるといったことにはならなかったように見受けられるし、興味を持って受講した学生の期待には応えられたように見える。ただし、個々の回のポイントが分かりにくいとのコメントはあり、科目の性質上やむを得ない面もあるが、毎回の授業の冒頭でその回の内容を要約的に予告しておくなど、可能な限りの工夫を考えたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統治機構
授業コード	44B99-001
教員名	菅原 真
教員コード	102064
登録人数	93
回答数	47
回答率	50.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

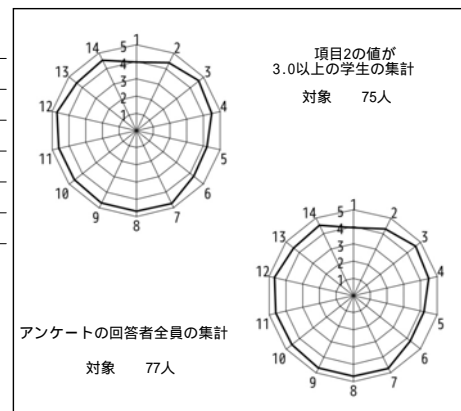
目標到達度については、学生による授業評価の結果を見る限り、ほぼ達成したと考える。本講義では、国政および地方政治における統治のメカニズムに関する基礎知識を修得することが目標となるが、そのためには憲法典のみならず、国会法、公選法、内閣法、裁判所法、地自法をはじめとする憲法附属法も重要であり、それらを理解した上で憲法解釈、実務などを考えることが求められている。歴史や比較の観点を重視して体系的に学んでもらっている。

授業評価の数値は、項目3から14は特に問題はない。しかし、項目2の予習・復習の値が3.85と低くなっている点が問題である。学生には毎回詳細なレジュメ資料を提供し、またその末尾に次週までに考えてくる「論点」を記している。次の授業において、何人かにマイクを渡し、それに関する意見を表明してもらうのであるが、自由記述欄には、特に前列で受講した学生たちは、その論点について発言でき、他の学生の意見も聞けて良かった等の積極的意見が多かった。しかしながら、圧倒的多数は大教室の後方の座席で受講しており、また挙手を求めても、自らの意見を積極的に表明できる段階までには至っていない。

大教室で対面式の授業を行うことは久しぶりのことであった。授業を進める上で学生の表情がわかり、オンライン式よりずっと良かったと考える。今後の抱負としては、学生が、議論が分かれているようなテーマ（論点）について、事前に調べた上で積極的に自己の意見を表明できるような気風をつくりたいと考えている。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	債権法総論
授業コード	44C12-001
教員名	大原 寛史
教員コード	104297
登録人数	247
回答数	77
回答率	31.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に心より御礼申し上げたい。各数値データおよび自由記述の内容をふまえると、昨年度の改善点も含め、ある程度は受講生に評価をいただけたと感じている。この点については、今後の講義でも継続していきたいと考えている。

もっとも、課題は多い。本年度においては、とりわけ 配布資料の多さ、講義中のメモをとる時間の確保、講義において使用するスライドの不調についてである。

については、より要点の明確化を意識し再構成する。もっとも、本講義では教科書を指定していないこととの関係上、一定程度の分量も、学問的レベルの維持には必要である。印刷の負担の回避法（データでの確認、割付・両面印刷など）も具体的に指示していた。気持ちは理解できるが、工夫して対応していただきたい。

については、改善する。もっとも、必要事項はレジュメに記載しており（その結果としての）、記載していない内容のメモの要否は講義において指示し、ある程度の時間も確保していた。受講性の気持ちも理解できるが、担当者が「あえて」レジュメに記載しなかった意図も理解していただけると幸いである。

については、教室に設置されたパソコンの不調によるものである。講義中の不調は一度だけであり、10分程度で再開することができた。トラブルが起こらぬよう、各Q開始前には教室でリハーサルを行い、毎回講義開始15分前には教室で準備している。今後もその対応を継続したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会社法（設立・株式）

授業コード 44F07-001

教員名 佐藤 勤

教員コード 101599

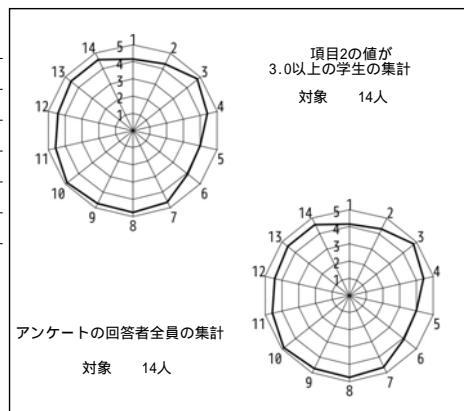
登録人数 57

回答数 14

回答率 24.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、株式会社設立と株式の権利行使と流通について理解することを目標としている。本授業の内容は、第4Qで実施した「会社法（ガバナンス）」の知識が前提となる（念のために、授業開始時に告知している）。履修者の70%強が「会社法（ガバナンス）」の履修者であった。同授業を履修（単位取得）していない学生の多くは、定期試験を欠席した。なお、その者のうち、定期試験を受験した者の多くは、単位取得に至っているようである。以上を踏まつつ、定期試験の結果を鑑みれば、当初の授業目標は、達成できたものと考え

。今年度は、昨年度の引き続き、授業終了後、重要事項について、事後課題として、問題を提供し、事後学習の支援を強化した。さらに、今年度は、この事後課題への取り組みする履修者のインセンティブ付与のため、定期試験は、当該事後課題で出題した項目に関連した事項から問題を作成した。履修者が、この課題を真摯に取り組んだ結果が、定期試験の評価に反映しているようである。

授業評価について、回答者数が少ないこともあり、学科平均に比して、各項目とも良好が評点であった。

以上のように、今年度の「会社法（設立・株式）」については、当初の目標を達成することができたと考え。今後も、今回の授業方法で行った施策を継続するとともに、内容のブラッシュアップを行う。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知的財産法A

授業コード 44J01-001

教員名 平嶋 竜太

教員コード 104448

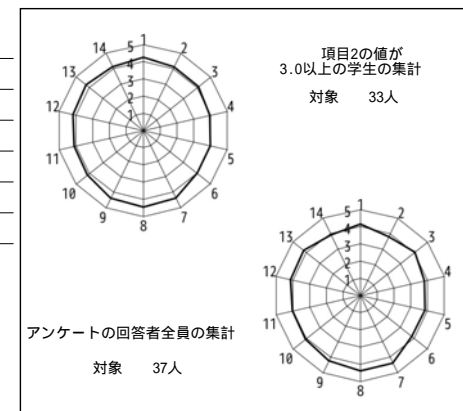
登録人数 131

回答数 37

回答率 28.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

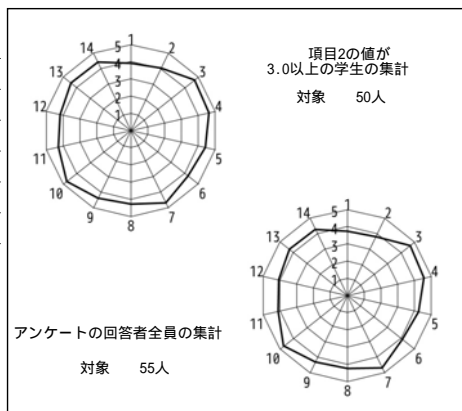
開講当初にシラバスで設定していた目標についてはおおむね到達できたものとする。取り扱う項目内容が極めて多岐にわたるものであったため、受講者には若干負担が大きかったかもしれない。

受講者にはおおむね講義内容が十分に理解されていたものと考えられる。取り扱い内容が盛りだくさんであったため、かなりペースを速めて話していたこともあって、早口となっていたようであるから、余裕をもって説明するようになりたい。また、受講者の講義中の私語については、若干気にはなっていたところであり、対応する必要がある。

講義資料については、各回に配分した内容が次回に持ち越しとなることが多く、受講者には若干負担が大きくなるように考えられることから、もう少し簡潔にして、重要なポイントを中心に焦点を絞るように構成したい。講義のスピードも若干穏かに進めるようにしたい。また、一部受講者の私語については、基本的には各受講者の良識にできるだけゆだねていたが、良識だけでは十分に期待できず、他の受講生にとってかなり影響が大きいためであることから、講義の冒頭あるいは適宜注意をすることで、他の受講者にとって良好な受講環境を得られるように配慮したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳6
授業コード 10D04-006
教員名 井上 洋
教員コード 100177
登録人数 187
回答数 55
回答率 29.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

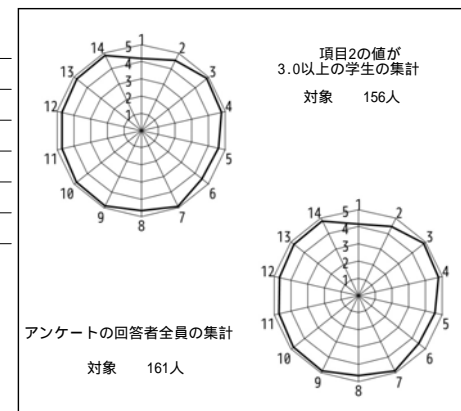


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「政治・経済と人間の尊厳6」は、反アパルトヘイトの社会運動や、韓国の民主化運動、ベトナム戦争時の反戦運動などに材と取って、社会運動の側面から、人間の尊厳の問題が建てられる瞬間を問うことを目的とした授業である。授業評価のアンケート数字をみると、担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ・真剣さを感じたかを問う項目について、4.69が数字として上がり、構成や進行速度の適切さを問う項目には4.46、全体としての満足度を問う項目には4.27が出されている。この数字の低く無さと、提出された期末レポートを読んだあとのみよりのない気持ちとの間を、どう受け取ったらよいのか考えてはいるが、よくわからないでいる。人間の尊厳科目であるので、ひとりひとりの生き方を問う、ひとりひとりが自らの生き方にふれるそういう話をしたつもりだが、すべてが他人事のように扱われてしまったように思われてならない。学生諸君のあたまのなかの物事を認識する枠組みのオーダーメイド性を今回も打ち破れなかったと自覚している。それから学生諸君の社会問題に対する、問題を受けている、問題が発生している局面にたった感受性の欠如にも暗い気持ちをもつ。日本の社会が音を立てて崩れている今、それを感じることも、認識することもできないでいるということである。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史と文明
授業コード 46B10-001
教員名 山田 望
教員コード 000211
登録人数 234
回答数 161
回答率 68.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

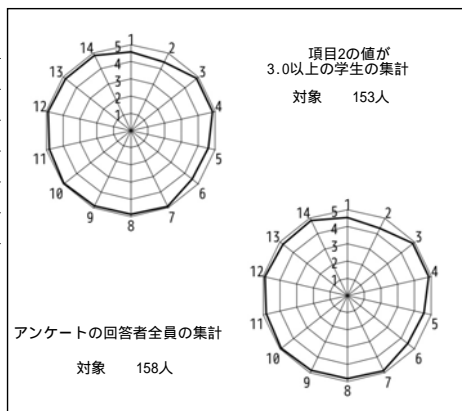


授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修者数234名のうち161名が回答し、回答率はほぼ70パーセントであった。まず、の開講当初に設定していた目標と到達の程度については、設問5の授業の到達目標を理解することができたかが、学科平均を0.25上回っており、設問6のあなたはこの授業の到達目標に向かって力がついてきていると思うかに関して、学科平均を0.2上回っていること、最終的に、設問13この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと思うか、に関して、学科平均を0.2上回り、設問14の全体としてあなたはこの授業に満足しましたかとの満足度を問う問いに関して、学科平均を0.26上回っていたので、ほぼ目標と到達度については、申し分のない結果を出すことができたものと考えている。数値データおよび自由記述を踏まえての総合的自己点検・評価については、数値データに関しては、設問の8を除いてはすべての設問の数値が学科平均を上回っており、全く申し分なかったと考えている。自由記述欄にも、非常に多くの学生が、分かりやすかった、パワーポイントの説明がよかった、授業の最後に授業内容と深く関連する動画があって良かった、などほぼ好意的、肯定的評価が多数を占めていたので、総合的に見ても受講学生たちが高く評価してくれたものと理解している。の改善点としては、唯一、設問8の授業中の教員の声や音声が聞き取れたか、との設問が、学科平均よりも0.14低い結果となった。しかし、自由記述欄には、先生の声が聞き取りやすかった、との評価が非常に多かった。問題は、「オンラインで受講した場合で、ネットワーク環境が不安定だった場合は3を選択してください」、とあったことから、3を選択した学生が多かったからではないかと推測している。自由記述欄から、キャンパス内のBYOD教室でネットの繋がりが具合が不安定になることが多かった、との記述があったので、BYOD教室でのネット環境を今一度検証し、不具合があれば改善していただきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学概論
授業コード 46D07-001
教員名 狭間 諒多朗
教員コード 104124
登録人数 321
回答数 158
回答率 49.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

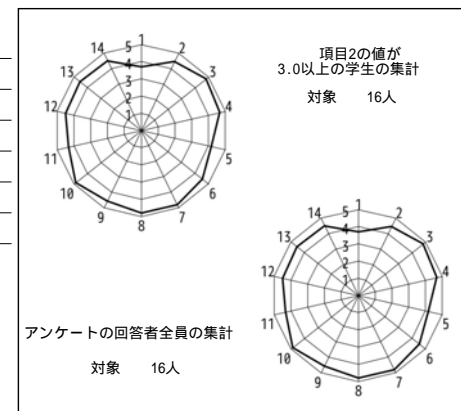
本授業では「わたしたちの身近な問題を、社会学の視点から考察し、批判的に捉える力を身につける」「課題を通して、事象について適切な根拠づけや理屈だて（論証）ができるようになる」の2つの到達目標を掲げている。については、家族や労働、教育といった様々なトピックについて社会的な見方を紹介することができ、受講生の理解も進んだと考えている。については、各トピックについての統計データなども見せながら解説することを心掛け、こちらも受講生はきちんと理解できていたように感じている。

「学生による授業評価」の評価をみると、おおむね高い評価を得ることができたと考えている。特に、項目番号7の平均値が4.88と高い評価を得ており、こちらの熱意伝わった結果だと思われる。また、チャット機能を用いた受講生からの質問時間を設けたほか、毎授業後の小課題について必ず次の授業で解説するようにした結果、項目番号12の平均値が4.89とこちらも極めて高い評価になっている。これらの工夫が全体的な満足度の向上につながったと考えている。（項目番号14の平均値は4.84）。

一方で、自由回答をみると、動画視聴に際してラグや音声が聞こえづらいといった苦情が寄せられている。今後は、動画の容量を軽くするなどの工夫をしていきたい。それと同時に学内ネットワークの強化が望まれる。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数量的アプローチ1
授業コード 46E07-001
教員名 水落 正明
教員コード 102745
登録人数 32
回答数 16
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

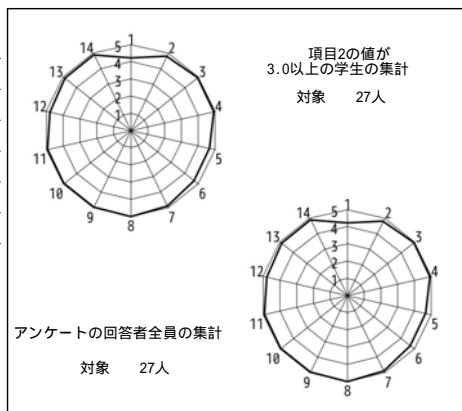


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、統計ソフトRおよび統合開発環境Rstudioを使って、実際にデータ分析を行うことで、計量経済分析について理解し、分析方法を身につけることであった。総合的な満足度（設問14）については4.50と、総合政策学科の平均4.55をやや下回っているが、計量経済学（数学ベース）の理解およびプログラム言語の理解など、通常の講義に比べると内容がはるかに高度であることを考えれば、概ね良好な結果であると考えている。今年度は、単に分析作業をすすめるだけでなく、得られた分析結果について講義中に学生に解釈を求めたりすることで、分析結果の社会に対する意味を考えさせるなど、バランスのとれた内容にすることで、学生の興味を引くことができたと推察される。各項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目において、半数の項目で下回ったが、ほぼ差はなく、文系学生に対する授業の特徴からは、良好な結果であると言える。差が大きい項目は、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」であった。この点についてはシラバスの書き方を工夫する余地があるかもしれない。自由記述の感想を見ると、実際の作業の時間がかなりあり楽しめたとするものもあれば、やはり内容が高度であり、プログラムを覚えるのに苦労したという意見も見られた。一定の負荷がありつつ、学生の能力向上に資することができたと考える。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語I2
 授業コード 46F01-002
 教員名 CROKER, Robert
 教員コード 100082
 登録人数 35
 回答数 27
 回答率 77.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

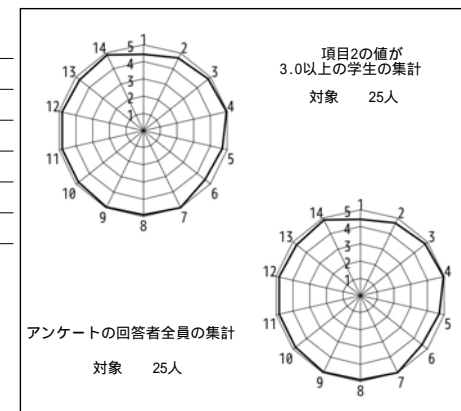


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth and the basic concepts of sociology through exploring topics such as education and gender and diversity. The students chose which country they wanted to focus upon and each week researched about that country. In the first week, students read a book about their chosen country. From the second class, each week a different sociological theme was explored: education, health, population change, and gender and diversity. In the final class, each student gave a 10-minute presentation to two other students about the country that they had researched about. The results of the student feedback were positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. In students' written comments, students wrote that speaking a lot of English helped improve their English speaking, and writing reports each week helped improve their English writing. Students enjoyed working with different partners each week. Finally, explaining graphs in English was a new experience for them. From my perspective, I found the students worked hard, and were a real pleasure to teach.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語I3
 授業コード 46F01-003
 教員名 O'CONNELL, Sean
 教員コード 100448
 登録人数 33
 回答数 25
 回答率 75.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

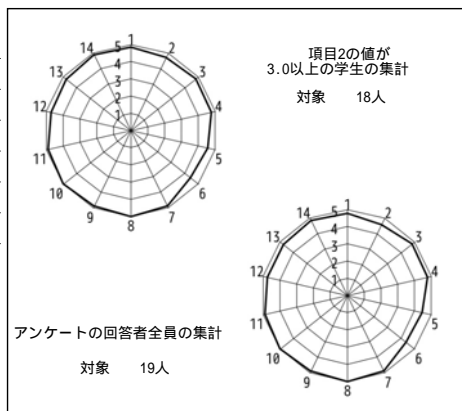
This main aim of this course was to introduce second-year students to content related to international policy and public policy that they had studied in Japanese in their first year. The class was designed to simulate their use of four core skills (speaking, listening, reading and writing) through various activities such as reading content-based articles, writing summaries, discussing the issues explored and presenting (individual powerpoint presentations) on related topics to small groups. All of these activities resulted in students being able to use English to deepen their policy-related knowledge.

In terms of the self-assessment and self-evaluation, the average score of 4.8 suggests that students were satisfied with the way the class was conducted and the content used. For Qs 14 onwards, firstly, students commented on the effectiveness of the variety of activities used with many of them saying they had come away with a deeper understanding and had had the chance to use their English skills to convey their impressions of policy-related topics. Conversely, some students said that the size of the class meant that not all students (33 students in total) were able to interact directly with the teacher. Additionally, some students felt that the class length made it hard to concentrate all the time.

Taking all comments and scores into account, I will endeavour to create ways to break up the class activities further and devise more ways to make sure each student is able to interact with me directly more.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践コミュニケーション中国語
 授業コード 46F09-001
 教員名 梁 暁虹
 教員コード 045229
 登録人数 19
 回答数 19
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

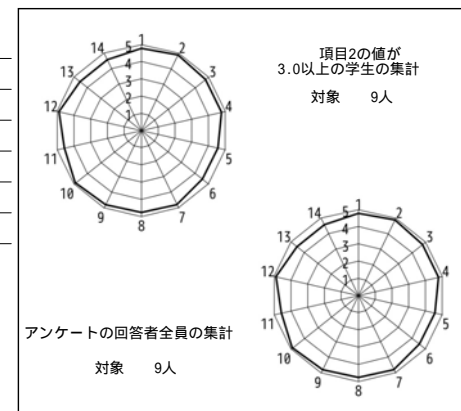


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は4.77、設問3～14の平均値も4.79、設問8、10は5.00（満点）であり、設問7、9、11も、4.89、とかなり高い点であり、学習者及び授業担当者双方の満足感が窺えよう。学生の自由記述項目15では、「毎回発表があり、自発的にコミュニケーションをとる機会が設けられていたのがよかった。もっと中国語を勉強したい。」「授業の要点を丁寧に解説してくださったので、理解がより一層深まったのと [= 深まり、更に]、比較的ゆっくり講義を行ってくださったおかげで焦ることなく学ぶことができました!」、「教科書の内容だけでなく、それに関係する例文をいくつか用意していただいたので理解が深まった。」、「課題が多くないところ。グループワークがあるため様々な人と交流ができるところ。」や「先生と学生の距離が良い意味で近いこと。」等のポジティブな反応があり、「講義中にも学生側が発言しやすい環境づくりをして下さったお陰で楽しみながら学べた。」等、良好な評価を十人もの学生から受けた。一方、教師として改善の余地がないわけではない。学生の中国語のレベルの差があるので、学生の自由記述項目16では「中国語を喋ったら、日本語でも喋ってほしい。」、「発表の後にちょっとした日本語訳をつけてもらえると質問しやすいです。」の2点程の要求があった。来年度の授業中に、この意見を参考して、改善に資したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践分析中国語
 授業コード 46F10-001
 教員名 原田 直枝
 教員コード 018754
 登録人数 18
 回答数 9
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

科目の目標として、「1. 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する。2. 現代中国の諸事情に関する実際的な中国語文献を処理することができる。」の2点を掲げていた。毎回、履修者が取り組んだ課題レポートに関して、授業において詳しく解説を加えたうえで自己添削後に提出したものを担当者がチェックして、次回授業で返却する形式を行なった結果、取組み回数はそう多くない中で、履修者各自の進歩が認められた。履修者は概ね熱心に予習をし、努力の跡が見られた。

自由記述欄に「スライドの文字が小さくて見るのが大変なところがあった」とあり、思い当たるところがある。対面式で、かつ小人数教室でもあり、板書だけでもよかったかもしれないが、解説用のパワーポイントを用意した。履修者の確認の便を図ってのことであるが、教室の大きさを軽くみていたところがあり、文字の見えにくさにつながった。上記を反省材料として、今後改善（教室の隅でも明確に見える文字のパワーポイント作成）を心がけたい。また、今回の授業評価に当たり、学生への周知をWebclassでのメール連絡に頼ることになったため、十分な回答数が得られなかった。今後は授業内での周知を忘れない。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 財政学

授業コード 46K02-001

教員名 澁谷 英樹

教員コード 151974

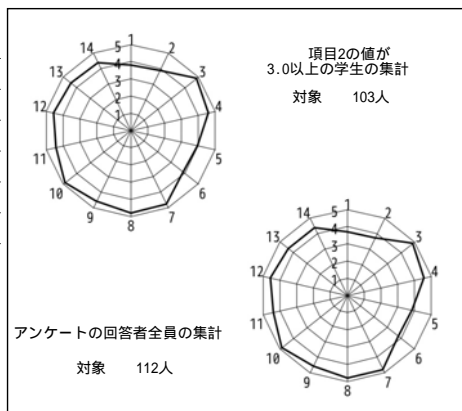
登録人数 271

回答数 112

回答率 41.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では国の財政制度についておおむね講義すべき内容を消化することができたものの、講義内容の配分についてはもう少し理論を増やしたほうがよいと感じられた。また、本講義では講義中・前後にたくさんの質問を受けることができたために、学生との双方向性のある程度は満たせたが、私が課題・演習等を適切に設定することでさらなる改善を目指すべきである。なお、こうした課題はオンライン開講となって以降、教員と学生との距離が広がることで感じられるものであるため、直ちに修正することは難しかった。

自由回答には目立った不満はあらわれなかった。ただ、学生の自由回答にも1件だけあったように、私は休憩時間の取り方が下手である。この難点は私自身も自覚しているところであるため、次の講義では休憩時間を安定的に確保する工夫を考えたい。

ところで、本講義は授業準備段階で公務員試験の検証をして臨んだため、法学部など他学部の学生の需要にも応えられたようである。この点については来年度に向けてさらなる努力を続けていく所存である。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代企業論

授業コード 46K03-001

教員名 金網 基志

教員コード 102923

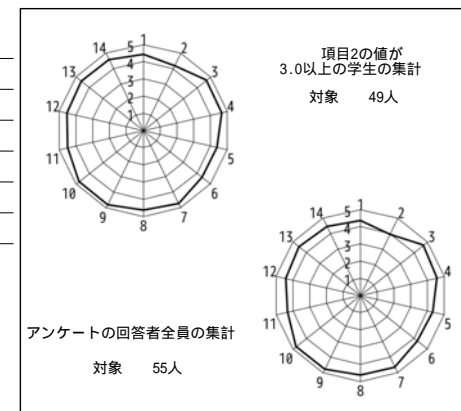
登録人数 102

回答数 55

回答率 53.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

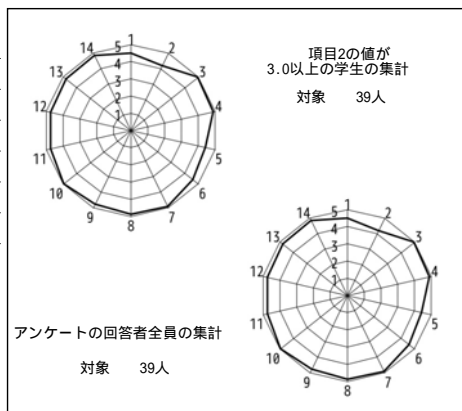


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均値が4.48、項目3から14の平均値が4.53であり、全体の平均値、科目登録者別集計値を上回っている。特に、項目3、項目7、項目8、項目9、項目10の評価が高かった。授業の妨げになるような私語はほとんどなく、授業を進めることができた。自由記述回答を見ると、事例を多く取り上げている点、学生に質問を投げかけ考えさせるエクササイズを取り入れている点、学生の意見を発表させて他の学生に聞かせている点、授業の開始時に前回の復習を行っている点が評価されていた。こうした点は、今後も継続していきたい。一方で、到達目標の理解に関する項目である項目5と、自主的な学習を促す指導に関する項目である項目11の評価がやや低かった。全体の集計や学部学科ごとの集計を見ても、これらの項目の評価は低く、こうした項目を改善するための工夫が求められているように思われる。到達目標については、第1回目の講義の際に学生に伝えているが、それが必ずしも浸透していないことが要因かもしれないと考えている。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境行政論
 授業コード 46M02-001
 教員名 石川 良文
 教員コード 100650
 登録人数 50
 回答数 39
 回答率 78.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

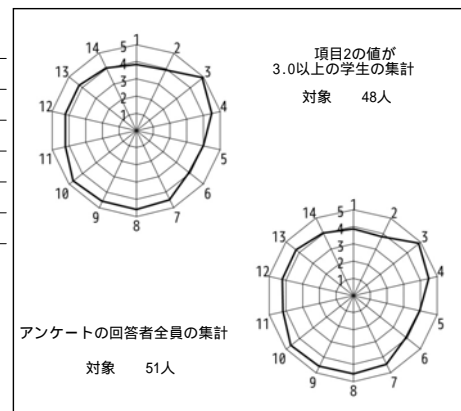
開講当初に設定していた目標と到達の程度
 前年度の同科目の評価が従来と比べて低かったため、本年度は少なくとも大学全体の平均より高い評価が得られる目標を設定した。
 今年度は極めて高い評価が得られ、十分に目標を達成した。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
 項目1-14の平均4.73、3-14の平均4.79であり、設問14の全体としての満足が4.82であったことから総合的に高い評価が得られた。特に、設問3（開始時刻終了時刻）、設問4（構成や進行速度）、設問7（誠実さ、真剣さ）、設問10（妨げになる行為への対処）は、4.9以上の極めて高い評価値であり授業運営に対して特に満足があったと思われる。自由意見では「教員が実際に自治体の委員会委員であり具体的な内容を知っている」ことを評価する意見があった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 今期の本科目は極めて高い評価であったが、特に前年度の比べて大きな授業運営、方法に変化はない。例年本科目は200名近い学生の受講であったが、今年度は他科目の時間割変更もあり50名の受講であった。この人数と敢えて他の科目でなく本科目を履修する学生であったことが影響しているのではないかと推察される。高い評価であり特に改善点は見当たらないが、しいて言えば予習復習を強く促すことであろう。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境社会学
 授業コード 46M03-001
 教員名 前田 洋枝
 教員コード 102264
 登録人数 83
 回答数 51
 回答率 61.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の到達目標は、1. 環境社会学の基本的な概念・理論（受益圏・受苦圏や資源動員論、集合行為論など）について説明できる。2. 環境配慮行動の意思決定モデルについて説明できる。3. 環境配慮行動の意思決定モデルに基づいた環境配慮行動促進のアプローチがなぜどのような効果があるのか説明できる。以上3点であった。コメント課題などの結果を見る限り、比較的多くの学生は適切に理解できていたようである。

授業の構成・進行速度や学生の理解度に配慮した進行などに関する設問で4.5以上の比較的高い評価が得られており、「重要な点は繰り返し説明してくださいとしたり、図をもちいてわかりやすく説明してくださいとしたりしたため、とても理解し易かったです。」など自由記述においても評価する声が見られた。

「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」では3.86と肯定的ではあるものの、あまり高い評価ではなかった。今後は、シラバスの段階から、学生に環境問題の解決に向けて社会学・社会心理学からアプローチするこの科目の魅力伝える工夫をし、授業への積極的なコミットメントにつなげていきたいと考える。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際政治経済論

授業コード 46N09-001

教員名 小尾 美千代

教員コード 102453

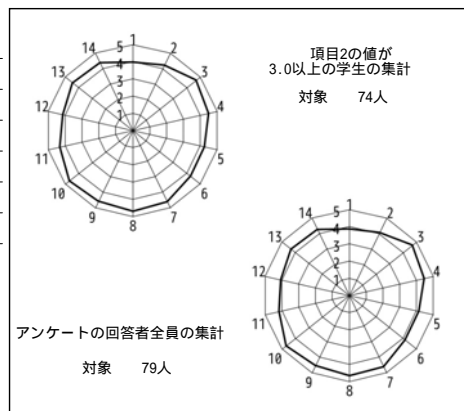
登録人数 222

回答数 79

回答率 35.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、(1)経済を中心とする国際社会のグローバル化と国際政治との相互関係について理解すること、(2)国際金融、自由貿易、地域統合、気候変動の諸問題をめぐる国際政治について理解すること、の2点を目標としました。履修登録者222名のうち、回答者は79名で、そのうち「受講に際して主体的に授業参加をした」との質問項目2に関して3.0以上の評価をした学生は74名でした。授業評価については、項目1～14の平均値は4.34（総合政策学部の平均：4.55）であり、項目3～14の平均値は4.40（同4.61）で、全体的に科目開講主体の平均よりも0.2ポイント程低い結果でした。また、授業の到達目標に関する質問（項目6）では4.20（同4.29）、新しい知識や理解に関する質問（項目13）では4.54（同4.58）で、これらについてはやや低い結果でした。

相談や質問の機会についてはメールやWebClassでも受け付けていましたが、評価が低かったため、今後は授業時間内に質問の時間を確保するように授業運営をしたいと思っております。また、授業で利用したパワーポイントについては、情報量が多いとノートテイクが大変とのコメントをこれまでに受けていたため、できるだけ簡潔な内容に留めました。また、どうしても要点がわかりにくいかと思われましたので、レジュメを穴埋め式にてみたところ、自由記述欄のコメントからは好評のようでしたので、データやグラフなどの補足資料も含めて今後も継続したいと思います。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治変動論

授業コード 46N10-001

教員名 星野 昌裕

教員コード 101897

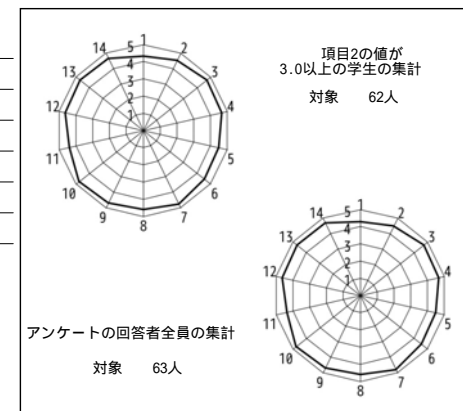
登録人数 133

回答数 63

回答率 47.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

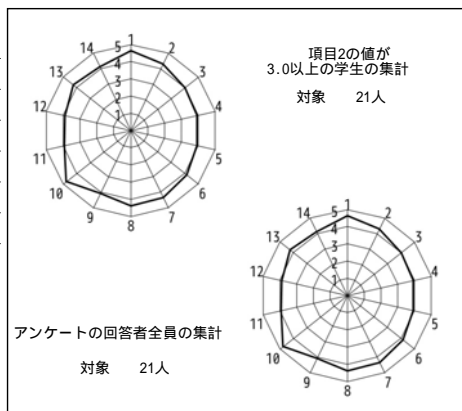
本授業では、東アジアの政治変動を理解するのに必要な政治学の基本概念を説明したうえで、中国の一方支配体制の形成とその変容過程、台湾における権威主義体制の確立と民主化、権威主義体制下における民族問題等を講義した。これらを通じて、地域研究の分析手法、政治学概念の理論と現実、東アジアで依然として大きなプレゼンスを占める「社会主義」体制の理論と現実、世界各国の政治体制を比較分析する手法を習得することが、開講当初に設定した本授業の目標である。

授業評価をみると、設問3から設問14の平均値が4.64となっている。また、授業の到達目標に向けて力がついてきているかどうかを問う設問6の平均値も4.54となっている。これらの数字は、履修者が本講義を通じて、政治学や東アジア地域研究に対する興味を深めることができたことを示しており、開講当初の目標を十分に達成できたと考えられる。

第1回から第14回まですべての授業を対面で実施するのは、2019年度以来、3年ぶりであった。印象的だったのは、ホワイトボードに書き込みながらの講義形式は集中力も続き、理解もしやすかったとの趣旨を自由記述に回答した学生が複数いたことである。様々なオンラインツール、パワーポイントなどを併用しつつ、今後とも学生の集中力を高められる授業形式を模索していきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域研究論
授業コード 46N22-001
教員名 平岩 俊司
教員コード 103613
登録人数 59
回答数 21
回答率 35.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当初設定していた目標については、基本的にすべて講義で扱うことができたが、全体の到達を優先するため、必ずしも十分に扱うことができなかった項目があったのも事実だ。対面授業なので学生の反応を見ながら講義を進めることができたが、学生の興味、関心に応じて、濃淡を付ける必要はあったかと思う。

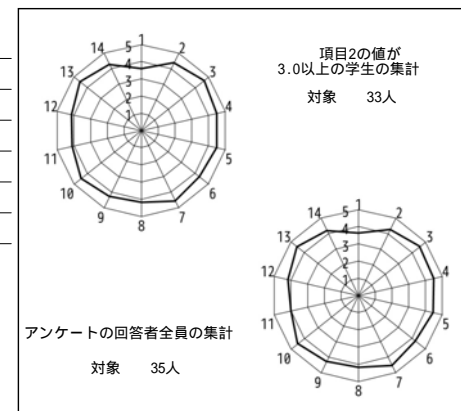
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

総合的に目指すところは達成できたと思うが、事前配付資料などをもう少し充実させる必要はあるかと思う。ただし、資料が多くなると、かえって学生が消化不良になってしまうケースがあるので注意が必要かと思う。また、学生の方の反応として、事前配付資料に既述のない内容は話さないで欲しい旨の記述があり、それでは対面授業のダイナミズムが低下してしまうこともあり、事前配布資料と講義の在り方について検討する必要があるかと思う。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
講義内容については、とりわけウクライナ情勢をうけて国際関係の構造それ自体も大きく変化していることを前提として、そうした変化が今後の国際情勢にどのような影響を与えるかを視野に入れ、まさに動きつつある国際情勢をうまく反映できるよう準備する必要があるかと思う。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[J]2
授業コード 10C01-044
教員名 金山 知俊
教員コード 019455
登録人数 40
回答数 35
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

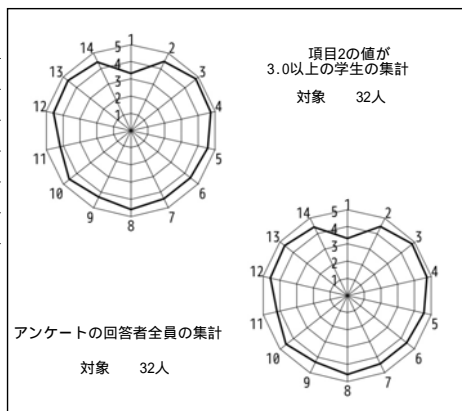
1. 本科目は情報社会における適切なネットワーク利用に関して、e-learningによる自主学習とレポートのピアレビューおよびグループによるディスカッションと発表という形式でアクティブラーニングを実践している。昨年度Q4に引き続き今年度も初回ガイダンス以外は対面授業を開催することができ、受講生に対してはシラバスの到達目標を達成できたと考えている。

2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.29、項目3~14の平均が4.35であり、情報科目全体の集計結果より少々低い値であった。個別の項目の評価では履修前の授業に対する興味を示す項目1が3.63、学生の学習意欲向上や授業参加促進に関する設問11が4.00と、他の項目に比べ低い値であった。自由記述欄ではインターネット社会の危険性と利便性を学ぶことや、e-learningと対面授業を併用した授業形態やグループワークに対して評価する意見が見られた。その一方で、課題や発表準備の負担が大きい、教員の声が聞き取りにくいといった批判もあった。大学入学直後の科目ということもあり、受講生には慣れない授業形態に対する不満や戸惑いがあったものと思われる。

3. 2021年度に引き続き、事前作成した動画を上映する形式で発表を実施したが、大学入学直後の学生には少々負担が大きいように思われる。コロナの影響が継続する状況ではこの形式を続けざるを得ないが、発表の準備方法についてより丁寧に説明することで学生の負担を軽減できるように工夫することを検討している。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[J]3
授業コード 10C01-045
教員名 杉原 桂太
教員コード 101115
登録人数 34
回答数 32
回答率 94.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



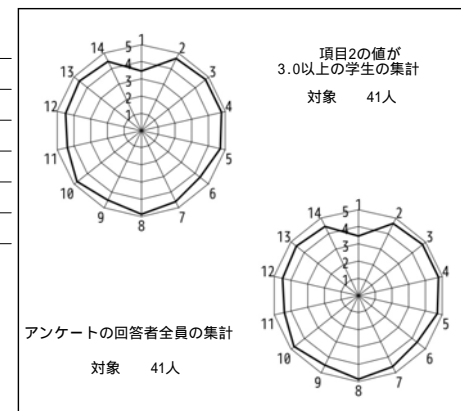
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。さらに、教室に来ることができない受講者への対応も課題となっていた。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。項目(1-14)では多くの項目で4点台の評価が得られたが、3点台もあった。設問1(3.31)から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。自由記述からは、設問15について、「他の授業では、情報倫理の授業ほどグループの仲間と話し合ったり意見を交換することはなかったので、良い体験になった。」などの評価がある一方で、項目16では、「もうすこし指定の教材があればよいと感じた。」、という記述があった。この項目16については、教員が「アクティブラーニング」の趣旨を十分に受講者に伝えた上で、教材の自由度が高すぎるかもしれない点を教員間で共有する必要があることが分かった。教室に来られない受講者は少数だった。この点について、ハイブリッド授業による対応については自由記述で指摘がなく、問題なく行えていることが伺われた。

以上を踏まえ、目標の達成のためには改善点が必要であることが分かる。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[G]2
授業コード 10C01-058
教員名 吉田 敦
教員コード 101920
登録人数 42
回答数 41
回答率 97.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、グループワークで発表資料を作りながら、情報倫理について理解を深める授業である。各グループが画一的な発表ではなく、テーマや資料の構成などに工夫を凝らしてもらうことを目標とし、実際に、学生達は個性的な発表をしてもらえたので、目標を達成できたと考える。また、発表そのものが授業目的ではなく、それを通じて、情報倫理に関する問題やその対策を理解することが授業の目的であるが、発表や質疑、また、自由記述の結果などから、それも達成できたと考える。

アンケートの数値データでは、例年のことであるが、授業開始前の興味は低いものの、実際に授業を受けた結果として興味を持ってもらえ、全体としては評価は高く出ている。また自由記述でも、ポジティブな意見が多かった。ただ、1年生で、いきなり発表資料を作るところで、プレゼンテーション用のソフトウェアに関する知識や技術が不足しており、そこに対する不満も記述されていた。

次年度の方針としては、質疑の活性化を考えたい。質問はどのようなものでもよいと指導したが、質問が出なかったときに TA や教員が行う質問をやや難しく感じたらしく、同じような質問ができないと、躊躇したことが自由記述から読み取れた。また、プレゼンテーションの準備に関する支援も検討したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング言語

授業コード 52B03-001

教員名 野呂 昌満

教員コード 016477

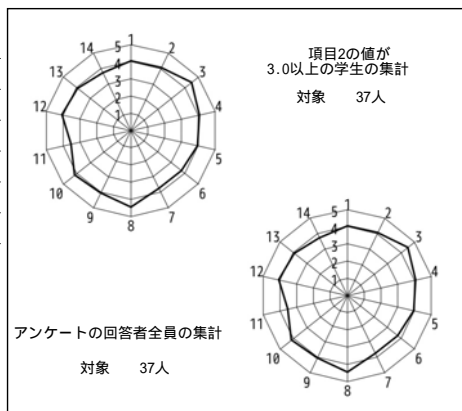
登録人数 190

回答数 37

回答率 19.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標：プログラミング言語の計算モデルと実例の得失を理解し、言語設計のあり方を理解する。プログラミング言語処理を形式言語論を基礎に理解し構文解析器を設計試作できる。両者とも、レポートの出来具合、成績から勘案して総体的に達成できたと考えられる。

総合的な自己点検評価：数値から推察できることは以下の2点。

1. しっかりとした動機を持って取り組んだものは高評価を与えている(成績A以上の学生と平均値からの推察)。
2. 単位取得だけが目的の学生が評価の平均値を下げている。

自由記述からは、言葉遣いに対する指摘が多かった。資料や講義の進め方については肯定的な評価が多い。

改善点：不快に感じる言葉遣いを改める必要はあると考えられるが、教育的観点からは自己肯定的な姿勢で社会に接する学生にいかにもそのような言葉を用いずにわからせるかということであろう。しかし、それは、大学入学以前に備わっていなければならない知性の問題でもある。そのことを理解しつつ、このような自己点検評価を活用すべきである。批判は否定すべきものとの風潮がどの世代にも蔓延していることは社会の危機とも言えるであろう。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア開発技術I

授業コード 52B04-001

教員名 沢田 篤史

教員コード 101413

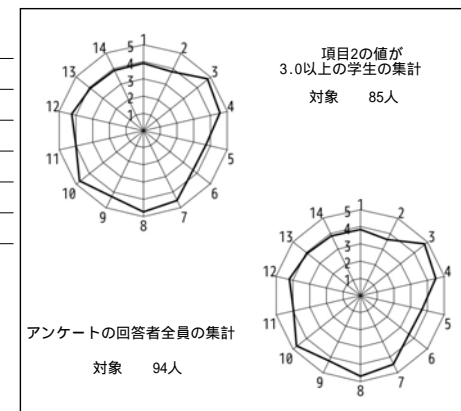
登録人数 224

回答数 94

回答率 42.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

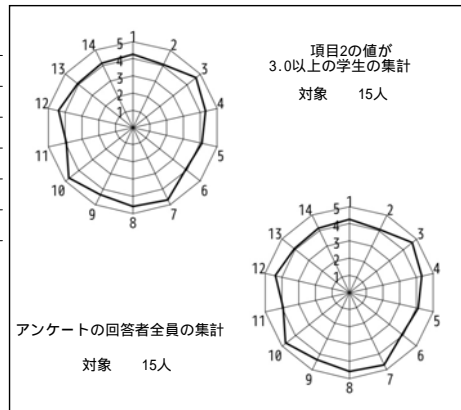


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度
開講当初に設定した目標は、「ソフトウェア工学の基礎概念を説明できる」「ソフトウェアの開発方法論を実践できる」であった。
14回の授業を通じて、両者とも説明を行った点からは目標は到達できたと評価している。
- (2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値からはおおむね良好な結果であったと評価している。自由記述では、毎回の授業中に丁寧に復習を行い、Zoomで復習問題を出題した点が評価されていた。一方で、「この分野では問題に対して唯一の正解というものはない」ということを授業中にしつこく説明したにも関わらずそれを理解しておらず、正解は何かを求める記述も少なからずあった。大学入学前からの学習の結果、唯一の答えがないと不安になる学生の存在はある意味避けて通れない問題かも知れない。一方で、この後の卒業研究などで答えのない問題解決に取り組むことを考えると、粘り強く説明しなければならないと考えている。レポート課題の提出方法についての自由記述には、期末に一気にレポートを提出させるというものがあった。何度かに分けて出題した時には、レポート課題の回数が多すぎるといったコメントもあったと記憶しており、対応に悩む。学生のコメントをすべて取り入れると、まともな成績評価(達成の評価)はできないと考えている。
- (3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後はオンラインで授業をするかどうかかわからないが、授業の復習を丁寧にを行い、Zoom投票機能を使って復習問題を解かせ、解説する方法は今後も続けたい。レポート課題の出題回数と時期については、学期末の学生に過度の負担がかからないよう検討する。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報を読む5
授業コード 13E07-005
教員名 鈴木 敦夫
教員コード 016469
登録人数 30
回答数 15
回答率 50.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

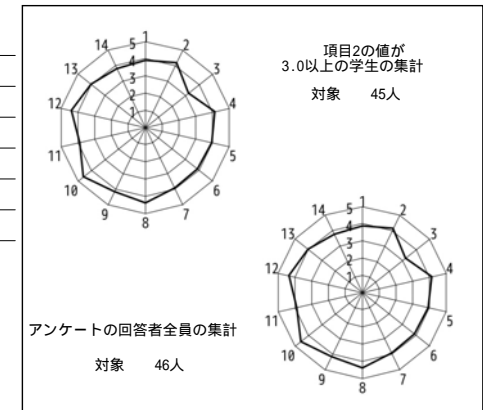
この講義の目標は、PCを利用して最適化計算を体験してもらうことにある。その意味で、講義中に受講生が表計算ソフトを用いて最適化計算を行っていたので、この目標は達成できたと考えている。ただし、自由記述欄に、前提となる知識について詳しく書いてほしい旨の記述があったので、その点は来年度から改善したい。

ほぼすべての項目で4.0以上の評価だった。2項目だけ、若干4.0を下回ったのは、6と11の項目で、講義を受けるにつれて、達成感が得られるような講義内容に改善したい。現在は、問題を解決することが主になっていて、物語性がないかもしれない。

自由記述欄に、前提となる知識について詳しく述べてほしい旨の記述があった。シラバスには、「高等学校卒業程度の数学の知識を必要とする。」とあるが、この学生は「高校レベルの数学が全くできない」で受講してしまった。最初の授業の時に、シラバスに書いてあることを再度学生に知らせ、このようなことがないようにしたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形計画法
授業コード 51B03-001
教員名 佐々木 美裕
教員コード 019463
登録人数 226
回答数 46
回答率 20.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

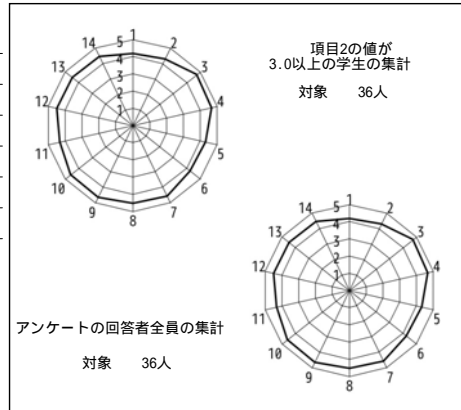
毎回の授業内容を確実に理解し、積み上げ方式で学習効果を上げることを目標とした。その実現のため、授業内容の確認のためのクイズ形式の小レポート9回、中間レポート2回、最終レポート1回を課し、最終レポートを除いて、すべてのレポートの解答について次の授業の冒頭で解説した。さらに、授業の前半70分で解説、後半30分は課題等に対する質問に回答する形で進める計画を立てた。登録者数が教室定員を超えたため、ハイブリッド形式としたが、オンライン配信時の機器トラブルによって授業開始が遅れたことが多く、質問対応のための時間を十分確保できなかった。関連する項目12の平均値が4.37と比較的高いことは意外であったが、十分に目標を達成できたとは言えないと感じている。

自由記述に「講義資料と説明がわかりやすかった」、「次の授業で課題の解説があり、復習に役立った」などのコメントが複数あった一方で、授業開始が遅れたことに対する不満の声も多かった。機器トラブルが原因とはいえ、計画していたとおりの授業を行えなかった点において、残念ながら達成度が高いとは言えない。PC2台、タブレット端末、白板を駆使して対面参加でもオンライン参加でもわかりやすい解説をすることに拘りすぎたことを反省している。今後、ハイブリッド授業を行う機会があれば、シンプルな授業形態でも効果を上げる方法を模索したい。

講義資料を最大限生かして効果的な授業を行うためには、受講者の予習が欠かせない。今後も自習をサポートする体制を強化し、質問しやすい環境の提供を心掛けたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 シミュレーション
 授業コード 51B05-001
 教員名 三浦 英俊
 教員コード 102259
 登録人数 186
 回答数 36
 回答率 19.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、以下の4つである。

1. シミュレーションの基本（モンテカルロ法、乱数の使い方、等）を知っている。
2. シミュレーションを用いた問題解決の手順を理解している。
3. マルコフモデルについて理解している。
4. 待ち行列モデルについて理解している。

シミュレーションは理論的な内容と実践の両輪による理解が重要であるが、基礎となる理論的な内容を到達目標として掲げた。

学生がこれらを到達できているかどうかは、演習課題の採点でおおむねできていると判断したが最終的には期末試験の結果を待ちたい。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

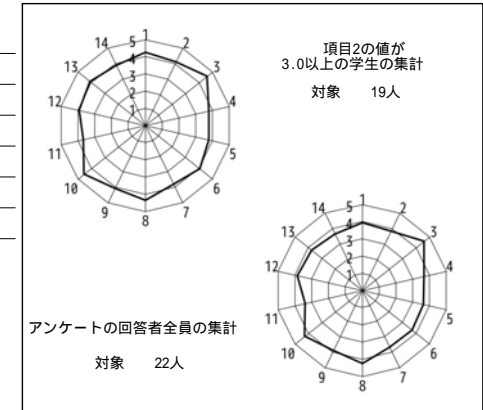
今年はハイブリッドで行った。そのため毎回録画を公開した。手間はかかったが復習に役立てたという意見があったのでよかったと思う。

ホワイトボードの字が見にくいという意見があったが、拡大するなどうまくカメラを使いこなすことができなかった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など授業の後半で扱ったロジットモデル、境界値問題の内容をさらに充実させたい。また、来年度は実用的なシミュレーション技法のひとつとして一様でない特定の確率分布に従った乱数の作成方法について取り上げたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数理統計学
 授業コード 51B06-001
 教員名 白石 高章
 教員コード 102104
 登録人数 71
 回答数 22
 回答率 31.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

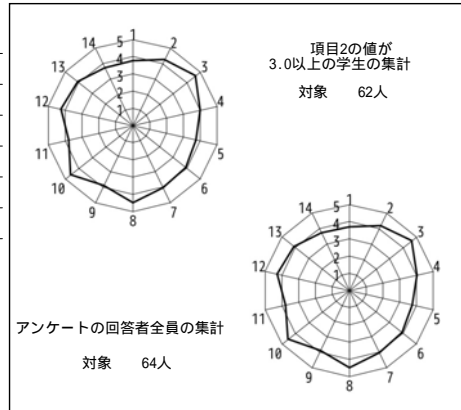


授業評価結果を踏まえた点検・評価

テキストと講義ノートを使って講義した。テキストの特長は以下である。(1) 統計学の基礎となる確率は、論理の綺麗な部分である。この理解を容易にするために、数理論理学(記号論理学)の初歩を説明することから始める。(2) 統計学の理論の構築に、微分積分学と行列の知識が頻繁に使われている。使われる直前に、高等学校数 からの微分積分学と行列の内容を説明する。(3) 通常の数理統計学の教科書よりも行間を埋める必要がないように証明や解説を詳しくしている。補足部分も含め、講義内容をpdfファイルにし、WebClassからも見ることができるようにした。まずは当日の講義内容を講義する前に、内容に関係ある部分の復習をおこなった。講義途中で高等学校の数学の内容も含め演習問題を解く時間を与え、解かせ、回収した。これらの演習問題70問の解答を再度レポートとして提出してもらった。レポートとして提出後、問題解答の解説を講義中におこなった。これにより開講当初に設定していた目標を到達することができたと思っている。大学の教育では、解法テクニックを覚えることが良いことではなく、自らが考え問題を解決する能力を身に付けさせることが重要である。評価の結果も配慮し今後の他の科目の教育にも役立てていきたいとは思っている。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 微積分学III[TC]
授業コード 56A03-001
教員名 松田 真一
教員コード 017566
登録人数 140
回答数 64
回答率 45.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標

本授業の目的は微積分学I, IIを引き継ぎ微積分学より高度な学習をすることである。WebClassで13回の課題を出し、授業内の演習時間と時間外学習で取り組んでもらっている。

・目標達成度

単位を修得できた学生はほぼ全員(2クラスでFが5人)であった。昨年度はオンライン試験だったのに今回は対面試験だったので、単位が取れない人が多数出るかと思ったが、みんな熱心に取り組んだ結果だと感じた。

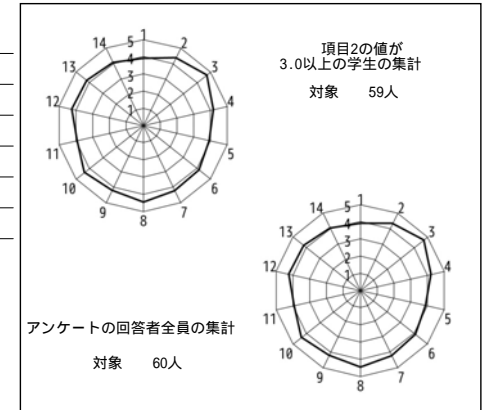
・授業評価

本年度は学科単位の授業に分かれて2クラスの受け持ちであったが、昨年より低い47%の回答であった。回答率と授業評価には関連があるため、2019年から行っている第2問が4以上の学生の傾向と全体との比較を行うことで注意すべき設問を選定した。

4以上の学生の平均は設問13以外で上がっていたが、その上がり方が小さいのは設問14、4、12、5であった。これらは昨年とは全く異なる結果となった。回答率が下がった影響かもしれないが、設問9、11の数値が上がっている。これらの項目が改善したとも考えられる。設問13で逆転しているのは元々理解度の低い学生に焦点を当てて授業しているせいである学生は物足りないのだと思う。この点の両立は難しいが、設問14ともからみ改善の方法を模索したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 微積分学III[TM]
授業コード 57A03-001
教員名 塩濱 敬之
教員コード 104524
登録人数 137
回答数 60
回答率 43.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

この授業では、「微積分学II」に引き続き、微積分学の発展的な内容について学習する。開講当初に設定していた目標は以下のとおりであった。

【到達目標】

1. 常微分方程式を知っている。
2. 2変数の微分に関する基本的な計算ができる。
3. 2変数の微分の応用を知っている。
4. 2変数の積分に関する基本的な計算ができる。

設問項目5、及び6のアンケート結果からこれらの目標は概ね到達できた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

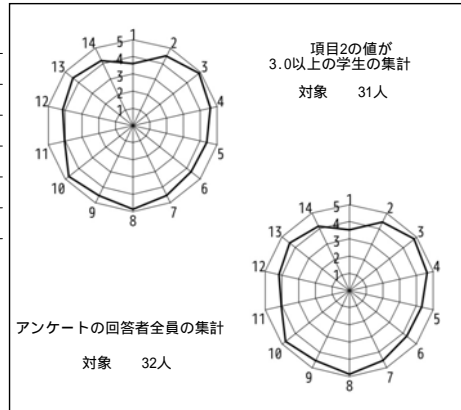
講義内容を理解できたという声と、難しかったという感想。また、丁寧な説明という声と説明が早いという声があり、すべての学生の理解度に沿った授業進行は難しいと感じる。そのような多様な学生が受講していることを意識しながら講義に望みたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

字が読みにくいという指摘がありました。丁寧に板書するように、今後気をつけたいと思います。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[J]7
授業コード	10C01-049
教員名	栗原 寛明
教員コード	103522
登録人数	37
回答数	32
回答率	86.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



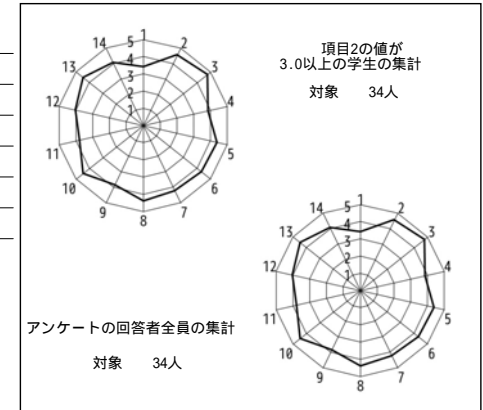
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、授業に積極的に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成したとみなしてよい。

授業はe-learningと対面授業を組み合わせ実施した。e-learningの学習内容に関して理解度を確認する課題、対面授業におけるレポートのピアレビュー、指定された課題に対するグループ発表、を通して理解を深めるようになっている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は各テーマについて十分に理解を深められたと思われる。一方で、一部の受講生はe-learning教材への取り組み状況が芳しくなく、非常に残念である。e-learning教材は対面授業に参加する上での基礎となるため必ず取り組んでほしい。対面授業では、レポートのピアレビューに十分な時間を確保した。COVID-19の影響で教室でのグループワークは要点に絞り、発表動画の作成などは可能な限りオンラインで行ったが、成果物を見る限り問題なくグループ活動ができたようである。情報通信技術の進化や社会の変化は常に継続しているため、基礎的な事柄に加えて教材には含まれない最新の話題や出来事も取り上げる必要がある。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[G]3
授業コード	10C01-059
教員名	張 漢明
教員コード	049627
登録人数	40
回答数	34
回答率	85.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達程度について

- ・ネットワーク社会における基本的な情報の取り扱いやネットワーク上のコミュニケーションに関する知識や特性を理解して、情報の利用や発信をするのさいに社会的な責任を伴うことをりかかるとい目標は、概ね達成することができた。
- ・レポートの相互評価やグループによる発表資料の作成また発表における質疑応答の議論を通して、アクティブな活動と意見交換が自己および他人への理解に繋がることの大切さを理解するという目標は、概ね達成することができた。

総合的な自己点検・評価

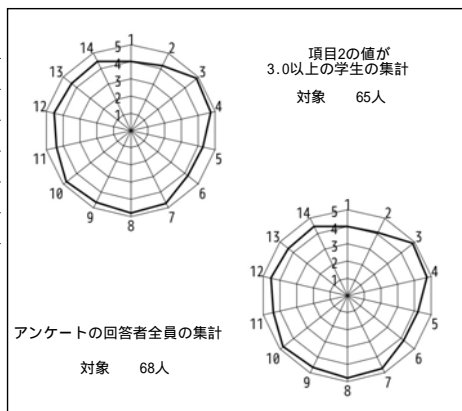
- ・アンケート結果から、グループ討議中に掲示板を使って教員と学生間の情報交換して発表のサポートを実施したことは、有用であったと考えられる。

改善点、今後の抱負、方針

- ・最初に発表資料を作成することが難しいという意見があった。最初はどのような資料を作成すれば良いかわからないので、これまでの発表資料を例示することで改善を図る。
- ・発表テーマのサンプルを提示することにより、具体的なテーマの絞り込みをサポートすることを試みたい。
- ・プレゼンテーションに対する質疑応答を活性化するために何らかの工夫を施したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物理学基礎2
 授業コード 50A29-002
 教員名 大石 泰章
 教員コード 101405
 登録人数 143
 回答数 68
 回答率 47.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標と到達の程度

当初計画していた内容はすべて講義できた。高校レベルの内容から始めて、大学らしい進んだ内容まで、無理なく構成できていると考える。

数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価

数値評価は設問1から14のすべてで4点以上であり、理工学部の追加設問の結果を鑑みても、数理的な内容の授業として十分であると考え。

評価できる点（設問15）には、「授業がわかりやすい（8件）」、「説明が丁寧（7件）」、「資料が見やすい（5件）」、「進度がゆっくりでよい（3件）」などとあり、学生のニーズに合った授業ができていると考える。今年度は、進んだ内容を例年より増やしたのだが、理解に支障がなかったようで安心した。

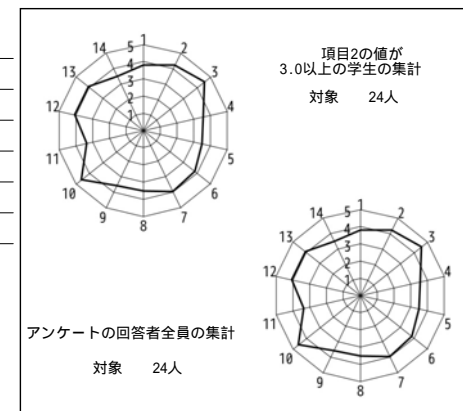
改善すべき点（設問16）にはあまり記述がなかったが、「レポート課題の正解・不正解が、webclassのコメントだけではわかりにくい」とあった。この3年間はコロナ禍のため、webclassを使ってレポートの提出、採点を行なったが、レポートを紙で出してもらえるようになったら、この点も改善できると考える。

今後の改善点、抱負、方針など

オンライン授業としては完成の域に達したと思われる。対面授業に戻ったときに、この経験をいかに活かすかが課題である。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御理論I
 授業コード 53B04-001
 教員名 陳 幹
 教員コード 100770
 登録人数 39
 回答数 24
 回答率 61.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 目標と到達の程度

シラバスに記載した到達目標を達成するために、授業計画のとおり講義を行った。各回1テーマ、合計14テーマを予定していたが、12回、13回の説明が予定よりも手間取り、14回に予定していた内容を説明できなかった。定量的な到達率は93%程度といえる。

2. 自己点検・評価

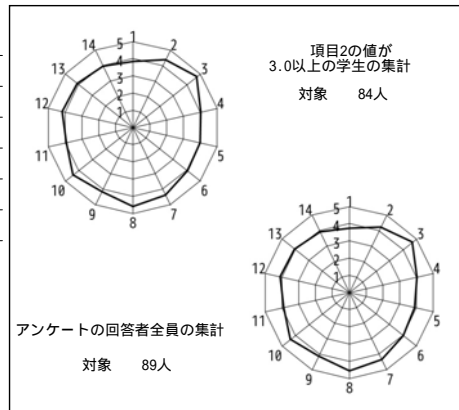
反転授業形式を採用した。設問15で学生がよいと評価したものは、反転授業形式と予習の効果と質問に対する対応だった。一方、設問16で学生が改善すべきとしたものも、反転授業形式だった。週2回という講義サイクルに対して予習・事前学習が間に合わないようである。学習に一定の時間を確保できる学生にとっては反転授業形式は良い方向に働くが、そうでない学生にはあまり効果がないようである。

3. 改善点、今後の抱負、方針など

反転授業形式は「自ら学問を学ぶ」ことを習慣づけるよい形式なのでなるべくこれを採用したい。学習時間を確保できない学生が一定数いるため、週2回の講義に対して、片方が反転授業形式、もう片方が演習、など、講義サイクルの延長も検討したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学III[TC]
授業コード 56A06-001
教員名 坂本 登
教員コード 102293
登録人数 154
回答数 89
回答率 57.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

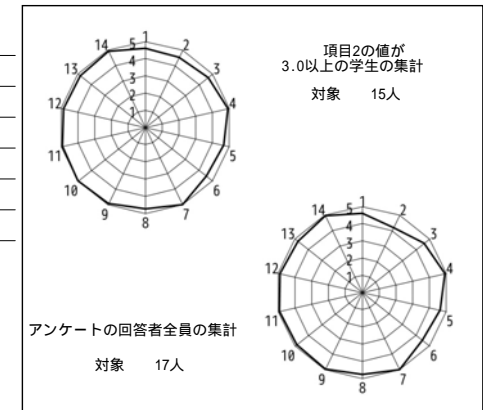
当初目的であるグラムシュミット直交化法と固有値の計算については、中間試験2回と期末試験の結果を見る限り十分に到達したと考えている。

項目21と22は低めの回答が出ているが、試験では過年度と比較して十分にできているので、学生自身の到達要求が高いためではないかと考えている。自由記述欄においても、中間試験実施に対する肯定的意見、講義ビデオを活用した復習への高評価、1年時内容の復習への高評価などから、意欲の高い学生への期待には応えられたと考えている。一方、演習時間の短さは毎年指摘されるものであり、本講義の特性上やむを得ないものと考えている。

Webclassを用いた計算テストは、コロナ対策でやむを得ず行ったものであったが、通常授業でも中間試験として活用した。これにより期末試験では証明に重きをおくことができ、採点の結果1~2割の学生は証明も十分に理解できていることがわかった。今後はこの割合を増やしていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[G]1
授業コード 11A05-032
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 17
回答数 17
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

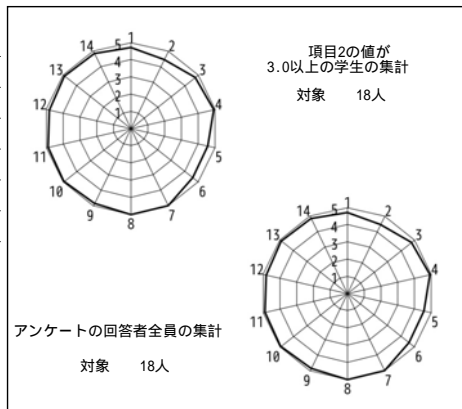
Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went. This course is usually challenging to teach, due to the student's high level of English and their varied backgrounds (different cultural backgrounds and ages). However, the students were very positive in terms of the comments and scores they gave the course. This English Literacy course was designed specifically to help students become more independent writers, and editors, so that they can work autonomously when they have to write essays during their studies abroad next year, and for their graduation papers/reports after that. Students answered with high scores for questions #13 and #14, indicating they felt they had acquired new knowledge were extremely satisfied with the course.

The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students. A few students indicated they had not been as proactive as they could be (question #2), but this is to be expected in their first two months of university. I will continue to encourage them to voice their ideas more in Q2. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing, as the students' level of English varied considerably.

For next year, I intend to focus a little more on developing the students' reading skills.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー [G]7
 授業コード 11A05-038
 教員名 DEACON, Bradley
 教員コード 046920
 登録人数 19
 回答数 18
 回答率 94.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The primary writing goal for this course was to help students to write well-structured paragraphs in English. Extensive and intensive reading assignments, together with academic vocabulary and grammar exercises, were given in order to help students to build their schema on academic topics to support their writing ability. Feedback from students was positive and indicated that they felt the course was effective and appropriate in order to help them to meet the goal.

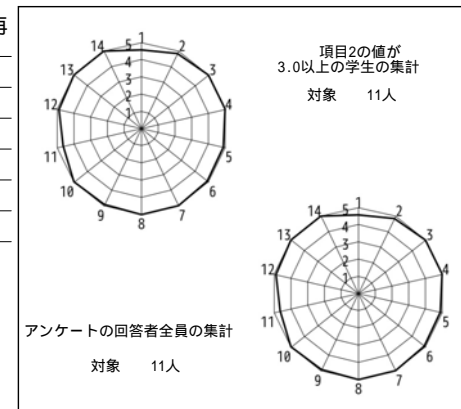
All areas from the numerical feedback data from students was consistently strong and between the 4.0~5.0 range. Clearly, the students found merit in the course as evidenced by the quantitative data. The qualitative responses were also favorable and indicated that students perceived value in this course as a means to help to develop their academic schema, critical thinking capacity, and English language skills.

Some students commented that the room was a little hot. I will remind them that if they are feeling hot (or cold) that they are free to let me know.

Overall, I was satisfied with the level of engagement by the students in this course.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語III <G2020生・2019生以前再履修者用>
 授業コード 11C03-011
 教員名 大竹 弘二
 教員コード 101968
 登録人数 12
 回答数 11
 回答率 91.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



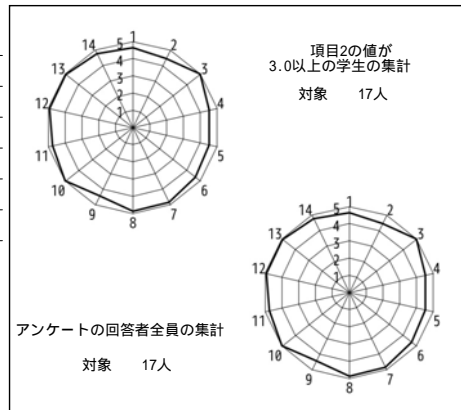
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は国際教養学部3年次生を対象としたドイツ語科目であり、2年次Q3, Q4に開講された「ドイツ語I, II <G>」の続きである。本科目と履修者が同一の「ドイツ語I, II <G>」が昨年度すでに授業評価の対象となっていたが、結果的に本科目もそれほど評価は変わらなかった。本科目では学習する文法事項が中級レベルになり、授業について来られなくなる学生が出始めるので、いつも以上に丁寧に授業を進めるよう心掛けた。学んでいる言語が嫌いになったら元も子もないので、シラバスに書かれた授業予定から多少遅れても、無理に授業の速度を速めることはせず、受講生が内容をきちんと理解できているか確認しながらゆっくりと授業を行った。総じて例年よりは学生たちが授業内容をよく理解できていたように思われる。

反省点としては、十分に双方向的な授業、およびアクティヴ・ラーニングができなかったという点が挙げられる。コロナの問題もあり、外国語科目でどの程度まで学生たちに自由に会話練習をさせて良いのか、依然としてその程度をつかめないでいる。たしかに筆記での作文練習もまたアクティヴ・ラーニングと言えるが、やはり外国語学習は発話での訓練を伴わないと不十分である感は否めないし、授業も単調になりがちである。引き続き感染状況を注意深く見守りつつ、学生がアクティヴに授業に参加できるようなやり方を探っていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学B3<国際科目群>
授業コード 12C05-901
教員名 山岸 敬和
教員コード 101411
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回授業評価の対象となった「政治学B<国際科目群>」は、アメリカ政治についてのテキストに従って学生がプレゼンテーションを行ない、ディスカッションを進めていく、学生が主体性を重視したクラスである。またこの科目はCOIL科目として指定しており、アメリカ合衆国のQueens College The City University of New Yorkの政治学のクラスの学生との共同プロジェクトを行なった。

基盤科目の全項目平均は4.58、項目4から18の平均は4.62であり、このクラスのそれぞれ平均4.74、4.77であり、それを上回った。

以下が本授業の到達目標である。

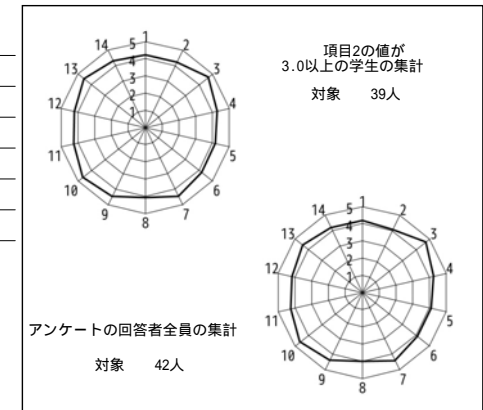
- 1) To understand basics of the political system and public policy in the United States and Japan
- 2) To read and discuss in English
- 3) To do research and make presentation in English
- 4) To have your own opinion

これら点については、学生のクラス内での議論の内容や、成績、そしてこの授業評価によって概ね達成できたと考えられる。

今回の授業評価によって、学生中心の授業運営に対して学生が高い評価を与えてくれることが改めて示された。今後も講義と議論とのバランスをとりながら、学生がより積極的に授業に取り組めるように努めたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教学人類学
授業コード 22C33-001
教員名 MUNSI, Roger Vanzila
教員コード 101925
登録人数 84
回答数 42
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



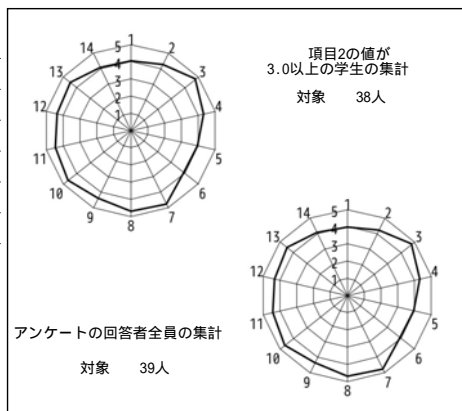
授業評価結果を踏まえた点検・評価

My course on Anthropology of Religion was divided into three parts. The first parts dealt with the definition, rationale, purposes of the anthropology of religion and its theoretical perspectives. The second part examined some case studies. Main areas were selected to put the analysis straightforward. The third part covered some recent critical observations about the shortcomings and relevance of studying anthropology a changing global society.

In the beginning it sounded a bit difficult to bring the attention of all students, as many of them were not familiar with the field. Together with regularly committed students, however, I managed to overcome the initial barriers and in the end of the course many of them were able to discuss, made questions, comments, and share opinions through WebClass. The whole class was actively involved in elaborating the future final structure and content of the term paper. I noticed that a great number of third and fourth year students were often absent in the class. Some of them came almost at the end of the course. Unfortunately they tried to evaluate the overall class content. Moreover, as reflected in their comments, most students really appreciated the teaching methods but there is much to be done by me to make them much more interactive in class. Whatever the case, I took note on all observations made by students. I will do my best to improve things for the sake of students' learning. I will also make some mild changes in course content and course structure in order to improve them. I will also try to involve the students in an earlier stage in an attempt to transfer the knowledge in skills.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教と文明
授業コード 46B05-001
教員名 VOLPE, Angelina
教員コード 000167
登録人数 79
回答数 39
回答率 49.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

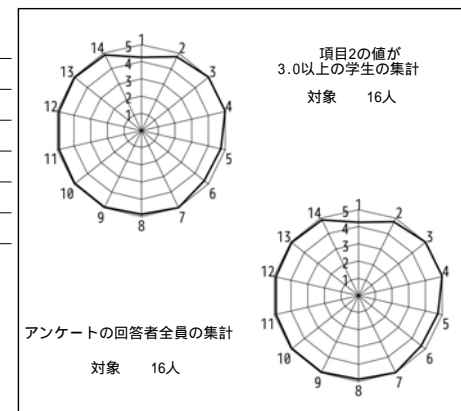
活発的で、自発的に質問をし、リフレクションを分かち合う学生の多いクラスでした。

到達目標（1．時代や文化、また宗教観が異なっても、宗教が常に人間の社会的行為の中に存在し続けている理由を理解している。2．偏見なしに知識を習得することで、文明と宗教の密接な関係を理解している。3．現代の国際社会における宗教の役割について理解している）に到達したと思います。特に、「宗教は本物であるなら平和を求めるという事実を理解した」と多くの学生が最終レポートに書いたことから分かります。

残念な点を挙げるなら、このアンケートに答える学生がいつも少ないということです。今回も81人中で39人だけが回答しました。また、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目の平均値が最も低かった点も振り返る必要があります。今後、この「力」をどのようにつけることができるかという点が、教員にとってもチャレンジとなる課題です。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy6
授業コード 48A11-006
教員名 鹿野 緑
教員コード 101092
登録人数 22
回答数 16
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際教養学科科目(2年次) Advanced English Literacy6は、1年次の集中的な英語教育と2年次以降の英語を教育言語とした科目への橋渡しの方法論科目である。目標は、サステナビリティ・スタディーズを英語で学ぶ基礎を身につけ、初歩的なアカデミック・ペーパーの書き方を学ぶことである。新カリキュラムになって初めての2年次生向けであり、新カリにおけるこの科目の位置付けを確認する意味でもこの振り返りは意味があった。

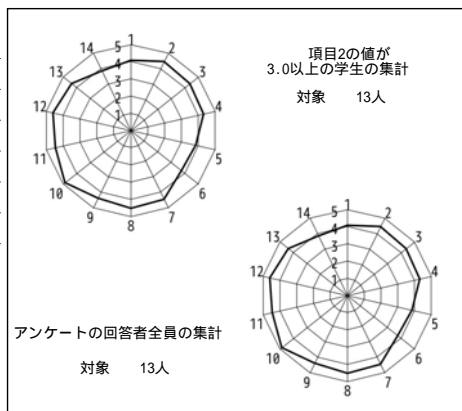
(1) 目標については、当初学生はなかなか苦労していたように見受けられたが、ほぼ8割が達成に近かったと思うが、その一方で英語で学ぶ基礎が1年次についていなかったのか(オンライン授業が続いたせい)到達度がやや低い学生が見受けられた。伸長に差が見られた。

(2) アンケートの数値は高い数字となっており、多くの学生がていねいにプロセスを踏んで「英語で論文の書き方」を身につけて行ったことが自由コメント欄のフィードバックからわかった。回答しなかった学生は、到達度の自己評価が低かったのではないかと考える。

(3) 橋渡しの科目の役割が、新しいカリキュラムでも十分に機能しているか振り返り、次年度につなげたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語論A / Linguistics A
授業コード 48C22-001
教員名 村杉 恵子
教員コード 019034
登録人数 40
回答数 13
回答率 32.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

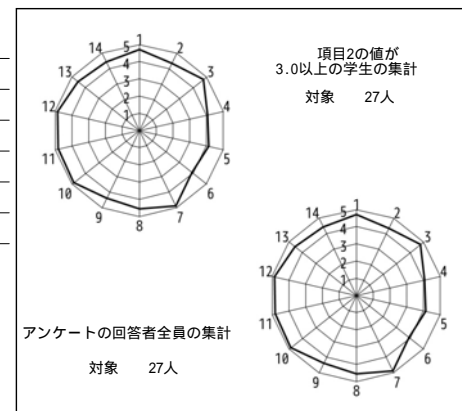


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 提出されたレポートを見る限り、開講当初に設定していた目標は十分に到達されたと思われる。
2. 授業評価アンケートに参加した学生が受講生の四分の一程度（13名）にとどまってしまい、一人当たりの評価が一割近い数値となることから、数値については必ずしも有意義に示されているとは言い難いかもしれない。言語学に関して全く知識のない学生とある程度の背景知識のある学生が混在する中で、シラバスにしたがってZOOMを用いて授業を進めることは、難しさを感じた。ブレイクアウトセッションを用いて学生同士の交流をはかり、また、授業中いつでもコメント欄に質問を入れることを許可したことは、学生には授業を受けやすくした様子がコメントから推測された。おおむね、授業の内容や進め方に満足している傾向はあるといえるだろう。
3. ZOOMならではの授業の良さをより研究し、学生がコロナ禍でも質的によりよい授業が受けられるように工夫していきたい。学生の変化にも対応していく必要がある。たとえば学生の言語学に関する背景知識のみならず、言語を科学として考える方法論に難しさを感じる学生が少なくないことに留意して、わかりやすい授業を心掛けたい。答えがあるものを覚える癖から、ことばについて不思議だなと感じ、それはなにか、それはなぜかを考え、自分でわからない問題についてその解決にむけて考察できるような姿勢へと変われる支援を、授業を通して行っていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B / Economics B
授業コード 48C29-001
教員名 平岩 恵里子
教員コード 100953
登録人数 36
回答数 27
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

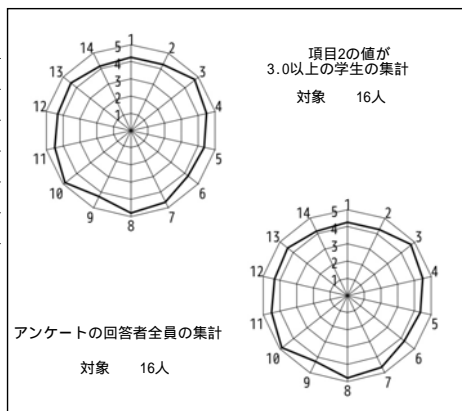


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- いつもこの欄は、ネガティブな情報を探して 反省につなぐ 落ち込んで次への意欲を失う、という悪循環となりますので、今回はポジティブに評価し自分への応援とします。
- いつも低めに出てしまう1, 2, 4, 5, 6 の設問に関して、開講当初はこれらの評価を平均以上にする！という意欲で取り組んだ。結果、4, 5, 6 に関しては達成できず平均以下になった。「到達目標を理解し力がついてきているか？」については、ほぼ毎回話しており、講義の知識が反映された新聞記事なども豊富に提供してきたつもりだったが、努力が足りなかったか。ミクロやマクロの知識を必要とする講義そのものの困難さにあるかもしれない、「難しい」と感じてしまうことが、授業の到達目標に向かって力がついていないとは実感できなかったかもしれない、という点に気づくことができたのを今回の収穫として、到達目標をもっと具体的な形・言葉・実践にしてみよう。
- 上記以外の点は、平均以上を出せたこと、かつ、平均との上方乖離が高めに出た評価としては、7, 10, 11, であったことは素直に喜ぶたい！特に11の高評価（平均値4.14に対して4.81）は、嬉しい。自由記述がこれまでより多く、肯定的な評価をしてくれたことは授業の工夫を学生が理解してくれ、講義に協力してくれたおかげである。学生頑張りました！とはいえ、「フィードバックの時間が長すぎた」「置いてきぼりにされる感じがした」「色々な人と議論する時間やシステムもあってよかった」というコメントに、講義の難しさ（こちらの意図と学生の意図がすれ違う）を改めて痛感。
- 以上を踏まえて、今後の課題は、・時間配分に気を付ける（メリハリ）・せっかく多様な学部学科の学生と一緒に学んでいるのだからお互いの専門の違いを主張できるような議論の場を設ける・中間レポート当たりで「到達目標を理解していて、力もついていると思うか？」を問うてみて、その結果によって軌道修正すべき点を修正する、に注力します！

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics: Global Studies D (Communication Studies)1 <国際科目群>
 授業コード 48E09-901
 教員名 森泉 哲
 教員コード 100542
 登録人数 53
 回答数 16
 回答率 30.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

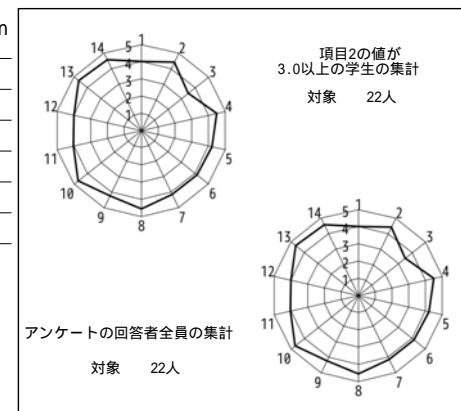


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は国際科目群に位置づけられており、担当者、受講者とも英語を通してグローバル化とコミュニケーションとの関連テーマについて、ディスカッションを通して学ぶ科目である。特に、担当者の解説を中心とした授業ではなく、受講者がチームを作って、教科書の内容を解説するとともに、その内容を深める活動を行うファシリテーションを行うものである。授業評価の結果をみると、総じて受講者も真剣に取り組むとともに、授業も適切に運営され、成果が表れたように読み取れる。一方で、最終日に授業評価の実施について説明し呼びかけたが、回答者が少なかったのが気になる点である。また、相対的に点数が低かった項目が授業満足度についてである。もしかするとすべて英語で授業を行い、ディスカッション中心の授業であり、言語能力の不足感から自分の考えていることが十分伝えられないということがあるのかもしれない。この点については、外国語で授業では不可避であり、だからこそ、さらに英語能力を高めなくてはという向上心にもつながることであると思われる。自由記述では、学生の積極的な参加を促すやり方については好意的に受けとめられていた。今後は、新たな視点を英語で理解し、それをファシリテーションすることの難しさとともに、その有用性について丁寧に説明しながら、授業の満足度とともに、学習効果を高めるような受講生に対する声かけ、雰囲気作りをさらに丁寧に行っていきたい。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステナビリティと開発 / Sustainability and Development
 授業コード 48G03-001
 教員名 安原 毅
 教員コード 017905
 登録人数 45
 回答数 22
 回答率 48.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

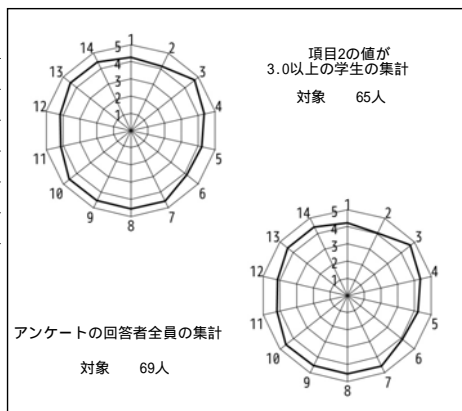


授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数22で項目1-14の平均4.26，項目3-14の平均4.27の結果はそれぞれ満足できると思われる、当初の目的はとりあえず達成できたと考え。「この授業を通して新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」に対する4.64の結果は、担当者として特に肯定的に評価できる点と考える。昨年度までは14回に授業のうちルイス・モデルの説明を1/3程度にして他のトピックにも触れていたが、今回は前半に世界の途上国各国の状況を紹介するビデオを上映してから学生の意見・感想を募り、後半でルイス・モデルとその新たな解釈を基礎—収穫逓減、収穫逓増の意味—から始めて順に説明した。定期試験の結果を見る限り実際に学生がどの程度理解してくれたかは疑問が残るが、学生の関心を引くことはできたと思われる。その一方で、「学生の質問時間がとられていたか」については評価が4.00で、やや質問への配慮が足りなかったかと反省している。秋学期からもおそらくすべて対面形式の授業になるだろうが、授業中に質問用紙を配布するなどした方が学生にとっては質問しやすい環境になるだろうかと考える。またYouTubeで適当なビデオを見つけて上映するという方法は本授業だから可能だったが、他の授業では内容から言って難しいかもしれない。したがってこれに代わる方法も考える必要があるかと思っている。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法A
授業コード	44B09-001
教員名	榎本 雅記
教員コード	103094
登録人数	203
回答数	69
回答率	34.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

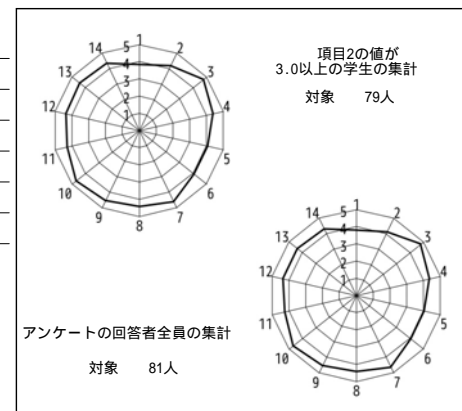


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標はおおむね達成できたと考えている。 おおよその質問項目において、学部平均値を上回っていたことについては、よかったが、項目2（学生側の予復習等の努力）、項目11（学習意欲の促進）、項目12（質問等の機会提供）については平均値に及ばなかった。この点は改善の余地がある。自由記述において、レジュメの配布方法について工夫すべきである、私語対応、板書の文字の小ささ等の指摘があった。 に挙げた諸点に対応し、以下改善方法を記載する。来期以降、学生が予復習等をしやすいように授業内で各回ごとに具体的な指示をすることにしたい。学習意欲の促進については、これまで授業に関わりのある時事問題等に言及することとしていたが、これについては賛否両論あったので、来期に向けて要検討である。質問等の機会提供は、授業後の時間に質問受けをしていたが、Webクラスの利用もさらに学生に促すこととする。レジュメの配布方法については、紙媒体の配布については賛否あるものの、賛成意見が多いようなので続けることにするが、配布で時間がとられるとの指摘はその通りであるので、授業時間前に自由に取れる形で出入口付近に置いておくなど工夫することにする。私語対応、板書に関する指摘に関しては、すぐに改善できるので、対応する。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政救済法（基礎）
授業コード	44F06-001
教員名	洞澤 秀雄
教員コード	102443
登録人数	259
回答数	81
回答率	31.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

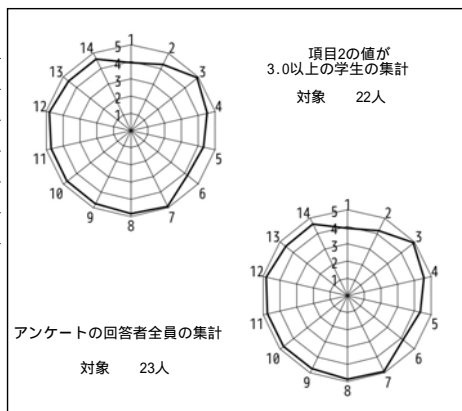


授業評価結果を踏まえた点検・評価

法学部以外も乗入れ科目として履修しているため、開講当初から、他学部生にも理解しやすく説明し、全ての学生が行政救済法の基礎について理解することを目標としていた。丁寧に説明をしたため理解度は高かったと思われる（数値データからもそれが読み取れる）が、時間が足りなくなり、説明を省いた箇所があった。数値データにおいては、項目1の当初の興味は低めであるが、項目13・14における授業での学びに係る評価は相対的に高くなっているため、理解を図るという目的はある程度達成できたと考える。また、項目8・10の教員の取り組み姿勢について高く評価してもらった点は、ありがたく感じる。自由記述においては、図などによって説明が分かりやすいと評価をいただいた。他方で、話の聞こえづらさ、ZOOMでの板書の見にくさの指摘もあり、今後の改善点としたい。また、説明を省いた部分にも指摘があったが、この点は行政救済法（応用）できちんと扱う。概ね肯定的な評価をいただいたため、今後も同様の形で授業を進めていきたい。他方で、聞こえづらさやZOOM受講者への配慮については、注意をしながら進めてゆく。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育制度論2
授業コード	15A19-002
教員名	米津 直希
教員コード	104277
登録人数	34
回答数	23
回答率	67.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業において特に重きを置いていた「現代の学校教育に関する制度的事項について基礎的な知識を身に付ける」ことについては、毎回の授業の感想、及び提出されたレポートから、概ね達成されたと思料する。

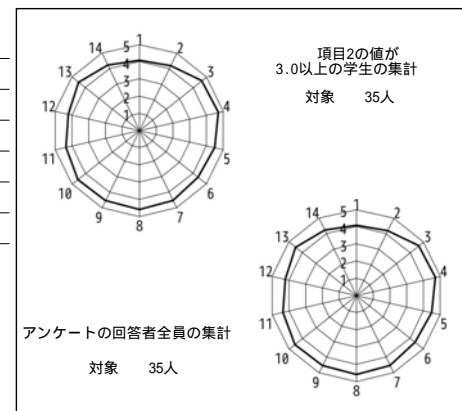
数値データからは、事前には必ずしも興味がなかった授業の内容について、概ね理解することができ、興味をもって向き合っていることが推察される。ただし、他の設問項目と比較して、授業内容の理解や目標到達度における学生の自己評価は十分でないことも読み取れる。授業外における学習を促進する仕組み、呼びかけが必ずしも十分でないことが原因と推察されるため、時間外での学習を促進するような仕組みを検討していく必要がある。

自由回答欄においては、学生の感想に対するフィードバック（FB）とグループワーク（GW）が特に評価できる点として取り上げられている。正解のない内容を扱うことが多く、また教職というチームプレイを前提とした職種の資格のための授業であることも考慮し、今後も工夫しつつ続けていくつもりである。その一方で、GWの時間確保やFBに時間をかけたために講義の時間が減少することがあった。時間の使い方をより工夫し、新たな学習内容の理解の時間を十分に確保したい。

以上のことをふまえ、毎授業に小テストを設けること、FBの時間を短縮することを具体的な改善点として、次回以降の授業を実施したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生徒指導・進路指導論2
授業コード	15A21-002
教員名	笹尾 幸夫
教員コード	103858
登録人数	76
回答数	35
回答率	46.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

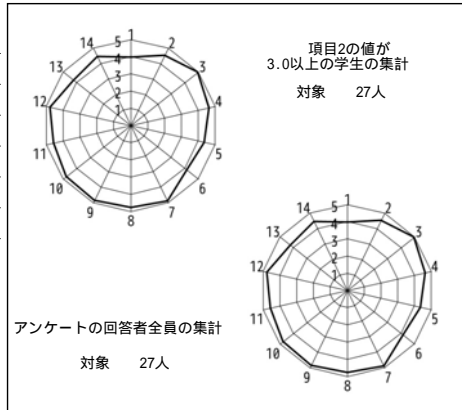


授業評価結果を踏まえた点検・評価

文部科学省が発行している生徒指導提要进行をテキストとしているが、現在、改訂作業が行われているため、その動向や改訂版の情報も追加して指導することができ、当初の目標をほぼ達成できたのではないかと考えている。基本的に3年生の学生を対象としており、1年後に教員採用試験を受験することを考え、レポートと試験を共に課している。また、毎回の授業ではその日の授業テーマに関する質問を出題し、学生が自分の考えをまとめる機会を設けている。さらに、学生は自分の卒業した学校での経験しか無いため、今後も現場の経験談をなるべく紹介するようにしていきたいと考えている。授業評価としては、一部に厳しい評価の学生も見られたが、全ての設問項目の平均値が4以上であり、概ね良好と考えている。今年度の授業では、授業中にパソコンを開いている学生が増加した。これは3年生が新型コロナウイルスにより、当初からオンライン授業であったことの影響と思われる。今まで、レジユメを印刷して配布してきたが、今後は電子データとしてレジユメを送信することも検討していきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]
7
授業コード 11A01-026
教員名 TAYLOR, Jamie
教員コード 104100
登録人数 27
回答数 27
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

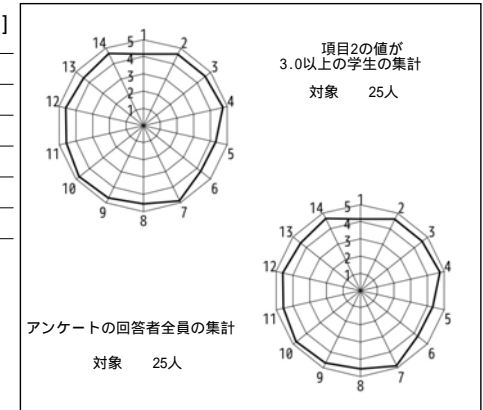


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) The goals set at the start of the course included being able to use classroom English, meet new people in English, give a self introduction in English, and talk about daily schedules and routines in English. They also included being able to listen to and understand short talks and conversations on these topics.
- (2) Most students were able to meet all goals and did a good job giving presentations (talks). The course proceeded according to plan in the syllabus, although we completed one fewer unit than expected. Most students were able to satisfactory complete all assignments.
- (3) Next term, we will work on impromptu conversations and making longer presentations in class and continue expanding the number of topics we are able to discuss in English.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]
8
授業コード 11A01-027
教員名 TROY, Henry
教員コード 104616
登録人数 26
回答数 25
回答率 96.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



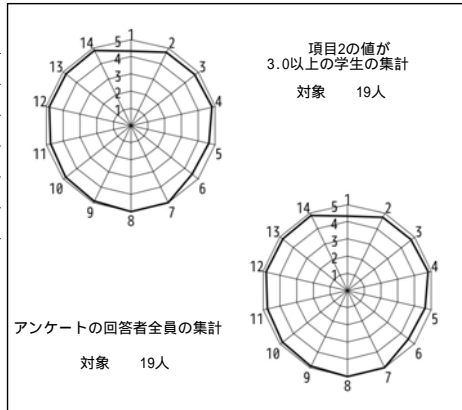
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall I believe this was a successful quarter for this Oral Communication class. At the start of the quarter the students were quiet and struggled with basic conversation, but as they took more lessons they came out of their shells and started to improve both their communication and presentation skills.

I was very pleased with the feedback and comments from the students. All of the comments made about the class are positive, but that does not mean there are no areas that can be improved. It was notable that two students scored question 5 regarding the clarity of the class goals "3" and "2". I agree with those students that I did not make the exact goals of the course clear enough. The information was on the syllabus and briefly stated in the opening lesson, but this was not enough. This is something I will address next quarter. Another area for improvement is how I help them with their listening skills. On the listening tests that the students took, their scores were relatively low. This is perhaps partly because I made the listening sections a little too difficult, but also because we did not practise listening quite enough during the quarter.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[FB]1
 授業コード 11A05-001
 教員名 ELLIOTT, Darren
 教員コード 101579
 登録人数 20
 回答数 19
 回答率 95.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

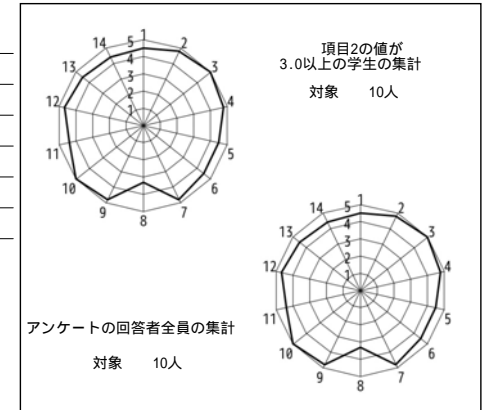


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, I was satisfied with the evaluation I received. The students appeared to be happy with the level of support, and recognized that I was flexible about deadlines and thorough in giving feedback. This is something I have been working on over the last couple of years, trying to teach the STUDENTS rather than the MATERIAL. I am attempting to regain the human connection which I believe is so important in good teaching, and that has suffered during the pandemic. As for future improvements, there were no particular criticisms and I didn't note any particular issues myself. I suppose I would like to maintain the current level.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[FB]2
 授業コード 11A05-002
 教員名 TIDMARSH, Andrew
 教員コード 104101
 登録人数 24
 回答数 10
 回答率 41.7%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

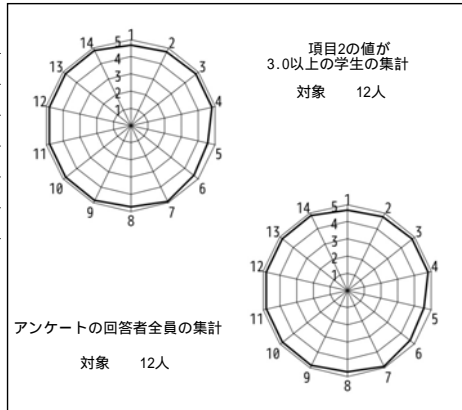


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The main goal of the final quarter for Literacy was to develop critical thinking skills into students' writing for the first time in some cases.. This meant there were numerous opportunities for students to review the mistakes they had made previously and truly aim for highly accurate and well-developed writing for their portfolios. Judging by the scores for students' final portfolios, I judge that this goal was attained when thinking about most people.
2. Looking at the information and numbers presented, the assessment is encouraging but I am still unhappy with many aspects of the class and I would like to improve on many points next year. For example, I would like to improve some of the textbook activities.
3. For the coming year, I will be reviewing the activities conducted on Schoology to make sure they are an appropriate match for the themes and topics that are used for activity questions. At the moment there are some topics that did not work quite as well as I had planned so there is definitely room for improvement.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[FB]3
授業コード	11A05-003
教員名	PEO, Jared
教員コード	104673
登録人数	23
回答数	12
回答率	52.2%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

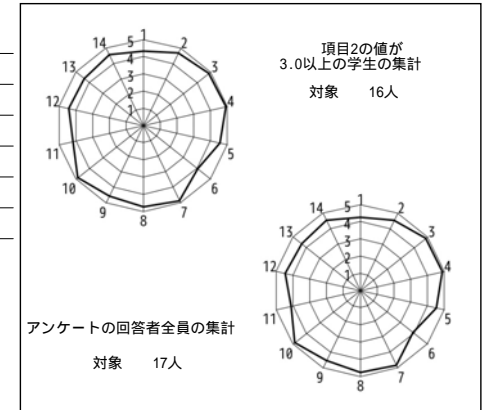
Concerning the goals of the class, students have started using techniques and strategies associated with reading and writing. Students have a good base to build upon in the following quarters.

The students who responded seemed to enjoy the class. Most of the feedback was positive. While some students have mentioned that I speak too fast, none of them had asked me to slow down in class. In addition, I always stop and ask if students have questions. Having said that, I will continue to try to speak at a rate that is easy for everyone to understand. I will also try to write larger on the whiteboard.

I tried to get students in a university mindset, develop a strong community, and teach them the basics needed for improving their reading and writing. In these areas, I found success. However, some students are still struggling with some key concepts of writing like cohesiveness and formatting. Thus, I will try to add more writing workshops and activities to help students become better writers. As for reading, I would like to improve students' reading speed and prosody while reading. I am always looking for ways to improve my classes, so I will continue to adjust classes as necessary.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[FB]4
授業コード	11A05-004
教員名	GAGNON, Greg
教員コード	103474
登録人数	23
回答数	17
回答率	73.9%
休講回数	0回
補講回数	0回

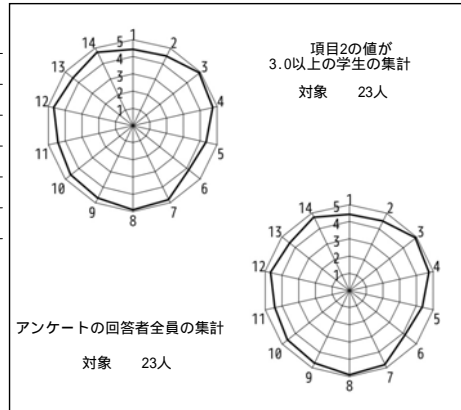


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students learn reading strategies to improve reading proficiency and competence in reading in English. Activities include both extensive and intensive reading tasks. Students learn how to write clearly and effectively. Students responded positively to the teaching methods of this class, offering some helpful suggestions for improvement. Methods included direct instruction, pair and group work, and individual work. Students were satisfied with the class overall, with 17 out of 24 responding. I received a 4.53 rating overall, and a 4.56 rating considering only questions 3-14. For question 15, a typical comment was: " I could learn how to write or read English in detail!!!!!" and "It is good that Mr.Greg have passion about teaching writing and reading process." For question 16, helpful comments included: "I suggest doing not only pair work but also actively group work(discussion) in several classes. It can be bored to just listen to the lecture."; and "I wanted time to discuss with classmates more." I am glad to have this feedback. I intend to use more group work in my classes from now on.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[FB]5
 授業コード 11A05-005
 教員名 LEAR, Christopher Adam
 教員コード 104290
 登録人数 24
 回答数 23
 回答率 95.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

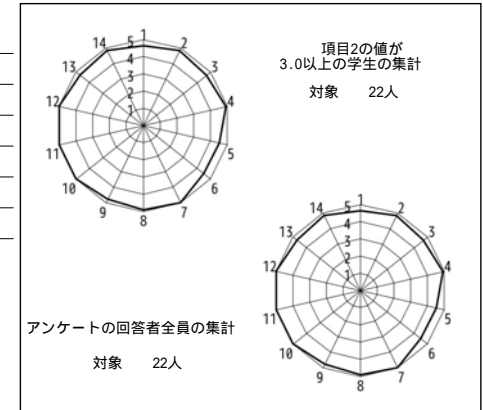


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set for the course, in my opinion, are being achieved. Students are going above and beyond their weekly reading goals, completing their textbook homework and writing assignments, and communicating their ideas about the topics during class time. Additionally, students have been learning about different aspects of essay writing and peer editing. Based on the survey results, I would say a majority of students are satisfied with how the course is going. One aspect I should attend to is to better communicate to students their progression toward the course goals. While I do give two 1-on-1 feedback sessions and check their work during in-class workshops, I think some students may be unsure of their current grade and performance in the class. For Q2 and beyond, I will strive to incorporate reporting students' current course grade during the mid-feedback session so students are better able to know how they are doing in the course.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[FB]7
 授業コード 11A05-007
 教員名 HOWREY, John
 教員コード 100371
 登録人数 24
 回答数 22
 回答率 91.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

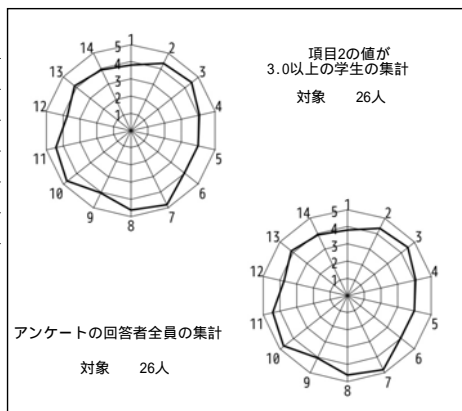
This course is designed to help students communicate effectively and clearly in writing in English. Students focus on multiple-paragraph essays, learning how to write introductions, strong topic sentences, and conclusions in Q1. They also practice combining sentences for greater variety and grammar proficiency, and writing professional email.

I was of course very pleased with the results of the questionnaire. Writing in English is challenging and not the most fun subject for students, yet the feedback was very positive.

Students commented that they had a lot of opportunities to talk and ask questions and that it felt different than a high school class, that they appreciated the feedback and opportunities to correct their work. One student did comment that the feedback was "harsh" but also felt it helped them improve. The most common comment was that my feedback was clear and easy to understand. One student wanted the same feedback on the book reports as they received on the essays so that is something I consider in the future.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]7
 授業コード 11A09-007
 教員名 FLORES, Ana Maria
 教員コード 102899
 登録人数 26
 回答数 26
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



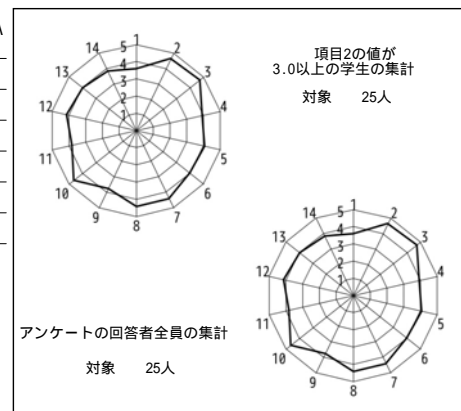
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the course have been successfully achieved through various English language projects and tasks that the students completed. The students have been enrolled in a learning management system that their course books come along. This gives the students a more independent and freer choice of the kind of language topics they are interested to learn. Based on the numerical data, the students have expressed satisfaction the way the instructions in this course have been executed.

The instructor in-charge plans to design and develop learning activities that will be useful both inside and outside the classroom. Research on other course books and learning materials are also being conducted by the instructor to provide students a variety of learning tools.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]8
 授業コード 11A09-008
 教員名 ELMETAHER, Hosam
 教員コード 104289
 登録人数 25
 回答数 25
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

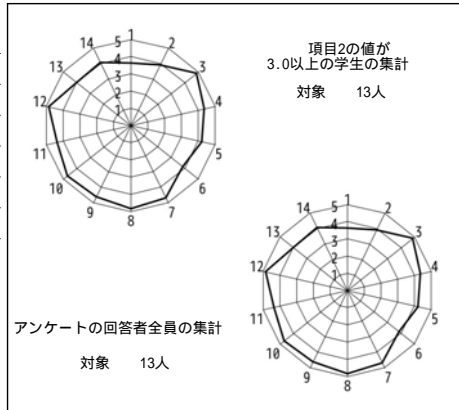
Overall
 I have taught various English subjects, each with a different specific teaching goal; overall, the main goal is to develop students' academic and communicative English skills. I have developed and used my own teaching materials (e.g., ELMETAHER English Test Textbook). Students were always well-informed of their academic progress through feedback on their weekly homework, quizzes, progress tests, and final tasks. My classes were always within the designed course syllabus and planned objectives. Students were encouraged to provide feedback in the evaluation of my classes. My teaching materials worked well and the students enjoyed the classes while demonstrating an overall improvement in their English language skills.

For this specific class evaluation
 This class was designed to develop students' academic English speaking, listening, and reading skills. The students have worked on different weekly assignments. Assignments include vocabulary tasks, Mreader, progress tests, and integrated-skills tasks. Group and individual feedback were provided through both Webclass and individual conferences. Based on the class evaluation, students very much enjoyed the class and have confirmed their English skills development.

For the next quarter, I aim to provide extra practice for the final tasks in all my classes.

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[T]
7
授業コード 11A13-015
教員名 加藤 尚子
教員コード 103630
登録人数 22
回答数 13
回答率 59.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度。

当初設定していた目標では、主にスピーキングとリーディングの能力の向上を目指す為に、多読や精読でリーディング、プレゼンテーションに向けた授業中のペアディスカッションでスピーキングのアクティビティを行いました。結果、リーディングに対する苦手意識が弱まり、スピーキングで生じる心地の悪さは改善に向かっていっていると思われます。何となく、全体的に学生の英語に対する想いが好意的に変わってきたようです。また、聞き手に分かりやすいプレゼンテーション力の上達も見られました。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

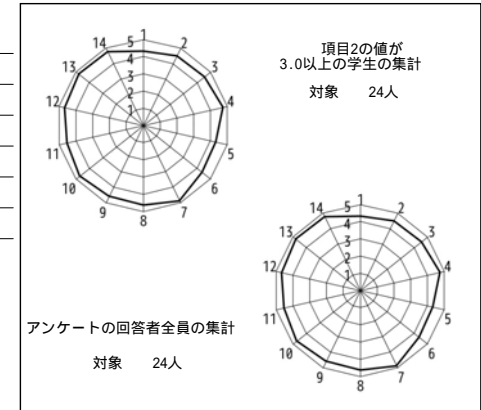
全体的に英語の授業に対する姿勢が好意的であったのが学生の英語の能力向上につながったのと思われます。実際に英語の授業を嫌悪感なしに受けられているというのは嬉しい限りです。しかし、学生自身が到達目標について力がついてきていると実感していないという課題も明るみに出ました。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

引き続き言語習得に好意的に取り組むことが出来るように、学生の目線から興味のあるトピックを授業内でのディスカッションまた、プレゼンテーションに取り入れていきます。スピーキング、リスニング、リーディング能力の向上と共に自分の考えを言葉で的確に表現できるよう尽力します。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I<全・T>
授業コード 11B01-013
教員名 OLIVERO, Regis
教員コード 104119
登録人数 33
回答数 24
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Since non-specialist first year students are all beginners in French, it is important to focus on the basic knowledge at the beginning. Rules have to be explained clearly and students should know exactly what is to be expected from them.

This group was very eclectic with students coming from all kind of departments and courses but to my surprise, most of them were actually quite motivated and interested in learning French. They all did well at the final exam and the atmosphere in the classroom was quite good during the Q1.

Using a new textbook and updated resources compared to last year, I made sure to diversify the activities during class and go through all kinds of skill practices.

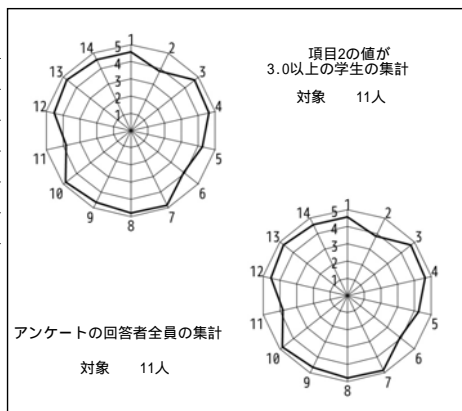
They seem to have enjoyed the activities in group especially those which involved oral expression and communication.

I will carry on with the same method and probably suggest more challenging oral activities in the next few weeks.

Overall, this group is improving in every aspects and working very well in order to achieve success.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会いⅡ
授業コード 13B01-002
教員名 中田 晶子
教員コード 055624
登録人数 11
回答数 11
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

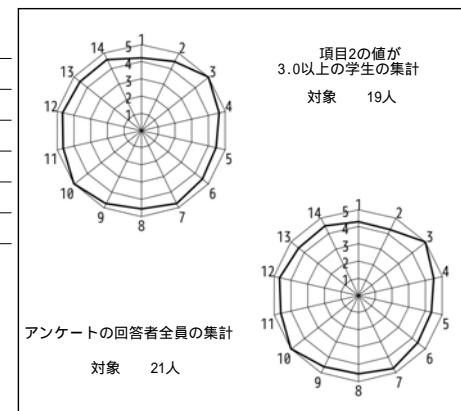
この科目は全学向け学際講義科目で、受講者には、明治初期から現在までの期間に様々な立場で日本を訪れたあるいは日本に定住した5人の西洋人のテキストを読み、描かれた日本と現在の日本との差異や類似を考察し、筆者の日本に対する評価や心情を推察し、その客観性・主観性について判断することが求められる。また、筆者の属していた文化や価値判断の傾向を学び、異文化交流、異文化理解の効用や問題についても考えるものである。8割以上の受講生が高いレベルで目標に到達しており、他の受講生も大きな問題のないレベルで到達していた。

項目4以降の評価の平均は4.52、授業の満足度は4.55であり、数値としては大きな問題のない結果となった。

最も低いのが項目2（主体的な学習）と11（主体的な学習を支援するための指導）で共に3.82であった。この結果は意外であった。学生には毎週リアクションペーパーの提出を課しており、疑問やコメントに対しては、翌週の授業で担当者から回答やコメントを出していた。このやり方については、自由記述回答の良い点として3名があげており、リアクションペーパーにも好意的なコメントが多数出ている。担当者としては、学習意欲を引き出し、さらなる自主的な学習を促すための、情報提供や指導として、授業内にリアクションペーパーへのコメントをしていたのであり、期末レポート作成のためのリサーチのモデルともなる作業として実施していたのであるが、その点が学生に伝わっていなかったようである。次回からは、その点について学生が理解できるよう努めたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育文法(初級)
授業コード 24C61-001
教員名 町田 奈々子
教員コード 017483
登録人数 27
回答数 21
回答率 77.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



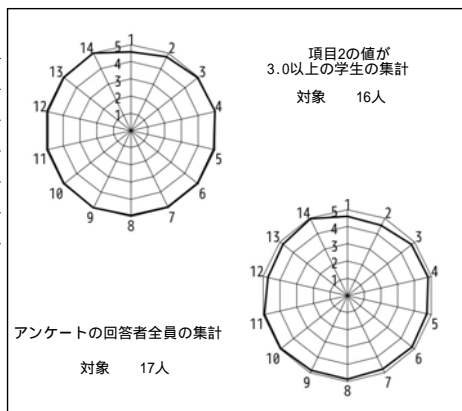
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のQ1の学生評価も全般的に良好であった。高く評価された点としては、授業に対する誠実な姿勢(7)や授業運営に関する項目(3)(10)、学生への配慮や対応に関する項目(9)(11)や、学生の質問や相談の機会(12)などである。自由記述にも「実際の教材を使いながら、ペアワークなどで体験的に日本語の文法について学ぶことができた」「絵や身近な例を交えわかりやすい授業だった」「毎回学生同士で話し合っている時間が与えられていたので積極的に取り組む姿勢ができた」「プリント教材が良かった」など、今年度もこちらが意図していた学生の積極的な参加を促す授業運営や授業内容に関するプラスの評価が多くあったことは喜ばしい。

今学期は2年ぶりの対面授業であったが、教員側のマスクは想像以上に双方に負担であったように思う。英語との比較や日本語の授業のデモンストレーションなど、普段以上に声や表現を大きくしなければ伝わりにくいと感じた点もあった。自由記述の改善点にも「時々声が少し小さい」という指摘があったが、このような指摘は普段の対面授業では見られないものである。また別科生が依然として入国できていないため、以前には行っていた実際に留学生と関わり、留学生の日本語を観察するというような課題を出すことができず、モチベーションを高めることが難しいようにも感じた。一刻も早く、留学生との交流が実現してほしい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(個人スポーツ)フィットネス
 授業コード 14E01-003
 教員名 加藤 孝基
 教員コード 104117
 登録人数 34
 回答数 17
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本実技授業は、新型コロナウイルスの感染症対策かつ教育効果向上のために、トレーニングルームを使用せず、体育館およびグラウンドを主な教場として行った。そのため、当初予定していたシラバスの授業計画とは少々異なったが、概ね学生の満足度も高かったと考えている。

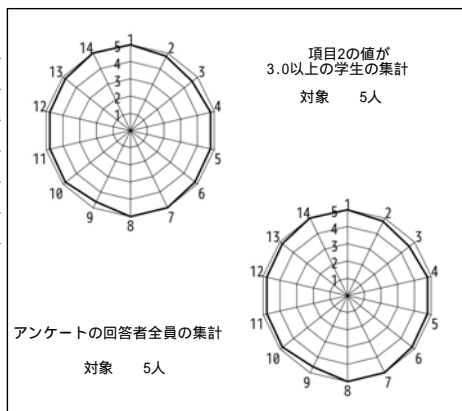
当初予定していた筋トレマシーン・ランニングマシーン等を用いることはなかったが、上半身・体幹・下半身の様々なトレーニングを、体育館およびグラウンドを広く用いて行った。当初設定した目標のひとつである、「トレーニングの目的と効果の理解」について達成できたと感じている。また、種々のトレーニングについて、筋・神経等の組織学や力学的な観点からも十分に理解できたと考えている。

本実技では、受講者の要望を聞き、臨機応変に対応しながら授業展開した。具体的には、受講者が実施したいと思うスポーツを取り入れ、その種目に関係するトレーニングを各授業の前半に行い後半はゲーム等を行う等行った。これらの形式が学生にとっては好評であったとポジティブに捉えている。また、終始明るい雰囲気を作り、全ての学生とコミュニケーションを図り、楽しく受講できる雰囲気を作ることに努めたが、それらの意見が自由記述欄に反映されていると感じている。

コロナ禍で、スポーツする機会や、楽しい雰囲気人と接する機会が激減している。本実技を通して、昨今の社会問題となっている精神的ストレスやコミュニケーション不足の解決を図ることが出来たらという気持ちを持ち、授業を行った。大学教育は、知識、情報および教養における集大成の場であると同時に、学生一人一人と社会とをつなぐ最も重要な場である。今後も、実技授業を通して、学生各々のコミュニケーション能力や、豊かな人間性を育てることが出来るよう、努めていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(健康スポーツ)バスケットボール
 授業コード 14E04-003
 教員名 飯田 祥明
 教員コード 103610
 登録人数 19
 回答数 5
 回答率 26.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目の設定目標は「バスケットボールのルール(5人制および3人制)を理解している」「チームでの自分の役割を理解している」「バスケットボールの基礎的技術とゲームにおける戦術を実践できる」の3点であった。ルール(5人制および3人制)に関しては、序盤に受講生に馴染みのない3x3中心に授業を行い、ルールを理解してもらった後、経験者が多い5on5に移行したため、達成できたと感じている。チームでの自分の役割を理解しているに関しては、ランダムに振り分けたチームのリーダー的な存在の受講生によって、上手く役割を振り分けられた受講生とそうでない受講生に分かれたように感じている。バスケットボールの基礎的技術に関しては、シュートとパス中心に、ゲームにおける戦術に関しては、オフェンス・ディフェンスともにアライメントという概念を中心に理解を深められた。

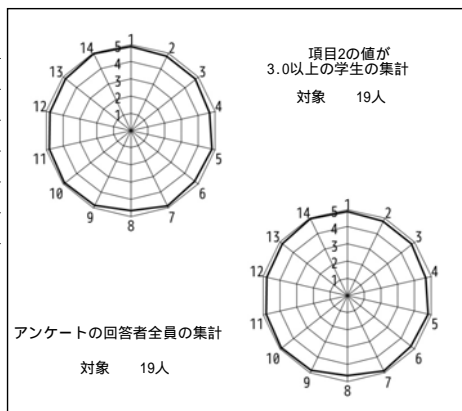
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

回答数が少なかったものの、数値データから見ると本科目の評価は高かったものと推察される。自由記述の中に「時間にルーズ」というコメントがあるが、コロナ禍の更衣室特別対応のために開始時間などを柔軟に変更していたためかと思われる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 今後は、コミュニケーションに積極的でないチームへの適切な介入と、開始時間や終了時間についての説明に取り組んでいきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(生涯スポーツ)バレーボール
授業コード	14E05-002
教員名	中路 恭平
教員コード	015255
登録人数	23
回答数	19
回答率	82.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した到達目標は、1. 集団スポーツの楽しみ方を理解し楽しむ習慣と態度を身につけている 2. バレーボールの基礎的技術を理解し、ゲームの中で状況によって使い分けられる 3. バレーボールの集団的技術とゲームにおける戦術を理解している の3点であったが、それらは概ね達成できたと考える。今回の授業ではバレーボール経験者の割合が高く、その学生たちが学習場面で未経験者をリードしてくれることが多かった。また、新型コロナウイルスの感染対策として履修者数を26人に限定したが、履修取りやめや欠席回数が重なって離脱した学生が4人ほどいた。また、コロナ感染者や濃厚接触者が出たこともあり、毎回の授業出席者が20名を下回り、チーム構成に苦労することが多かった。履修者の離脱は予想しづらいが、もう少し履修者人数を多く設定するべきであった。生涯スポーツという科目の特性上、競技的なスポーツというより、レクリエーション的なバレーボールを指向しようとしたが、経験者の割合が多かったため、学生たちは競技的な志向に向きがちであった。そのため、学生の意見を取り入れつつ、学習内容を修正しながら運営していくことが求められた。結果として、学生たちの評価は概ね良好であり、満足度も4.95と比較的高い授業になった。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地誌概論1
授業コード	12B11-001
教員名	岡本 耕平
教員コード	049502
登録人数	37
回答数	4
回答率	10.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
 (回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は履修者数37、レポート提出者数32、期末テスト受験者数31であったが、授業評価回答者は4人しかいなかった。昨年度と同じ「地誌概論」も履修者数は39と今年度と同程度であったが、授業評価回答者は10名いた。昨年度から今年度にかけて回答者割合が4分の1から8分の1に減ったわけだが、その理由は不明である。

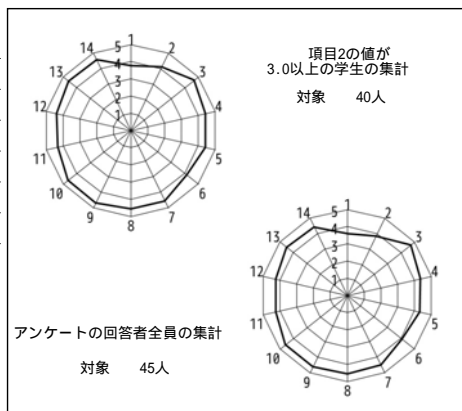
設問5に対して、1人が「4」、3人が「5」の評点であった。一方、設問6に対しては、全員が「5」の評点を付けた。したがって、「開講当初に設定していた目標と到達の程度について」は、回答者に限っては概ね達成できたとと言える。

設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」に対しては全員が「5」の評点を付けた。自由記述に関しては、設問15に対して2人が回答し、それぞれ「豊富な資料を元に、普段は聞けないような講義がなされていたこと。」「先生の説明に加え図や動画等を要所所で用いており、とても分かりやすかった事。」と評価した。設問16に対しての記入はなかった。したがって、授業評価回答者に限っては、この授業は総合的に高く評価されたと言える。

設問の中で比較的评价が低かったのは、設問1と設問2であり、どちらも2人が「4」、2人が「5」の評点であった。冒頭に記したように、この授業は昨年度、今年度ともに受講者数が多くなく、履修登録時に人気のない授業だと思われる。当初は来年度は内容を抜本的に変えようとも思ったが、上記の で言及した自由記述などからは、それなりに評価される内容ともいえる。来年度の授業内容をどうするかについては、引き続き検討することが必要だが、少なくともシラバスの書き方は変更する必要がある。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(アフリカ)
授業コード 22C47-001
教員名 山口 亮太
教員コード 103824
登録人数 137
回答数 45
回答率 32.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、以下の3点を到達目標としていた。

1. アフリカがたどった歴史と文化について理解している
2. アフリカの諸地域が置かれている状況を把握し、現代的な課題とその背景について理解している
3. 自らがアフリカを眼差す視点について自覚することができる

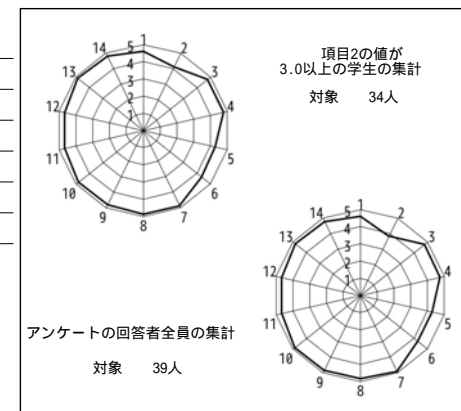
学生に課した期末レポート課題からは、授業中に説明した範囲において1.と2.の点に関しては概ね達成できていることがうかがえたが、3.については、学生によって達成度合いにばらつきが見られた。

アンケート項目からは、事前の興味(項目1)、予習復習を含めて主体的に授業に参加しようとする意欲(項目2)が平均よりも低いことがわかる。自由記述では、シラバスを読んでも興味が湧かない話が多かったが、実際に授業を受けてみると興味を持ったトピックが多くあったという意見が見られる。従って、シラバスの記述が淡泊すぎることから、事前の興味を引くことが出来ず、予習への動機づけがうまく機能しなかったと推測できる。他の項目に関しては、概ね平均値から外れておらず、達成できているものと見なすことが出来る。

今後の改善点としては、シラバスの記述をより明快に、関心を引きやすいものにする、到達目標3について、より積極的に学生が意識を向けられるような講義設計にすることがあげられる。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント1
授業コード 23C62-001
教員名 井村 安之
教員コード 048439
登録人数 48
回答数 39
回答率 81.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

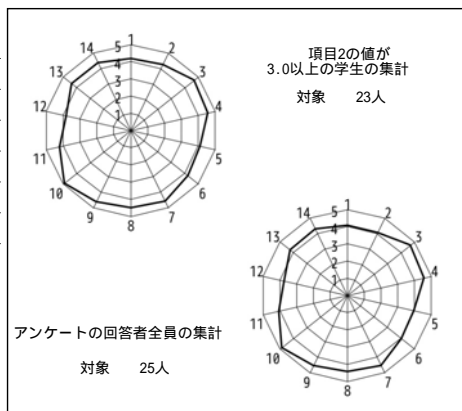


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的な数値分布をみると比較的良い評価をしていただいたようであるが、さらに改善していかなくてはならない点もいくつかみられた。本授業では、心理検査を予備知識なしで、まずは自らが受けてみて、その体験に基づいて解説を行っていくという形式をとっているため、予習することはしないように伝えられている。したがって、設問2が低くなっているのは、授業の性質上、やむを得ないことであるといえる。授業の到達目標に関する設問5、6も低くなっているが、後半の授業が各心理検査の紹介という形の内容であるため、余計、授業の目標が曖昧になってしまうところがあるように思われる。そういった内容であっても授業目標を常に意識した解説を行っていきたい。また、意見や質問などを書いてもらい、それに対する回答をする時間を十分に取るようにしたのは良かったが、もう少し生で学生とやり取りをしたり、学生同士が話し合う時間を持つなど、教員だけが話しているという一方的な授業にならないよう工夫していきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	和歌文学研究
授業コード	24C28-001
教員名	伊藤 伸江
教員コード	103266
登録人数	58
回答数	25
回答率	43.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

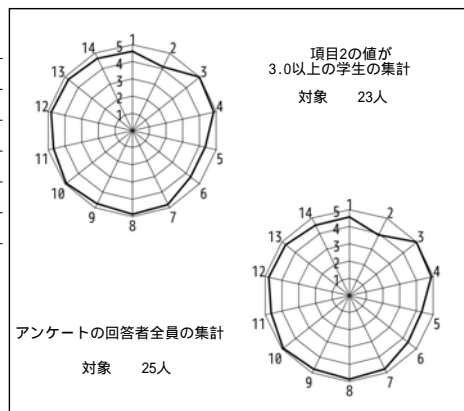


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、藤原定家が、自らの詠草の中から秀歌を選び歌合の形にまとめた『定家卿百番自歌合』を題材にしている。学生が、様々な形態の和歌に触れることで、日本の詩歌のあり方を学び、そこから日本文化の特徴を感じとり、考察し、自らの言葉で表現しようようにすることを目標においた。講義は、三十一文字の定型の制約がある中で、どのように多くの内容を盛り込む技法が使われているか、歌二首を比較対照することで理解できるようにつとめ、同時に、歌人伝、歌壇史、歌論、作品の伝来などの和歌文学の研究において学ぶ必要のある諸方面の知識を毎回はさみこむようにした。講義では、各回配布の資料に本講義の目標を示し、広がりが必要な内容を整理して聞けるように配慮した。講義内容に関しては、リアクションペーパーで、各回にとりあつかった和歌二首の表現技法を比較し考察した結果を記述させ、毎回の考察の積み重ねにより最終的におのおのが歌論にもとづく和歌の理解と判定ができるように意図した。リアクションペーパーからは、授業内容を理解してくれている様子がうかがえ、また講義内容を整理しさらに自分で考えるというペーパー執筆の意図も理解してくれていることもわかった。今後、次の講義回でのペーパーや、スクリーンでの資料投影のさらなる活用をなし、学生により即した講義の形態を整えていきたい。また、感染症状況が許せば、個別の質問への対面での対応もゆっくりなしたいと思っている。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文学史B
授業コード	24C30-001
教員名	三宅 宏幸
教員コード	103077
登録人数	71
回答数	25
回答率	35.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は日本の近世に出版された作品を対象として、その挿絵に着目し、近世文学と絵との関係性について考察する内容である。

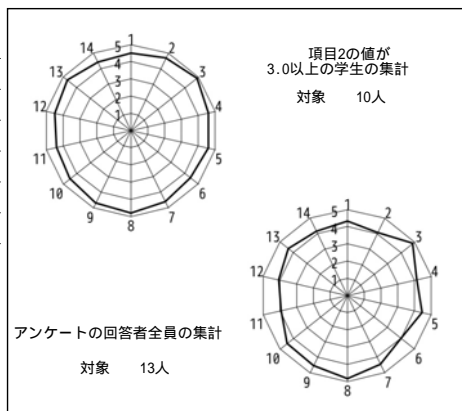
開講当初に設定していた目標は、近世文芸の通覧をふまえ、近世文学史の流れを理解している、近世文芸が有する特徴 特に 絵の諸相を理解している、近世文芸が江戸時代にとどまらず、近代や現代へと繋がることを理解している、とし、近世文化が脈々と現代にも受け継がれていることを理解することを目標とした。提出された期末レポートは、江戸時代の文学と現代のサブカルチャーとの共通点など興味深い事例の報告が多く、アンケートの全体満足度も4.5を超えた。概ね目標を到達したと考える。

アンケートの自由記述では、「遠隔授業だったが、資料のどこを見れば良いかなどの説明が分かりやすかった」、「受講者から提出されたコメントシートにフィードバックする時間を取ることでより理解が深まった」、「具体的なたとえ話が良かった」などの意見があり、拙いながらもわかりやすい授業を心がけたことが評価された点は嬉しい。

一方、「授業資料の豊富さに比べて解説文が少なく、復習がしにくかった」という意見もあった。授業資料については、見ただけで理解できるのではなく、授業を聴きながら理解できるようにバランスを考慮して作成したつもりだが、情報が不足していた可能性もある。頂いた意見を今後につなげたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy1
授業コード 48A11-001
教員名 HANNAH Nicola
教員コード 104295
登録人数 15
回答数 13
回答率 86.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Generally, I think the course went really well. We did all 5 Intensive Readings and followed the syllabus as advised.

The pace of the course and amount of Intensive Readings were just right. The IRs were engaging, a good length and developed the students understanding and ability to critique issues related to SDGs.

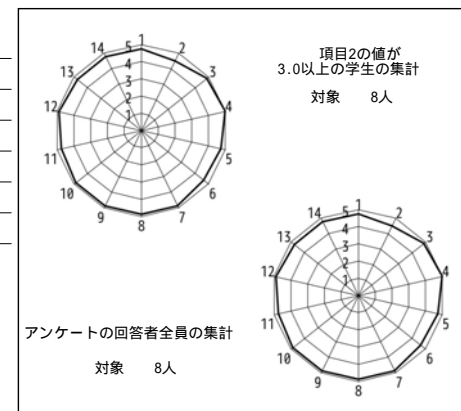
For the research essay I gave students examples of sample essay, referencing and research report sections and we discussed various sections, for example Abstract and Literature Review, in class. However, from final drafts it is apparent some could not write a clear Abstract.

From their self-assessments and comments / suggestions at the end of the course, the following was included, "I really enjoyed the Intensive Readings because I learned a lot of new vocabularies and got information about SDGs". Many students commented they enjoyed learning new vocabulary from the Intensive Readings.

Two students commented that they would have liked more help with the essay, which I will implement in future. Some commented the class was fun and interesting. Generally, the end of course feedback was positive and the students believed they had learned the objectives of the course.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB3
授業コード 32A20-003
教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
教員コード 103464
登録人数 15
回答数 8
回答率 53.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。学生がしっかりと目標達成に向け努力したことで、今クラスは達成することができました。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

学生の以下のコメントで、100分の間、スペイン語で会話を行う環境を作りました。それだけでなく、一人一人に向き合い、誰一人取り残さないようアットホームな雰囲気心がけ、スペイン語で自信をもって取り組んでもらうようにクラスメイト同士の評価と先生の面談を行いました。

スペイン語力を身につける過程や成長を一緒に見直し、あらたな目標を立てられました。この取り組みは、大成功だったと思います。

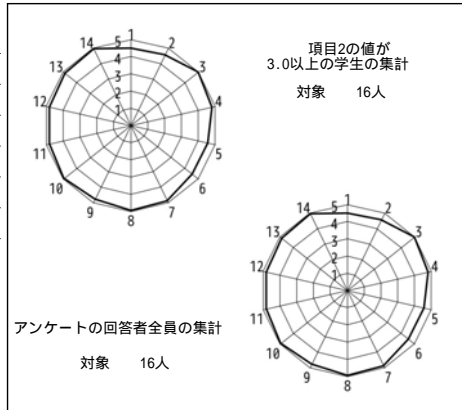
学生のコメント：「ペアワークやグループワークが多く、スペイン語を使って会話をする機会に恵まれていた点。

自分のプレゼンテーションに対するクラスメートの評価や先生の評価を受け取ることができたため、自分に何が足りないのか、次に生かせることは何かを学ぶことができた点。」

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など次クォーターも引き続き同じ方針で行っていきたいと考えております。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語 IA3
授業コード	33A11-003
教員名	NISHINO, Aurelie
教員コード	103640
登録人数	18
回答数	16
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students at an intermediate level in French through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. Even in this particular situation, they were really active and it was lovely to teach to them. They didn't get the situation bother their studies and we managed to reach a very good level of French.
2. Following the results of the enquête, I will try next quarter to provide more songs and other activities to develop their interests towards French. This year was special and with the situation, I think that the class did very well. In fact, they manage to do a lot of very high-quality videos, presentations as groups even if they didn't met each others. The quality of their work was really amazing.
3. For the next quarter, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past quarter experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語 IB2
授業コード	33A14-002
教員名	HERGOTT, Florian
教員コード	101725
登録人数	19
回答数	3
回答率	15.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

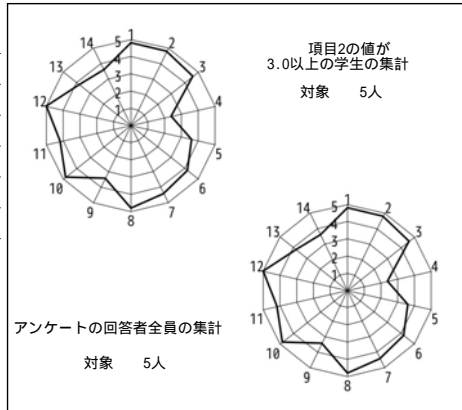
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

第2クォーターのワークショップは順調に進み、目標も達成できました。学生たちは、主に3~4人の小グループで勉強していました。学生のレベルがかなり異なるため(フランス語学科以外の学生も参加)、グループ内に1~2名のエキスパートを中心とした編成が組まれた。閉じ込められていた期間が終わったら、仲間との交流は特に嬉しいものです。他学部の学生も、仲間に助けられながら、フランス語でのコミュニケーション能力を高めることができました。フランス語学科の学生たちは、そのスキルを定着させることができました。今学期のワークショップの生徒には非常に良い相乗効果があり、大変満足している。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語実践演習A
授業コード	33C05-001
教員名	DASSONVILLE Nicolas
教員コード	104635
登録人数	9
回答数	5
回答率	55.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course, my first at Nanzan University, was designed as a workshop (B1 level). Students were asked to prepare a group presentation on a film. We went through each step of the preparation and rehearsal process together. Based on the survey's results and my self-assessment, I can draw the following conclusions :

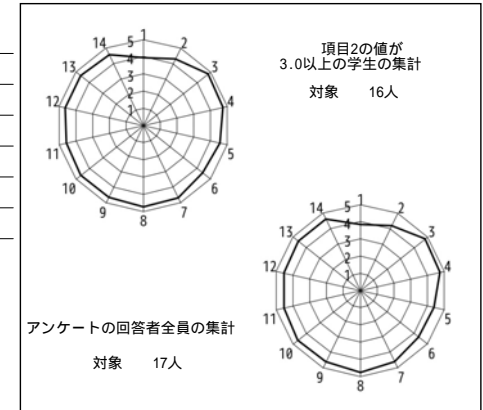
The concept of this course makes sense in this context. Each week, students were asked to prepare one aspect of their presentation, with my guidance and feedback, and share it with the class. The final result was convincing in my view: all 9 students were able to deliver a high-quality presentation, far above their expectations. This experience helped them improve in many ways.

The main challenge I encountered was the extreme heterogeneity in proficiency levels and autonomy among students. Out of 9 students : 3 were perfectly able to perform the tasks as originally designed (approx. B1 level and autonomous); 3 had some difficulties (approx. A2 level, needing a lot of guidance); 3 had a very low level (A2 minus, not autonomous, in constant need of direction and support). As a result, I had to continually readjust the activities that I had originally planned, which made the course less smooth and probably frustrating for the stronger ones at times.

Looking ahead, I think I can improve the planning of the course in this context and the sequencing of the presentation's preparation: a more comprehensive evaluation on day one, easier tasks, more intermediary steps, and maybe a bit less autonomy (closer guidance, etc.).

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ文学研究
授業コード	34A22-001
教員名	加藤 博子
教員コード	100480
登録人数	65
回答数	17
回答率	26.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

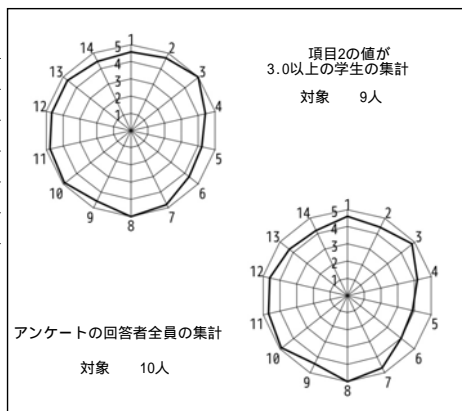
開講当初は、ドイツ文学に関する知識と理解を得て、様々な分野での研究テーマに活かせる着想をドイツの文学から得られることが到達点と定めていました。大いに刺激を受け、素晴らしいレポートを完成させてくれた方々がおられる一方で、最後まで何ら興味を持つことができない学生もいらっしゃったようです。

受講していただいた方々は、おおむねご満足いただけたようですが、しかし出席率がかなり悪く、授業評価アンケートへの御回答数も非常に少ない結果となっています。初回で授業のねらいや、授業で提供する知識や情報について、もっと具体的にご説明し、授業への関心をもっていただけるよう努力すべきでした。そしてドイツに関心をもつ学生向けに話を進めることが多かったため、ドイツに全く興味のない学生の皆様には、疎外感を与えてしまったかもしれません。これは、ある程度はドイツ文学を学ぼうとしている方々が受講されているという先入観でカリキュラムを組んでいたことが間違いであったのだと思います。ドイツには関係のない専攻の方々が受講していることをもっと考慮しなければならぬと、このアンケート結果から理解しました。

もし来年度も担当することになれば、映像資料を提示する際の照明に気を配り、また視聴時間の調整をすることで、学生の皆様の集中力を維持できるように留意したいと存じます。また、より一層、関心をもって視聴していただける映像をご用意したいと考えています。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語III読解
授業コード	35C03-001
教員名	趙 晴
教員コード	100960
登録人数	29
回答数	10
回答率	34.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限りでは、本講義の当初設定した目標にほぼ到達したと思います。

少し難しい講義ですが、学生たちはみんな真面目に取り込んでいて、熱心に勉強して、よく頑張りました。

また学生たちは評価してくれたこともたいへん嬉しく、学んでほしいという気持ちが伝わったのがします。

主に評価された点は 民間伝承からエッセイまで、多種多様な中国語の文章から、中国語の単語の読み、用法を学ぶことができ、楽しかった。この授業を受講したことで、読解力が高まったように感じる。 趙先生は単語の用法や意味を、例やストーリーを交えて丁寧に説明されていたので、とても分かりやすかった。

コメントを読んで疲れが飛びました。

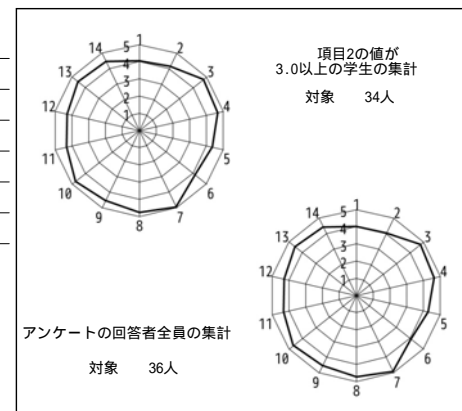
また以下のコメントもあります： スピードが少し速くて、訳をまとまらない時があった。 試験範囲が多すぎる。

試験範囲のことはまた考えます（笑）が、スピードについては調整したいと思います。

これからも学生と共に確実に学べるように勉強していきたいと思ひます。 謝謝！

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国文学研究
授業コード	35C13-001
教員名	蔡 毅
教員コード	100086
登録人数	54
回答数	36
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今の若者は「古典離れ」「文学離れ」などよく言われますが、アンケート結果によれば、平均得点は4.5にのぼりますので、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したように思われます。

そもそも自己点検とは問題点を確認したうえで、将来に向けてよりよい授業を受講生に提供するための改善策と決意を表すものですが、私は今年3月すでに定年退職し、今回の授業は南山での最後の講義でした。ですので、自己反省の代わりに、老婆心ながら南山生に一言申し述べさせていただきます。

孔子には次の名言があります。

「知之者不如好之者。好之者不如樂之者。（これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず）」。その意味は、あることを理解している人は知識があるけれど、そのことを好きな人にはかなわず、あることを好きな人は、それを楽しんでいる人には及ばないということです。すなわち知る者より好む者、好む者より楽しむ者が勝っています。

学習を苦痛に感じることなく、自ら学ぶ意志がはたらき、さらに心が躍る思いになる「楽しむ」という状態であれば、最高の大学生活を送ることができるのではないのでしょうか。就職後、自分の従事する仕事に対しても同じ感覚であれば、最高の人生になるのではないのでしょうか。

学生諸君とともに私も次の研究活動を楽しみたいと思ひます。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営管理論A
授業コード	42E03-001
教員名	藤川 なつこ
教員コード	101618
登録人数	26
回答数	4
回答率	15.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、経営管理論の理論的内容を理解したうえで、現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価で得られた回答数が少なかったため、評価の平均値等の数値データは算出されていないが、本講義では以下の点に心がけながら講義を進めた。

グループディスカッションの実施

単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、毎週グループディスカッションを実施し、講義内容について学生間で考える時間を提供し、理解を深めるようにした。

学生からの質問への対応

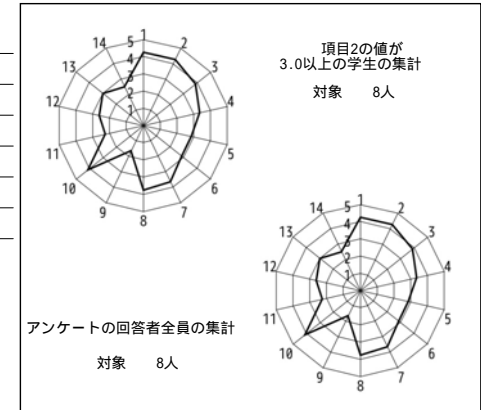
講義後にチャットに質問を書いてもらうということを毎回行った。また、そこで出た質問に対しては、全体に対してその都度回答し、疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生間の共同学習の場を設けることによって学生とともに講義をつくり上げていったことが、この授業の良かった点、評価できることとして「ディスカッションで他の人と意見を交換できること」が学生からあげられているという評価に繋がったと考えられる。しかしながら、課題としてインプットとアウトプットの時間配分および授業外の自主的な学習意欲の喚起があげられる。

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次クォーターはさらなる努力をしていきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(総合商社論)
授業コード	42F01-001
教員名	澤井 実
教員コード	103270
登録人数	54
回答数	8
回答率	14.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

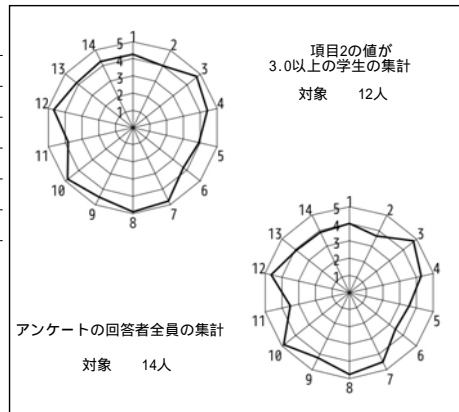
(1) 学生が涵養すべき能力の一つに、他人の話の概要を理解し、その内容を記述できることがあるように思われる。コロナ後の全面対面授業に際して、こうした能力を養成するために、オンライン授業で実施したような詳細なレジюмеは用意せず、板書も講義の概要にとどめ、学生には可能なかぎりノートを取るよう指示した。

(2) しかしアンケート結果をみれば、この授業意図はうまく実現していない。総じて授業は難しく、質問の機会も十分に設けられていないとある。質問についてはwebclassで数回にわたり質問をしてくる学生もおり、また教室で授業の後に質問に来る学生も多数いたため、8名の学生のアンケート結果をどのように理解したらよいかまだ迷うところが残っている。

(3) (1) で述べた能力は学生が涵養すべきもっとも重要な能力であり、読書と注意深い授業参加を通して獲得されるものと信じている。しかし提供する授業内容と難しいと感じる学生がいる限り、もっと多くの板書、丁寧な説明(たとえ授業内容を一部制限したとしても)が必要なことは明らかである。またノートのとり方についても別途指導すべきと思われる。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)1
授業コード 42F03-001
教員名 金丸 義弘
教員コード 104609
登録人数 43
回答数 14
回答率 32.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

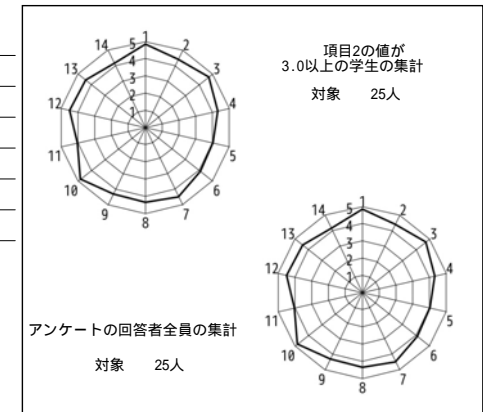


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標について、受講者の3分の1は出席率も良く全体を理解し、当初目標に十分到達したと思います。次の3分の1は出席率が半分程度であり、出席した講義のみについての理解は良いが、全体像把握、目標達成とも上位3分の1ほどは出来ていません。残りの3分の1は出席率も悪いため、さらに理解は進んでいないが、ウェブクラスなどで自習した学生についてはそれなりに講義の内容は把握できたようです。1Qはコロナ対策で3分の1ルールは不適用、講義に全く出席しなくても定期試験の受験を認めましたが、3Qについては3分の1ルールの適用及び評価軸を定期試験重視から出席率及びリアクションペーパーの内容を考慮したものに変更し、それを講義開始前に徹底しておきたいと思います。また評価の自由記述として「スライドで示されている情報が多すぎて何のために示されている情報がわかりにくかった。全体像が理解できなかった。」という意見がありました。これはウェブクラスでも各自が自習が出来るようにパワーポイントに内容を盛り込んだためですが、3Qからは少し簡素化して出席している学生の理解が進むように変更して行きたいと思えます。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 商業簿記中級I
授業コード 42H01-001
教員名 白木 俊彦
教員コード 101090
登録人数 35
回答数 25
回答率 71.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

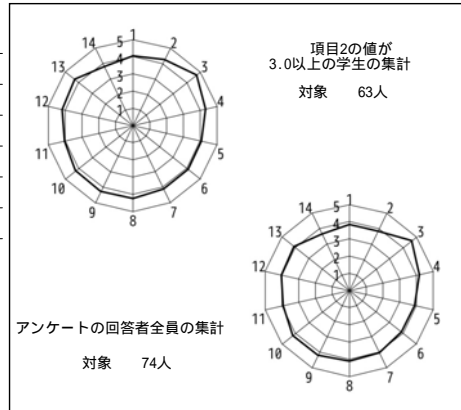


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、会計原理の理解を基礎として、商業簿記の理論的・技術的構造につき、中級程度(日商簿記検定2級程度)の領域で、資格試験で頻繁に問われる内容について、試験に合格できるレベルの実力をつけることを目標とした。本年は、対面授業による講義、演習、試験となり、オンライン講義よりも受講生の反応をみつつ進行できた。内容の理解に関しては、講義ごとの質問、感想などを提出させ、理解できていることを確認しつつ進めた。授業評価結果においても、その点は評価されており、自由記述の回答においても、「質問内容について丁寧な解説であった」という意見もみられ、疑問点の理解補充ができたように感じられた。しかし、試験結果から判断すると、必ずしも、多数の受講生に対して十分な成果が得られたかは疑問ではあるが、試験問題の量的な配慮が必要であったかもしれない。全体の数値評価は比較的良かったと思うが、授業評価対象科目全体の平均値からすると改善の余地がある。今後の課題としては、簿記のような技術を習得する科目は、各自が演習を繰り返すことが前提になることから、課題の提供について工夫が必要である。特に、理解が難しい内容について、さらなる検討が必要であると思う。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学原論A
授業コード	44B40-001
教員名	京 俊介
教員コード	104606
登録人数	141
回答数	74
回答率	52.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

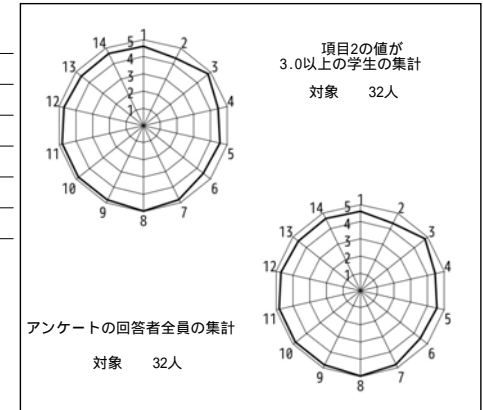
本講義の目標は、政治学に関する基礎知識、特に現代日本政治を自分なりに観察・分析するための「ものの見方」を習得し、その知識を使って自分なりに政治的事象を説明できるようになることである。暗記に重点を置くのではなく、得た知識を使って自分の言葉で説明することを重視しているため、定期試験は「全て持ち込み可」で実施し、かなり学生側の自由度が高い設問にした。答案の出来はかなりバラつきがあったが、よく書けている答案も一定数あった。本講義では、大学での学問で何が重要であるかを繰り返し説明したが、それは「良かった点」に関する自由記述「大学での学習の本質的なポイントを意識した学習ができた」などに現れていると言えよう。

反面、この方針をとると一定数の学生からの評価は低くなり、これが本アンケートの平均値を下げていると考えられる。講義の方針を理解しないまま、暗記型の学習方法に囚われている学生にとっては本講義のスタイルが満足いくものではないことが、過去の授業におけるいくつかのデータを踏まえた考察から明らかになっている。毎回の授業における学生からのコメントでは、「暗記が大変だ」という趣旨のものが再三にわたって見られたり、定期試験の答案でも知識をただ並べるだけのものがあった。

否定的なものも含め、概ね想定通りの評価であったので、細かな点の改善は当然に施すとしても、意欲的な学生のために大きな方針は今後も変えるつもりはない。なお、「改善してほしい点」の「中京大学の学生との比較」については、各回の授業における学生からのコメントでは肯定的な反応も多かったことを付言しておく。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ジェンダーと法
授業コード	44C26-001
教員名	村林 聖子
教員コード	102382
登録人数	186
回答数	32
回答率	17.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度Q1での本科目は、履修者数が186名であったため、3つのグループに分け、グループ1が対面の際は2と3のグループはオンライン、という形式で行った。Webclassで受けつけた質問等やレポート内容から、2つの到達目標（ジェンダーという視点の意義理解と法的また法律上の問題の検討）については、一定程度達成できたと思われる。

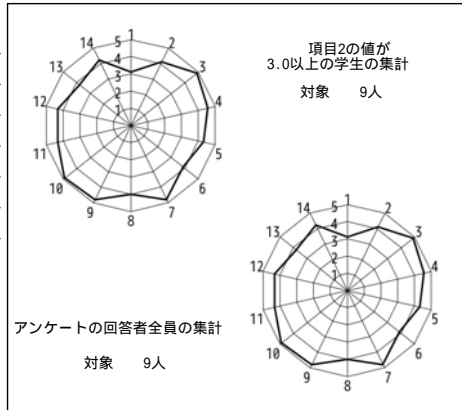
- ・設問項目1～14のうち、平均値が最も低い項目は2（主体的努力）の4.34であり、最も高い項目は8（教員の声など）の4.97、講義全体への評価である項目14は4.63であった。回答者数は32名（17.2%）であるが、肯定的な評価を示されたことは率直に喜ぶたい。
- ・設問2（主体的努力）の平均値は最も低かったが、履修者から提出されたレポートからは、ニュースや新聞記事、文献や資料など、講義外で目配りをしていたことがうかがわれる。

項目2の他、項目4（授業の構成と進行）と項目6（到達目標の達成力）が4.47と比較的低い評価であった。項目4については授業計画を検討したい。項目6については、レポート課題の早期提示の効果はあったと思われるが、双方向のやりとりを増やす工夫をしたい。

・また、項目16には「こまめな休憩が欲しい」との記入があった。3限と4限の間の休憩は行っていたが、検討したい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語I6
 授業コード 46F01-006
 教員名 Jean Claude AHWENG
 教員コード 104148
 登録人数 33
 回答数 9
 回答率 27.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



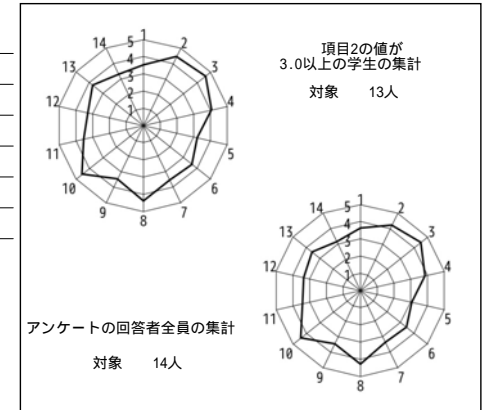
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Based on the tests and direct feedback from students, the teacher thinks that: (1) The goals of the course were achieved and the students learned a lot of new knowledge. (2) Good teacher-student communication allowed the teacher to effectively convey the contents of the course. (3) Future classes will incorporate the latest international issues.

The students took the classes and assignments very seriously and the class environment was very good, making teaching a pleasant and rewarding experience for both students and teacher.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境会計論
 授業コード 46N13-001
 教員名 東田 明
 教員コード 101591
 登録人数 31
 回答数 14
 回答率 45.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、「1. 企業に対して環境、社会的課題への対応を求める制度の要請を理解する。2. 社会から要請される環境、社会的課題を企業内に取り込む際に、また企業の取り組みをステイクホルダーに説明する際に会計が果たす役割を理解する。」の2点であった。この目的にしたがってカリキュラムを作成し、授業を実施した。しかし、アンケートの結果を見ると、学生の満足度は十分に高いとは言えず、また学生の興味を喚起することもできなかったようである。一つの要因は、「環境会計論」という科目の特性上、何回かの講義では会計や計算の役割を掘り下げて講義をしたが、それが総合政策学部の学生の関心と合致しなかったのかもしれない。もっとマネジメントの側面に焦点を当てて授業をすれば、学生の関心も高まったのかもしれない。もう一つ付け加えるとすれば、「環境と経済はウィンウィン」といった、わかりやすい話を意図的に避けたことが、学生の理解を難しくした可能性もあるかもしれない。もう少し丁寧な説明が必要だっただろうか。この点は、次年度の課題としたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Communication7
授業コード	48A10-007
教員名	SELTMAN, Zen
教員コード	104672
登録人数	19
回答数	3
回答率	15.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

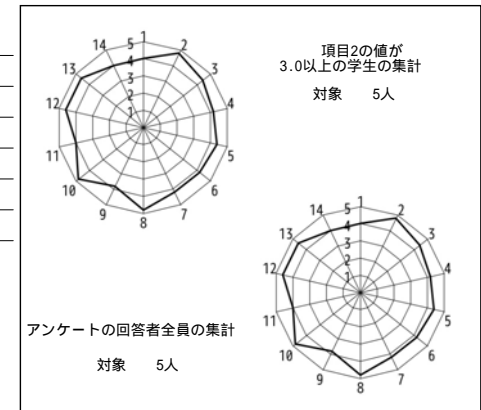
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Goals: At the start of the semester, I set two primary goals for the class. First, I wanted to fulfill the class's objective: teaching students about SDGs while developing their English communication skills. I believe I was able to achieve this to the best of my ability. Second, I wanted to create an atmosphere that would encourage students to actively and willingly engage in class discussions. This was a challenging task that I was not always successful in accomplishing.

Points to Improve: I have received positive feedback from my students, so I am satisfied with my overall performance. However, there are still a couple of points I would like to continue to develop. One point I would like to improve is my organizational skills. There were times during the quarter when I felt overwhelmed by all of the students and the assignments I had to assess. Becoming more organized would have helped me deal with the workload. This would have also helped me streamline the class. Another point I would like to work on is improving the outcome of my second goal (refer to the 'Goals' section). One method that I found particularly effective was to present the topic/issue in a way that is relatable to the students. As such, I would like to try to come up with more material that will pique the students' interest and hopefully get them excited about the Myriad topics covered in class. To that end, I have already come up with additional material that I intend to use if I am to teach this class again.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy2
授業コード	48A11-002
教員名	BALLESTEROS, Donna
教員コード	104319
登録人数	19
回答数	5
回答率	26.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

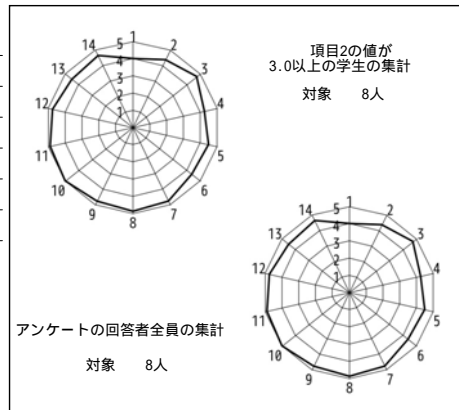


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Based on the output of the students, the goals of the course were achieved. A huge challenge still is how to encourage those who have low level of English ability to persevere and submit drafts for each part of the paper, regardless of the quality. Getting feedback in each part of the paper determines the quality of the final output.
2. The result of the evaluation by students appear that I need to improve on delivering the lessons and guiding them, especially those who are left behind. I should also make sure to always end the class on time.
3. For next year, I will further improve on my lecture materials to better simplify concepts and find ways to encourage students to be confident in submitting drafts every deadline regardless of the quality.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy5
授業コード 48A11-005
教員名 FRENCH, Gary
教員コード 046912
登録人数 19
回答数 8
回答率 42.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

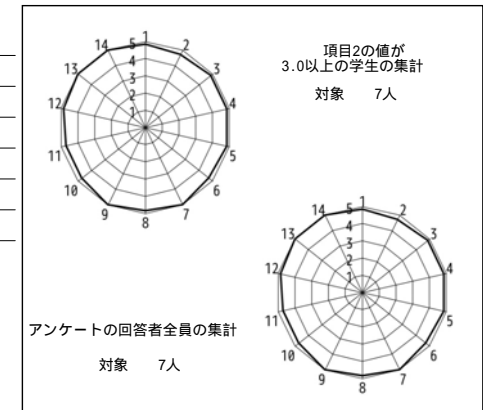
In terms of the course goals, we were not able to get through the five intensive readings as they were time intensive and dense. I felt it was more important to have a balance between the readings and the writing goals, so we focused more on the latter. There were times in class that I sensed the students were tired, so I mixed in other activities like timed writings, story writing, and grammar clinics, and as a result, ended up taking more time per unit than I had originally planned. I think however, mixing things up increased the student level of engagement.

I am pleased with the over all student feedback based on the numerical data and comments. I made an effort to communicate with the students and adjust the course schedule to their wants and needs. I feel the students made an excellent effort in the class.

In the future, I will begin the research paper component earlier in the quarter. I felt I rushed the students too quickly at the end to finish their papers, and while they did very well, it would be good to start the research process sooner so the students have more time. Overall, the students did the work necessary and should feel good about their accomplishments.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSアカデミック・ジャパニーズI
授業コード 48A12-001
教員名 石川 美紀子
教員コード 104482
登録人数 9
回答数 7
回答率 77.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

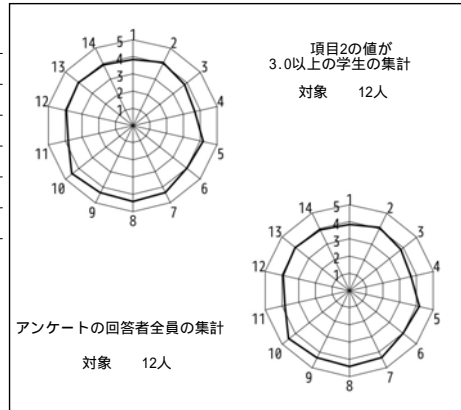
2年生を対象とした日本語の授業であり、1年生時に学習した内容をさらに深めた日本語力の向上を求めて、「場面に適した日本語を適切に使用できる」こと、「適切な体裁・文章構成に則った、日本語の文章が作成できる」こと、「協同学習の場に主体的に参加できる」ことを目標として設定した。1年生時に来日できていなかった学生が2名おり、日本在住歴が長い他の学生との間にレベルの差が生じていたことは否定できないが、少人数での授業であることも幸いして、概ね目標は達成できていたと思われる。

学生たちからの評価からも、少人数授業でひとりひとりの発言量も充分にあり、教科書の内容のみならず、あらゆるトピックでディスカッションできたことに満足感が得られたようである。文章作成に関しても、問題点を全員で検討しつつ、日本語特有の文章フォーマットに慣れる練習ができていた。

ただ、中には将来的に日本語で卒論を書く意思がない学生もおり、本人がアカデミックな日本語を身につける必要性を感じていないため、本講義の達成目標を共有できない事例があったことは残念だった。大学教育においては、どの言語であれアカデミックスキルを身につけることの重要性を学生との間で十分に再確認することが、今後も継続して必要になると思われる。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSスペイン語III
 授業コード 48A23-001
 教員名 APAZA, Pablo
 教員コード 100878
 登録人数 42
 回答数 12
 回答率 28.6%
 休講回数 0回
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

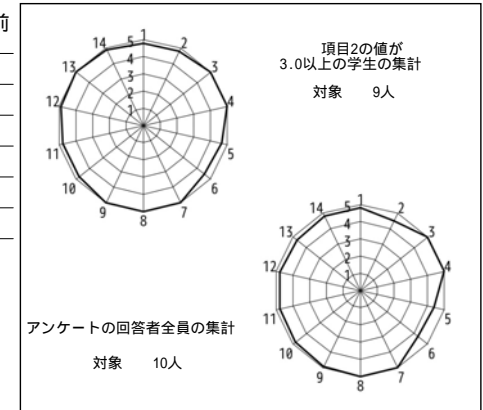
According to the plan of this class, we achieved until the lesson scheduled, all these because we gave to the students a plan for each class, which most of the students followed.

The data shows that the students who comment were satisfied, even though many students were late to enjoy the class, we hope that they may arrive on time to each class of the first period, so sometimes students missed the introduction of the class were I usually explain the content of the day. And during the class they work hard, sometimes more than usually because they had to prepare some preparation class, when they didn't do it, they had to prepare them during the class, which makes them very busy, because they must share their information. For the next quarter, we hope to continue the same path programming the schedule for each class, which help the students to prepare at home before to come to class, even they didn't enjoy the previous class.

We will continue having some vocabulary practice, the composition and the conversation talking and, on the chat, to prevent COVID spread in class. On the other hand, we hope that students may continue working diligently and keep practicing after and before the class, which helps a lot on the process of the learning the Spanish language.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語III <G2020生・2019生以前再履修者用>
 授業コード 11B03-011
 教員名 遠藤 美加
 教員コード 101551
 登録人数 28
 回答数 10
 回答率 35.7%
 休講回数 0回
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年生から始めるフランス語初級授業の3期目にあたり、初級運用能力の完成を目指している。フランス人講師の授業に併走し、仏語の理論的な理解を日本語で補完する役割もある。

アンケートは授業の進行の都合で授業中に実施できず、個人的に10人が回答してくれている。ここには、授業に対しより積極的に満足度の高い履修生の回答しかなく、不満のあった者の意見は反映されていない。

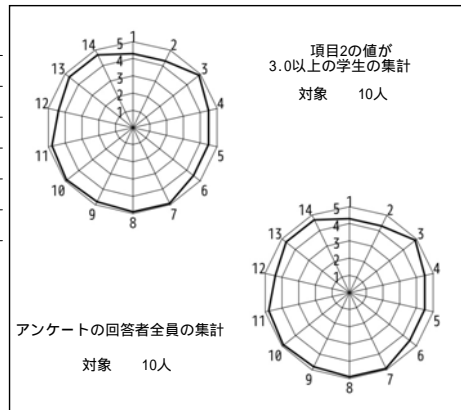
とはいえ、全体的に履修生のモチベーションと能力は十分に高く、クラスの雰囲気も悪くなかった。宿題や会話をグループで確認して相互教育効果を引き出すのは例年どおりだが、さらに各人にマイクを回して発音してもらうことで一人一人の参加感覚の増大を図るなどし、手間と時間のかかる試みではあるが、一部これまでより授業の改善を感じられる学期となった。30人弱のクラスで、各人に配慮しやすかったことも、自由記述欄の感想に反映されているように思う。

映像資料の提示は満足度が高いが、学習の進行とのせめぎ合いもあり、いつも悩ましい。しかしできる範囲で続けたいと考えている。

自由記述では、会話のシャドーイングの前に、教員による丁寧な発音指導を要望する声があった。配慮・対応していきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IB3
 授業コード 33A14-003
 教員名 VURPILLOT, Xavier
 教員コード 104503
 登録人数 17
 回答数 10
 回答率 58.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

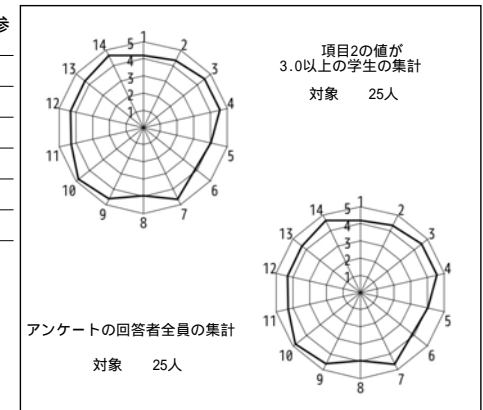


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to continue improved the students understanding of the french language based on what they learned during their first year. The course focused on improving all four skills : listening, reading, speaking and writing.
 After being divided in groups, the students also had to realise a short video in the format of a debate using all the tools they learned until during their first year and during this quarter. All the groups managed to do this task quite well. I hoped that theirs grades reflected the fact that the students had a good understanding of the content of the course, thankfully, the survey confirmed that point. Nevertheless, in this quarter, the students levels were quite disparate, implying that some students didn't fully acquire this quarter and last year courses content.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語V<H (Q2海外プログラム参加者用)・F>
 授業コード 11D05-006
 教員名 千葉 裕太
 教員コード 104531
 登録人数 32
 回答数 25
 回答率 78.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

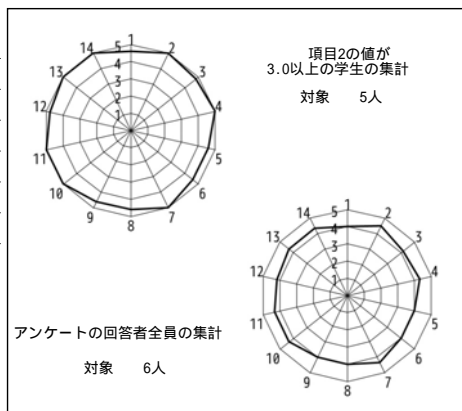


授業評価結果を踏まえた点検・評価

・開講当初に設定していた目標「現在完了・線過去・点過去などの用法を学び、過去時制を適宜使えるようになる。」「関係詞・直接話法・間接話法を習得する。また動詞の接続法現在の活用を学び、接続法を用いた比較的簡単な構文を使えるようになる。」の2点について、期末試験の平均点は83.53点であり、十分に到達できているといえる。
 ・上記 に反して「この授業の到達目標を理解することができましたか。」「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の設問に対して、それぞれの「4.04」、「3.88」と低い数値が現れたのは意外であった。1年生から継続の科目のため、より豊かな表現を楽しんでもらいたい様々な学習方法を試みて、実際に学習効果が出ているのだが、「難しい」と感じさせてしまっていたのだろう。
 また、全体的に肯定的なコメントが多かったのはよかった。「テストが難しい」「スペイン語の音楽は何回聞いてもわからなかった。」というコメントは中間テスト(平均点61.25点)を指すと思われるが、それを受けての学生たちの頑張りが期末試験に現れているので、意図したとおりである。「授業速度」を上げてほしいという声は、十分に予習をしている学生からのコメントと考えられる。予習をしてこない学生に対する指導は今後の課題である。
 ・上記、学生の習熟度合いをいかに学生に自覚させ、自信を持ってもらうかが課題である。小テストなど数値化して見せることは簡単だが、逆効果になる場合もあるので改善策は次クォーター以降の学生の様子を見ながら慎重に検討していく。また、上記の通り、予習の徹底を促す方法も状況を見ながら対応していく。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IB2
 授業コード 32A11-002
 教員名 VILLALOBOS Antelma
 教員コード 101011
 登録人数 22
 回答数 6
 回答率 27.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a good evaluation from the students and their comments were all positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.

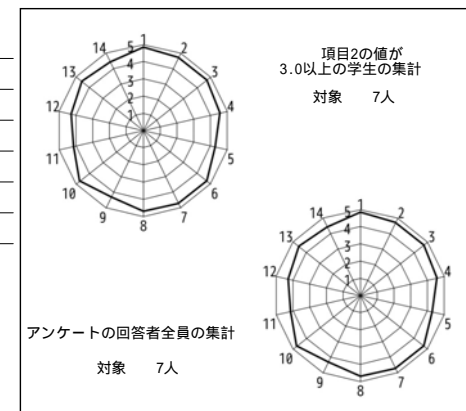
As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IB3
 授業コード 32A11-003
 教員名 HOPKINS Mariella
 教員コード 103653
 登録人数 18
 回答数 7
 回答率 38.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

In relation to the first part of the report on the first point:

(1) The goals established at the beginning of the course and the extent to which they were achieved.

The goals for this quarter have been fully met. We have started face-to-face classes throughout the first term and considering that our students come from a hybrid 2021, we believe that the students have managed to adapt to the face-to-face system without problems. The students have responded enthusiastically to the group practices in the classroom.

About the second point:

(2) An overall self-assessment and a self-assessment of the topic you are in charge of based on numerical data and feedback, etc.

In relation to this second point, we will essentially seek to improve the topics so that we have better feedback and that students understand the purpose of the trimester objective, the units we study and the classes they attend.

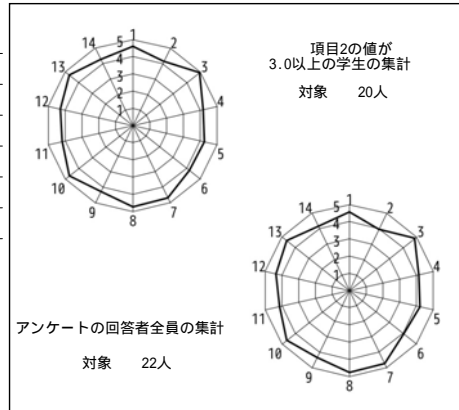
And about the third point

(3) Thinking about the next quarter or semester, improvements, aspirations or specific measures, etc.

We consider it very important to continue with what has been established regarding the clarity of the objectives that we need to meet. And we particularly emphasize that students find a great vision of the study of Spanish that allows them to more easily design their own study strategies and that they can see reflected in the progress they have made when studying a second language.

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と倫理問題3
 授業コード 13D01-003
 教員名 丸山 めぐみ
 教員コード 038919
 登録人数 31
 回答数 22
 回答率 71.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

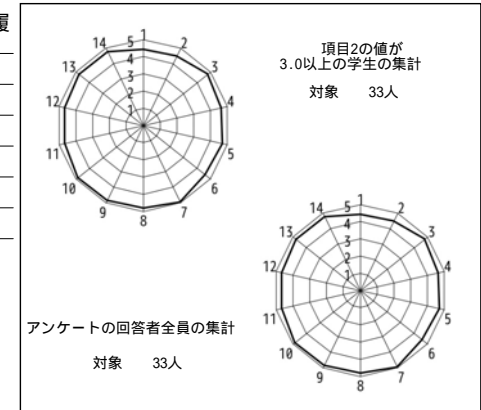


授業評価結果を踏まえた点検・評価

おおむね目標は達成できた。授業参加を重視し、さまざまな環境問題を独自で調査してもらい、倫理的な問いかけをすることを積極的に学んでもらえたのではないと思う。学生のプレゼンテーション、それに対するクラスの評価を提出してもらうことによって、学生一人一人の貴重な意見を知ることが出来た。授業評価の良かった点として「プレゼンテーションを通して理解していくため、テーマについて立体的に学ぶ意欲がわいた」、「パワーポイントの使い方などを教えていただいたことや、YouTubeの動画を通して予習復習ができるようになっていた」、「参考資料がしっかりしており、世界のいろいろな環境問題を知ることが出来た」、「プレゼンテーションとレポートの選択制が配慮されていた」、「環境問題から足を踏み入れて原子力のシステムなど専門性の高い、内容の濃い授業」、「現在だけでなく、過去の環境問題について学ぶことが出来た」、「いろんな人のプレゼンが聞けて良かった」、「先生が熱心で、知識が豊富ですごく詳しく知れた」という点。授業の改善すべき点として、「レポートやプレゼンテーション、期末テストもあり、他の科目と比べてかなり大変だったが、他の講義の中で行かせることを多く学び、有意義なものだった」、「教科書をあまり使わなかったため意味がない」という事であったが、学生には「本講義は教科書を読んだことを前提として授業をしている」と伝えてある。

2022年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語III < G2020生・2019生以前再履修者用 >
 授業コード 11F03-030
 教員名 中野 麻里子
 教員コード 102125
 登録人数 40
 回答数 33
 回答率 82.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

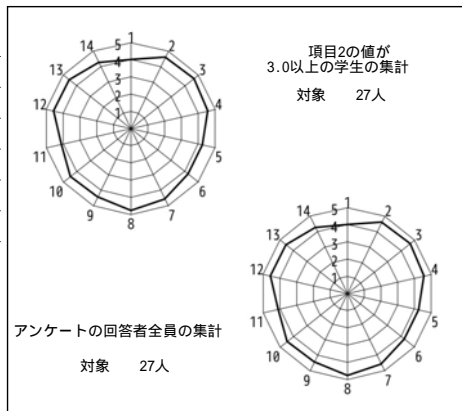


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業進度は当初の予定通り。到達度も目標としていたところまでしっかりと到達できたと思う。コロナ禍であるが、発音の練習のために、学生たちも色々と気を使う中、できる範囲でしっかりと発音練習をしてくれていた。また、発音や文法的な知識に関しても興味をもって授業に取り組んでくれていたように思う。そのため、授業も進めやすかった。小テストに関しても、アンケート結果を見るに、積極的に取り組み、その効果についてもそれぞれ実感してくれていたようだ。引き続き行いたい。小テストの範囲については、できるだけはっきりと予告するよう心掛けるようにする。コロナの状況が第2クォーターでどうなるかわからないため、進度や授業方法などが変更する可能性もあるが、第1クォーターは学生たちの不安や負担なくできたように思われるので、引き続き第2クォーターも同じような形で授業を進めて行き、適宜必要であれば学生たちの意見も聞きつつ改善するべきところは改善して、よりよい授業を目指したい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国の現代事情2
授業コード	35B04-002
教員名	吉田 仁
教員コード	100947
登録人数	34
回答数	27
回答率	79.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

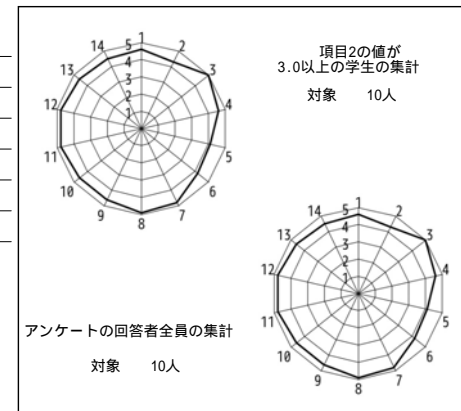


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの集計結果が設問2、設問6、設問10を除き、アジア学科の平均値を大きく下回ってしまった。この授業は日々変化する中国事情を考察する文章を読み、読解力を身に付けることにある。しかし、アンケートの結果を見る限り、受講生の評価があまりにも低く惨憺たる結果となってしまった。クォーター制に移行後、アジア学科の1年生の授業を担当することがなくなったことも原因かもしれない。ただ、学生の自由記述欄では「発音の機会があり、発音の適切な指導があったこと」、「予習をやらなきゃいけないから必然的に勉強する」、「ゆっくり進めて、さらにみんなで発音するから身に付く」、「たくさんの中国語の文章を読むことが出来る機会となったこと」、「文章の段落ごとの区切りで毎回質問の機会を設けていたこと」などがあった。一方、「授業中に私語が多い学生に対しての対処が甘すぎる」、「口頭で注意するだけでなく、なにかしらのペナルティーを課したり、授業から追放するなど厳正な対処をしてくれないと困る」などがあった。また「受講人数に対して教室が広すぎると感じた。発表の際、声が聞こえにくいことがままあった」との自由記述もあった。この件については割り当てられた教室がG26というすり鉢状の教室であったため、学生も奥の方に着席している学生が多少多かったことが原因であろう。今後は履修する学生の人数に応じて教室の広さを考慮していただきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語作文A
授業コード	35C10-001
教員名	陳 志平
教員コード	049346
登録人数	11
回答数	10
回答率	90.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



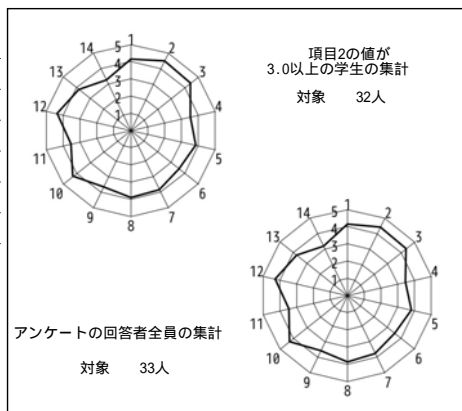
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」によれば、設問3から14の平均値4.63が「アジア学科」を上回ることができた。設問3（授業時間）5.00、設問7（誠実さ・真剣さ）4.80、設問11（適切な指導や情報提供）4.80、設問12「質問・相談/事前・事後指導」4.80、設問13（新しい知識の獲得）4.60、設問14（満足度）4.50などの数値データ及びレーダーチャート、自由記述を見た限りでは、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。学生から、「作文に関して、一人一人にアドバイスがあった。」；「語学の授業では学べない細かいことも学べた」；「作文練習だけでなく文法練習も取り入れていた点。また、中国語の間違いに詳細な理由説明を行っていたこと。」；「人前で発表する経験を何度かできたことは、今後の就職活動や人前に立ってスピーチする際、役に立つと思った。」といったような有難きコメントを頂いた。

この科目においてよく見られる傾向ではあるが、今学期も受講生の中国語レベルのバラツキが大きいので、課題選びや情報提供、質問・相談を含めた事後指導などに細心の注意を払うように心がけた。次学期以降も学生に寄り添った質の高い授業が提供できるよう、授業改善の努力を重ねて参りたいと考えている。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中国語III
授業コード 48A26-001
教員名 虞 萍
教員コード 101432
登録人数 41
回答数 33
回答率 80.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

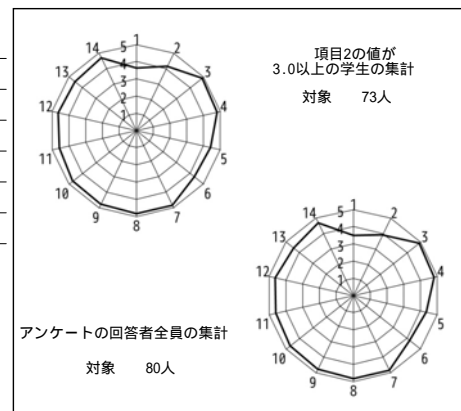
今期も学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対して、「厳し目だったのでメリハリつけて授業を受けられた。やる気のある学生はちゃんと評価してくれていた。」「質問の時間がしっかり設けられていた。」「質問の時間や友達との相談の時間が授業内で十分に設けられていたこと。」「丁寧に教えてくださった点。」「テキストが充実していた。」「文法の説明が非常に分かりやすかった。」「プリントを作ってくれたり予習を促すことで前もって勉強できることがあった。」などのコメントをいただきました。

41名の学生がいて、中国語のレベルはまちまちでした。授業中、文法の説明を非常に詳しく説明しましたが、それでも「文法を復習も踏まえて、じっくり教えてほしかったです」というような意見がありました。指示通り、毎回予習・復習をしっかりと行われているのであれば、授業内容がより一層理解しやすくなるはずです。

今後も学生の自主学習能力や自発的な勉強意欲を最大限に引き出せるような指導方法を模索したいと考えています。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[E・J]2
授業コード 10A51-009
教員名 暮林 響
教員コード 102624
登録人数 150
回答数 80
回答率 53.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

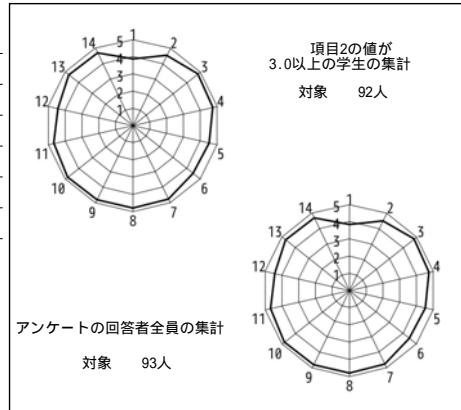


授業評価結果を踏まえた点検・評価

大学の教壇に立って初の対面授業で、どうなることかと思いましたが、学生さんたちもしっかり講義についてきて、期限内に準備してきた内容のほぼすべてを教えることができました。準備に対して正当な評価をしてもらっていると思います。音量が途中で小さくなるという点については、原因が分かりませんが、これは音響効果のつもりでした。ただ、そのコメントをくださった方以外は違和感なくついてきてくれたような感じがします。いずれにせよ、声を出すときに映像の音量を下げるなどテクニカルなことを使えるように機器の扱いについてももう少し勉強してみます。明るくて見づらいというコメントもありますが、ブラインドも降り、前列の蛍光灯も消したうえで講義しているので、どうにもならないかと思えます。特に大きな改善をする予定もないかと思えます。学生さんたちとの物理的距離感があるのは仕方ないですが、リアクションペーパーでの応答をこれからも大切にしたいと思えます。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想史に学ぶ人間の尊厳2
授業コード	10D03-002
教員名	山口 宏
教員コード	101552
登録人数	124
回答数	93
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず全体的な満足度（問14）が比較的高い値となっていて、よかった。新しい知識・理解の深まり（問13）も高めの値で、到達目標達成への自己評価（問6）はそこまで高くないが、社会問題を多角的にとらえるなどシラバスの目標も、まずまず到達できていたかと思う。その他、教員の真剣さや聞き取りやすさは当然のこととして、授業の妨げへの対処（問10）も高い値だった。自由記述でも、「私語を注意してくれてよかった」といった声が散見されたが、これも当然のことだろうと思う。

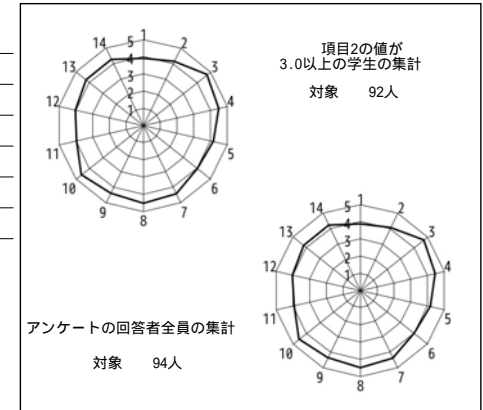
自由記述では、良かった点について多くを書いていただいていたので恐縮してしまうが、さまざまな教材も含めて面白かったという声が多く、話の合間合間に短い映像教材を多く挟むなどして、退屈はしないようにできたと感じる。また、集中できた・わかりやすかったという声も多めで、ある程度充実した授業にできたと実感する。

ただ、毎回授業内でのリアクションペーパーを書いてもらい、質問などには次の授業の最初に答えるようにしていたが、大講義の限界もあって、質問・相談の機会（問12）は、やや低い値となってしまった。

次年度も基本的には同じ方向で、質問や対話の機会を増やすことも考えながら、さらに内容を磨いて進めていきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳2
授業コード	10D06-002
教員名	大橋 真砂子
教員コード	100233
登録人数	187
回答数	94
回答率	50.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

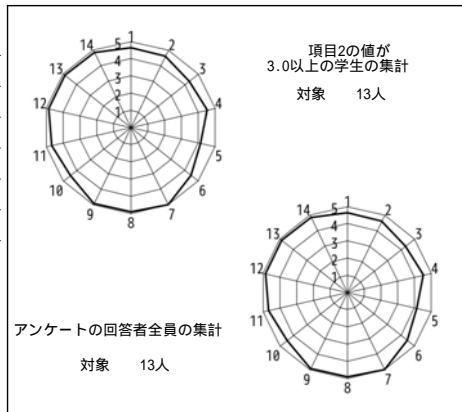


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、ヨーロッパの歴史をたどりながら、生命や病、死などにまつわる様々な状況を史実としてとらえ、それを通して現代における人間の尊厳について考察するきっかけを掴むことを目指している。今年度のQ1では担当者の都合により水曜日に変更となり、受講者数が多かったためにオンライン授業となった。内容に関してはシラバス通りに行い、目標はおおむね達成できたと考えている。学生の自由記述からは、授業の進め方や資料の提示方法に関してはそれなりに評価してもらえたと感じているが、オンライン授業での質疑応答時間が十分とれなかったこと（担当者の時間に制約がありウェブクラスでのメールでの対応となった）、および最終レポートの実施方法については辛口のコメントが目についた。また、PowerPointで使う画像の引用元についても批判があったが、これは教育現場での著作権に関係する規定の変更について、教員が学生にいちいち説明をしなければならない、ということを示しているのであろう。今後は今期の反省をふまえ、学生がより余裕をもって授業に参加できるよう心掛けたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文学A1
授業コード	12A03-001
教員名	イン シセキ
教員コード	104270
登録人数	27
回答数	13
回答率	48.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初は、他分野の学生に日本の近現代文学により興味を持ってもらい、かつ文学及び映像作品を通じて、日本と国際社会のさまざまな今日的な問題を議論していくことを目指していたが、その目標は概ね達成できていると思います。

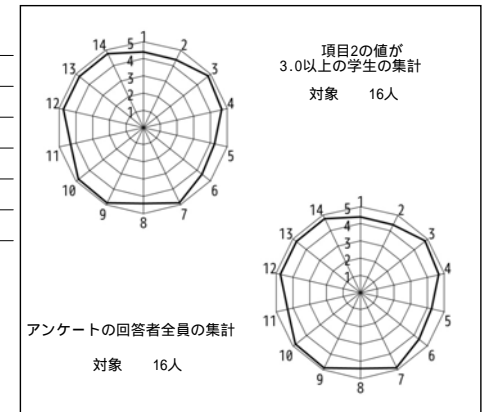
受講者から全体的に高い点数を得て、ほっとした一方、それは私が頑張っ授業準備をしようとしていた態度が伝わったため、学生から励ましの意味も込めての点数ではないかと思ひます。もっと教員として専門的な知識と用語を使って、上手に解説できる部分も多かったので、そういう部分は改善していきたいと思ひます。

また、教室環境に慣れておらず、授業開始前に教室に到着できなかったこと、機材の準備に時間かかってしまったことも何度かありましたので、もっと早めに教室に向かうべきだと反省しました。

100分間の授業を二コマ分連続で行うのは、やはり教員にとって体力的にも精神的にも負担が大きいと感じました。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	東洋史A
授業コード	12B05-001
教員名	渡部 展也
教員コード	103083
登録人数	39
回答数	16
回答率	41.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

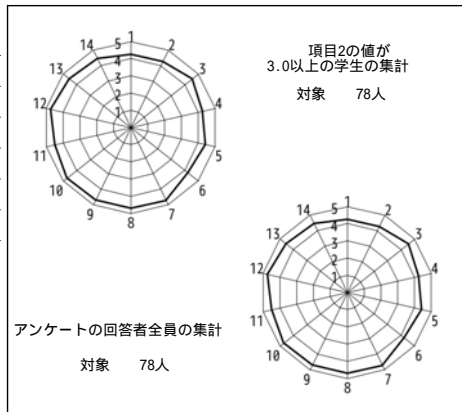
1 開講時に設定していた講義目標である中国的世界の原形の形成とその理解を深めるうえで、その背景となる地理的特徴や、新石器時代後半の中国の多様性について、地図なども含めることで、具体的に分かりやすく示すことができたものと思ひます。ただ、かなり長い時間幅、広い空間を扱っているため、もう少し時代ごとの強弱のつけ方や、考古学文化の特徴の示し方などを整理することができる面もあるかもしれない。

2 全ての項目において4以上の評点となった点は良かったが、その中で1や2など主体的に学ぶ部分について若干低い様子がかがえた。アンケートなどからは、地図や動画など、現地の紹介が公表であったが、5,6が若干低いことが示された。興味は持ってもらえるが、やや理解という点で不安を覚えたものかもしれない。

3 経験的な話や動画等で紹介した内容を、より体系的な文脈に位置付け深い理解を促すことができるような工夫をする必要があるかもしれない。また、主体的な学びについても、今後の講義において、もう少し問いかけを行う、調べものなどを促すような工夫をしてみてもよいかもしれない。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学A1
授業コード	12C04-001
教員名	大園 誠
教員コード	102910
登録人数	190
回答数	78
回答率	41.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

：この「政治学A1」では、大学生として初めて「政治学」に出会う受講生に対して道案内的役割を果たせればと考えている。「政治学の基礎概念」と「戦後国際政治史」という2つの内容を含み質・量ともに盛り沢山である。そのため、出来る限り「政治学」の魅力や面白さが伝わるための工夫（分かりやすさの追求）と、いま現実に起きている政治現象に関心を持ってもらうこと（政治学の応用能力の上達）の2点を心がけた。理論編では「政治学の基礎概念」の理解、実態編では「戦後国際政治史」の大きな流れと因果関係の把握を目指した。授業評価を見る限り、所期の目的は達成されたのではないかと。：全項目の平均値は4.5で、概ね肯定的評価が得られた。良かった点として「レジュメや資料、授業の説明が丁寧で分かりやすい/生徒からの質問に丁寧に答えるのがよい/映像の活用したのが良かった/ニュースを見る習慣がついた」、改善点として「質疑応答の時間がやや長い/Zoomでカメラをオンにするなどのルールを守らない学生への対応が不十分/レジュメのアップロードが遅い時があった」などの指摘があった。双方向性を確保するための質疑応答をどの程度充実させるかは悩みの種であり、ルールを遵守しない受講生には苦慮している。

：今後も、オンラインであっても対面であっても、出来る限り全ての受講生を置いてきばりにせず、何かを得られたと感じてもらえる授業を引き続き追求していきたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物理学A
授業コード	12D01-001
教員名	本村 扇仁
教員コード	102685
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

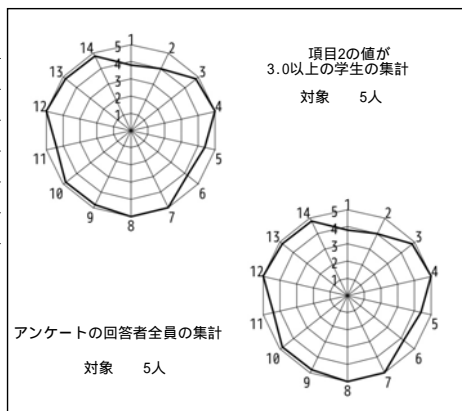
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。また実感を伴った理解につながる効果が期待される映像資料を要所で取り入れた。このような展開について、説問4、9の数値から、概ね成功であったと考えられ、今後継続し工夫していきたい。今年度は学期を通じて対面式の授業を行うことができたが、今後感染状況がさらに落ち着けば、教室内で簡単な実験を行い、測定結果および不確かさを計算してみるという取り組みを再開していきたい。物理学で実験が果たす役割を実感できる機会になるものと考えられる。興味があった点に関してどのように学習を深められるか明確にするという点については、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 化学1
授業コード 12D05-001
教員名 沢邊 恭一
教員コード 102686
登録人数 5
回答数 5
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この講義の目標は、化学的な視点から「身の回りの物質」「身の回りの現象」を学生が観察・理解できるようになることである。講義では、その目標達成のための基礎知識と化学的思考法を説明する。講義最終日には学生に「身の回りにある化学」についてのプレゼンテーション発表をさせ、そこで自発的な化学的思考の機会を設ける。この発表内容から、講義の目標である化学的視点による身の回りの製品の観察という経験を実現させることができたといえる。

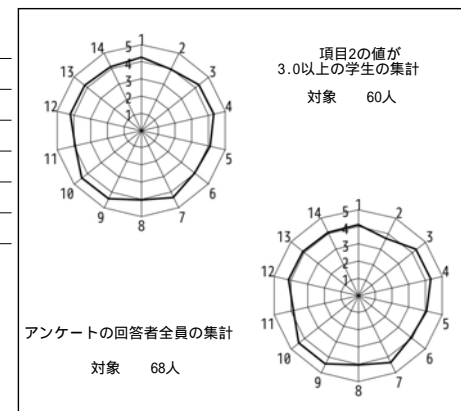
数値データおよび自由記述等をふまえた総合的な自己点検
講義内容に関する自由記述では下記のものがあった。このことから、講義の目標は達成できたといえる。

- ・ 視覚的な資料が多く、授業内容を理解しやすかったこと。
 - ・ 普段意識していなかった身近な化学を知ることができた点。
 - ・ 新しく化学リテラシーを身につけることができた点。
- また、下記の意見に見られるように、質問のしやすさを意識した講義は成功したといえる。
- ・ 教員と学生の距離が近く、質問がしやすかったこと。
 - ・ 先生に質問しやすくて良かったです。
 - ・ 化学が苦手な学生にも配慮されており、質問しやすいという雰囲気も良かった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
評判も良かったようなので、現在の講義形式を継続する。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触2
授業コード 13A02-002
教員名 三木 誠
教員コード 101621
登録人数 197
回答数 68
回答率 34.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標のうち、文化の多様性についての現実に則した理解、民族社会や民俗文化の実態の理解、特定の風俗習慣の、それが存在している社会にとっての意味、意義の理解といった、具体的な問題意識がわかりやすい点に関しては、レーダーチャートの全体的結果や、設問項目15の自由記述の内容から判断するならば、かなりの程度達成できたのではないかと考えている。

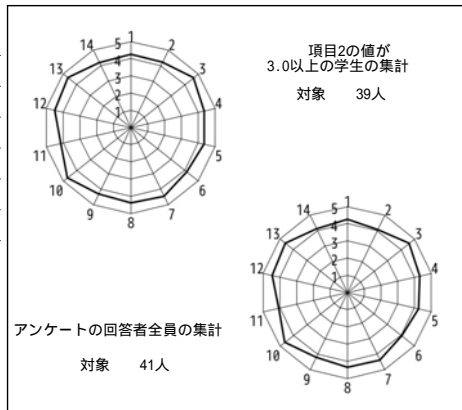
一方で、人間と文化との本質的關係という、非常に問題意識が大きく、かつ明確な解答を具体的な形で提示することが困難な目標に関しては、あまり達成できていないと考える。

人数の関係でオンライン授業となった上、ネット環境が万全でなく、映像資料を用いた具体的な解説が中核をなすこの授業では、学生側には不満やストレスが残る結果になったと思われる。
また、項目番号2、6、11の数値が低い点は、授業担当者の解説不足や授業自体の構成が大きく影響していると考えている。

映像資料を多用した授業構成自体は間違いではないと思っている。
しかし映像資料で取り上げる事例の多くが、学生たちにとっての日常性から「遠い」ものなので、なかなか問題意識を持ちにくく自身の考えも明確にしにくいと考えられる。ゆえに、身近な事例との比較なども取り入れ、解説の仕方も工夫して、学生の積極的な意見提起を促せるようにしていきたいと考えている。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生命と法律問題1
授業コード	13C02-001
教員名	三枝 有
教員コード	100468
登録人数	119
回答数	41
回答率	34.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



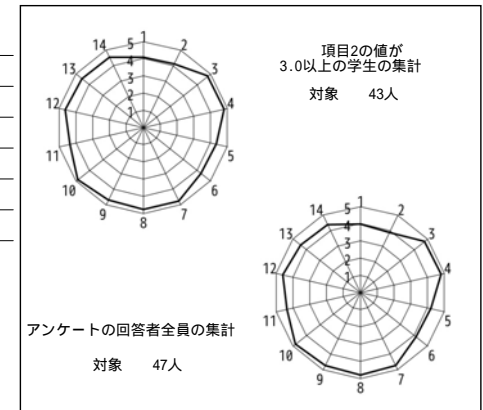
授業評価結果を踏まえた点検・評価

最初に、今期の講義では、ZOOMのカメラ電源が切られており、またカメラが何らかの理由で操作されていたかホワイトボードが完全に映し出されていないことがあり失礼いたしました。チャットでご連絡いただいた方もありましたが、その時点ではチャットを予想しておらず気付くのが遅れ不十分な対応となり申し訳ありませんでした。この場をお借りして陳謝申し上げます。

次に、評価についてですが、については、アンケートを見る限りでは目標設定数値との誤差はないように思われました。ただ、今回は受講生数が多く、しかも遠隔講義に慣れた方でしょうか、講義を受講せずに課題への解答だけを行っている方がいたのは残念です。Web上で講義中に課題設定を行う旨を予告しましたが、ご提出いただいた解答に反映されていなかった方が複数いたのは残念です。原因をもう少し考えて対応策を考えたいと思っております。については、特に自由記述で良好なご評価いただいた点については、さらに改善を図れればと思っております。逆に、講義運営のミスにつきましては、初めてのデータですので、物理的な改善策を検討中です。データなどの分量が全体的に多いという今回の講義で初めて出ましたが、ご指摘にもあったように偏見な講義を避ける意味でも必要ではないかと思っております。また、私の考え方が偏見であれば、それを批判する自由が大学という場では当然にありますので、答案に反映していただければ幸いです。より自由な考え方こそが創造性を伸ばし社会的に有益なものとなるはずで、誠に不十分な講義でご迷惑をおかけ致しましたが、機会があればいつでもご意見を頂ければ幸いです。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相6
授業コード	13C04-006
教員名	松野 正太郎
教員コード	104285
登録人数	85
回答数	47
回答率	55.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

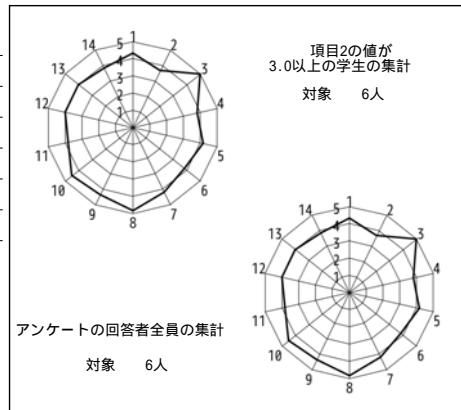


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート結果全体を概観すると、講義への満足度はおおむね高かったと考えられる。まず、開講当初の目標と到達度については、予定通りに達成できた。また、授業の構成や速度、質問への対応については評価が高かった。一方、相対的に評価が低かったのは、学生自身が自学自習をするなどの自己に対する学習態度、自身の目標達成度などであった。この点は昨年度も同様の傾向であったが、学期途中でのレポート提出を求めることなど、自分で課題に取り組む機会が必要であったと考えられる。今年度は特に、毎回関連する新聞記事を配って、解説することを試みた。このことに関する反応は良く、継続すべきと考える。そのきっかけにするように努めたが、もう少し工夫が必要であると考え。そもそも、2コマ続きの長丁場なので、適宜休憩を取ったのは、学生にとっても良い効果があったようである。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知識の探求2
授業コード	13E03-002
教員名	牛島 謙
教員コード	042549
登録人数	12
回答数	6
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達の程度について。

2年ぶりに教室で授業をした。インターネットの基底には明確な設計思想（デザイン）がある。その思想を理解することにチャレンジさせるのがこの授業の目標である。その目標を達成するために、自前で構築したデータベースから各回のテーマに最適のデータを抽出して1回分をA3用紙1枚にまとめて配布するという形式を取った。

総合的な自己点検・評価。

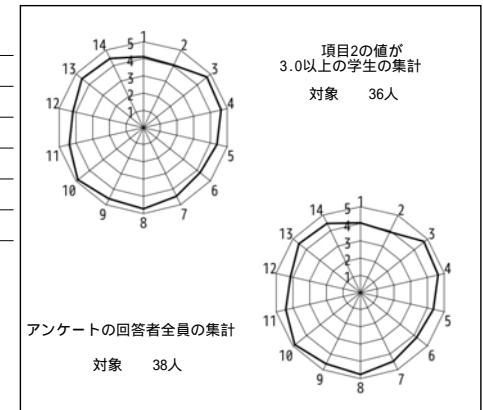
授業のテーマが思想系であるだけに、事前の興味や到達目標の理解度のポイントが低い。授業の質は学生に評価されていると思われるが、全体としての評価は学際科目の平均を下回っている。履修した学生数が少なく、授業のテーマが思想系のものであるだけに、学生間の理解度と満足度には大きな差があるように思う。また、以前の授業評価とは趣きが異なるというのが全体的印象である。現在の大学生の集団的な資質がこの数年間に大きく変化したためではないかと推測している。

改善点、今後の抱負、方針など

やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。また、授業への満足度が低いので上げる努力はするが、思想を学ぶという場を共有することを第一に考えたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生涯学習論
授業コード	15M08-001
教員名	市橋 芳則
教員コード	100763
登録人数	84
回答数	38
回答率	45.2%
休講回数	4 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスにおいて開講当初予定していた生涯学習の成り立ち、必要性、現状及び課題については目標に到達している。また、生涯学習施設については、具体的な事例を紹介し理解を深めることができた。特に自身が勤務する北名古屋市の図書館及び歴史民俗資料館については、通常利用者では気づかない点、公開されていない事項も含めて課題と解決策を提示することにより生涯学習の展開について理解を深めることができた。

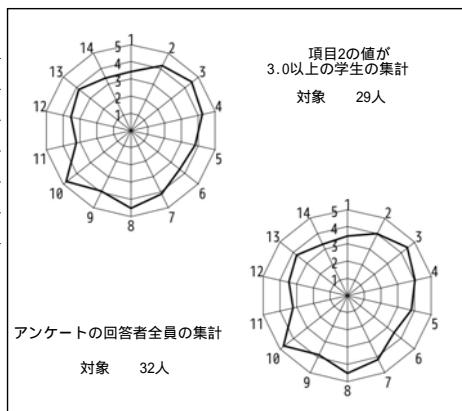
自由記述にも記されておる通り手段として画像及び動画を活用することにより具体性を高めることができた。また、必要となる資料をサーバーに提示したことも適切な講義のサポートとなったと考えている。

来年度における講義では、評価の高かった事項を活かし生涯学習の理解と、実践者あるいは利用者として生涯学習を推進するという必要性を伝えていきたい。

特に本年度は、コロナ禍における生涯学習のあり方、対面やコミュニケーションを軸に展開されてきた学びに大きな課題が提示され、これにどう対応するかという講義内容が付加されたことにより学びの本質を考えさせる機会ともなった。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 図書館情報資源概論
授業コード 15P06-001
教員名 伊藤 真理
教員コード 101182
登録人数 61
回答数 32
回答率 52.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

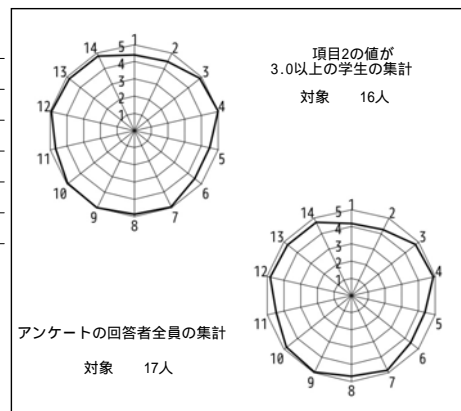
授業期間中のリアクションペーパーや期末レポートから、本科目の目標を達成できていると判断した。

今期は履修学生数も講義科目としては多くなく、対面授業で実施したため、学生の様子を確認しながら授業を進めることができ、回答においても概ね平均的な結果となっているように思われる。

質問項目の「学生の意欲を引き出す」という点ではもう少し工夫をしていくことが必要と考える。科目内容に比して説明の時間を十分に取ることができないことや、本科目での学修対象である様々な資料について、コロナ禍により資料を提示することが困難であるため、工夫できることを検討していきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教社会学
授業コード 21C56-001
教員名 長澤 壮平
教員コード 102718
登録人数 22
回答数 17
回答率 77.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

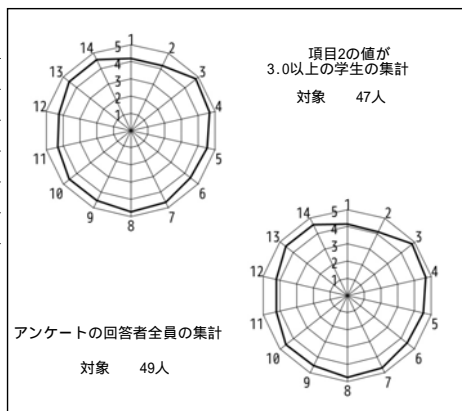


授業評価結果を踏まえた点検・評価

最初に設定していた目標と到達の程度としては、概ね達成されたように思う。数値データを見たところ、予習復習の指示についてあまり行ってきていないことが示されているので、今後は十分に予習復習の指示を行い、より深い学習効果をもたらせるように誘導するよう努力したい。次のクォーターに向けては、やはりすでに述べたように予習復習などの指示を増やすよう心掛けたい。また、いつもこころがけていることではあるが、授業内で質問や発言の機会を多く設け、授業の活気をさらに高めるような努力が必要ではないかと感じている。学生の意見や質問を十分に取り入れ、それらのヴァリエーションを重視することが、より高い学習効果とともに、学生の学習意欲を高めることにつながると考えられる。現時点ではまだ学生の発言機会が多くないので、今後はこの点に十分注意して、一方的に資料を与えたり、講義でしゃべり続けるだけではないインタラクティブな講義を目指していきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別支援教育論
 授業コード 15A23-001
 教員名 梅村 公基
 教員コード 104631
 登録人数 115
 回答数 49
 回答率 42.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

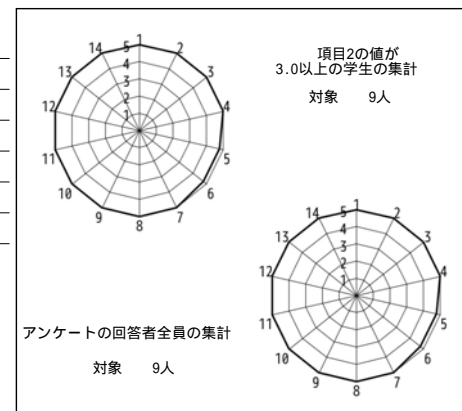
授業は講義形式で行った。知的障害特別支援学校、聾学校、病弱虚弱特別支援学校での36年の現役生活の中から障害のある子どもたちと接した具体的事例を話したり、通級による指導や「地域支援」による通常の学級に在籍している障害のある児童生徒の支援をとおして得た経験を伝えることで、学生にとってはより身近に特別支援教育を感じてくれたことと思う。また、PTの資料も配布したことから、この資料を基により深く疑問点を追及してもらうことに期待した。

さらに「授業計画」を7点設定したが、全体としては障害種別にそれぞれの障害の特性について講義することとした。発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習について幅広く知識を伝えることができた。

出席を取らなかったために出席率を上げることはできなかったと思う。改善の方向で検討したい。「授業評価」の結果から高い評価を得ていると思う。また、講義の後に「特別支援も視野に入れて進路を考えたい」という意見をもらった。特別支援教育の魅力について少なからず伝えることができた。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・公民科指導法A1
 授業コード 15B49-001
 教員名 成田 健之介
 教員コード 101555
 登録人数 10
 回答数 9
 回答率 90.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

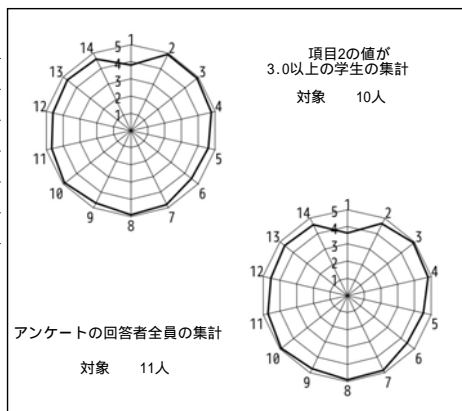
本講義は、中学校社会科公民科の分野と高等学校公民科の授業に必要な授業実践力の基礎を養うことを目的としている。前半は、新学習指導要領を重点として、その教育的背景や「主体的・対話的で深い学び」を促す授業作りについての理解を中心に進めた。後半は、模擬授業を通して実践的指導力の育成をめざした。

学生評価では、設問14「授業全体としての満足感」の平均値は5.00，設問1～設問14の平均値は4.97であり、高い目的達成率であった。設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の2項目で、それぞれ1名が「4」の評価をしているが、その他の設問は全員が「5」の評価としている。これは、本授業の受講生が10名と少人数で、アットホームな雰囲気の中で授業を進められたことによる要因が大きいと考える。模擬授業でも、学生一人あたりに取れる時間が多く振り返りにも十分に時間をかけることができた。設問16「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」の学生のコメントからも、それが読み取れる。「生徒に質問する事が多かったので、アクティブな授業ができました。」「一人一人に話しかけていた点」「わかりやすく、近い距離でした。」「少人数だったのもありますが、参加してる感じがあって良かった。」「教育に関する話をいろいろ聞くことができよかったです。あと、先生がフレンドリーなので授業が楽しかったです。」また、授業でのICT活用についても意見が書かれていた。「機器をたくさん使って生徒のわかりやすい授業でした。」

これらの数値評価と学生のコメントから、受講生が増えた場合でも個別の学生に対する指導を配慮し、この状況を維持できるような努力を続けたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 書道
 授業コード 15E01-001
 教員名 岡野 央
 教員コード 101227
 登録人数 19
 回答数 11
 回答率 57.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

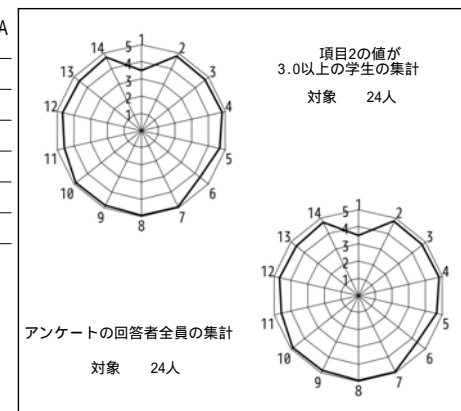


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目的である「日常生活における書のあり方」として毎時間中国唐代の書の古典の中から楷書、行書を中心とし、「形臨、意臨、背臨」の学習を行った。最初は楷書の基本となる欧陽詢の九成宮醴泉銘の臨書に始まり、褚遂良の雁塔聖教序へと進み、その後行書の学習として王羲之の蘭亭序を学ぶ上で意臨から背臨へと技術を高めます。そして最終的にはこの授業の目的達成として、受講生全員が蘭亭序の書体を基に、自選による四字熟語を色紙作品に書き上げました。その作品をそれぞれのご自宅に飾り、日々鑑賞することで日常生活の中で「書」を身近に感じる環境を作るといった目的が達成されることでしょう。受講生は自作の色紙を手にも満足した表情が感じられました。近年クォーター制授業の導入により、指導する側の効率は良くなったものの、受講生側の自宅学習時間が短くなり、書の技術向上については更なる見直しも必要であるのではという課題も残った。こうした練度を要する実技の授業では、繰り返し練習を重ねる事により、徐々にその成果が現われるものであるため、自宅学習の時間が如何に大切かを受講生は自覚していかなければならない。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]12
 授業コード 11A09-012
 教員名 鈴木 愛
 教員コード 103596
 登録人数 24
 回答数 24
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

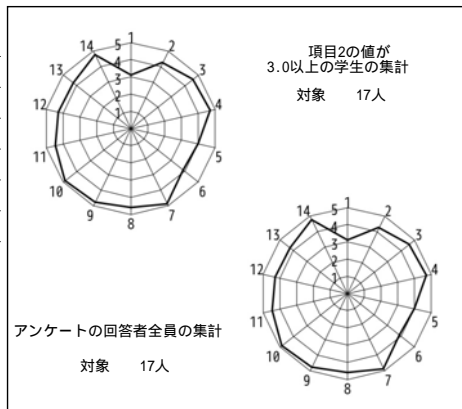
I have set a couple of goals for the course in Q1. Some of the goals for reading skills are previewing and predicting, understanding the topic, scanning, and skimming. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. For speaking and listening, they were introduced to various conversation strategies. They seemed to understand the notion of it and tried to use it.

Reflecting on the student evaluation, it seemed that they did learn and be able to produce most of the learning goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed to discuss the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are a couple of points that I would like to change for Q2. Since they seemed to get the idea of different kinds of conversation strategies, I would like to have more practice time for them. Same for the listening, they will need more chances to listen to English conversation and monologues.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]14
 授業コード 11A09-014
 教員名 NIXON, Richard Mark
 教員コード 103559
 登録人数 24
 回答数 17
 回答率 70.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

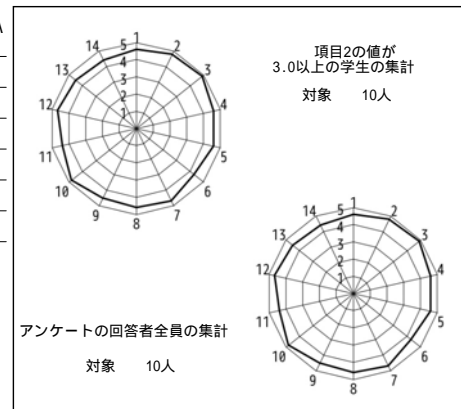


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students responded with a lower score (3.88) compared to other answers in the questionnaire concerning whether they thought they were getting closer to the goals of the course - Question 6. I should readdress with the students what we are trying to achieve in the course so that they are aware of why I have chosen certain materials to focus on each week. I will also consider the ideas of the students in terms of where they think they want to improve their English communication abilities. Overall I believe that the students are trying hard to accomplish the class exercises to the best of their abilities. In Q3 I will assign new working partners to each pair in order to give the students a refresh. I also want to do more “ silent reading ” in class each week in order to encourage the students to talk about what they are currently reading and to encourage them to read more books.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]5
 授業コード 11A09-019
 教員名 SIMMONDS Brent
 教員コード 103050
 登録人数 21
 回答数 10
 回答率 47.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

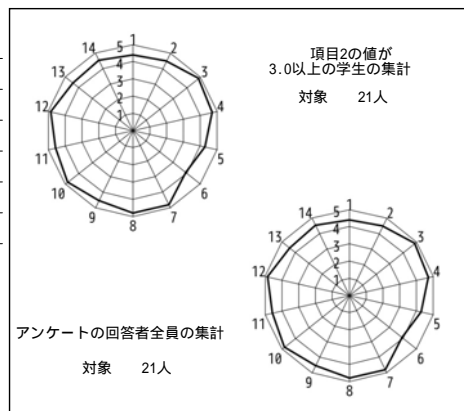


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was generally pleased with the feedback that the students gave, however, there were some areas that could be improved upon. The students seemed very positive throughout the first quarter enabling a pleasant atmosphere and good rapport to develop. They gave me some positive ways in which I could alter and adjust lesson material to their needs.
 One area that could be improved upon is giving clear instructions regarding homework, end-of-semester tasks, and presentation requirements. At the end of each lesson, I have posted the lesson content as well as homework tasks in the Web Class noticeboard function which helps to clarify content and aid those students who are absent.
 Although, not directly related to this class but to teaching in general, receiving advice about students with special education needs has helped in general.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]8
 授業コード 11A09-022
 教員名 NICKSICK, Thomas
 教員コード 102113
 登録人数 21
 回答数 21
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

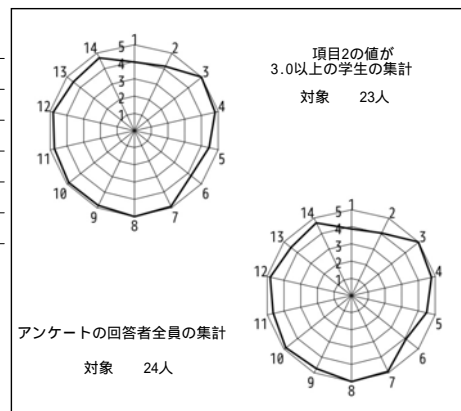
The purpose of this course is to help students become more confident and proficient English communicators. Some of the goals include using vocabulary for contemporary topics, giving opinions on general topics, and asking questions for clarification.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the classes were structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.71. Regarding the instructor's sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.81. Regarding enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.86.

However, the instructor was not as successful in other areas. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 3.95. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.52. Regarding the instructor providing appropriate guidance and information to encourage the students to want to learn, the rating was 4.57. The rating was 4.43 when the students were asked if they acquired new knowledge. The instructor must improve these aspects of the course.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[E]11
 授業コード 11A09-035
 教員名 大竹 万里
 教員コード 047084
 登録人数 24
 回答数 24
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

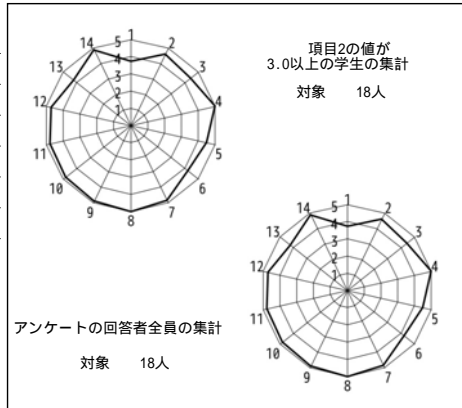


授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノログを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、様々なジャンルの読み物の内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。教材は全て小冊子(Class Book)にまとめて配布し、WebClassにリスニング教材やリーディング教材の練習問題をアップした。第1クォーターの多読学習は1週間に2,000語を読むことを設定し、読んだ本についてのディスカッションの機会を設けた。授業評価の設問3から14の平均数値データが4.60、学生の授業に対する全体的な満足度については4.67であった。週2回の授業をシラバス通りにおこなうことができ、学生の満足度も得られたように思う。授業について評価できる点として、「スライドも説明もわかりやすい」や「リーディング教材の難易度や量がちょうど良い」を挙げる学生がいる一方、「リスニング教材のレベルはもう少し難しいものが良い」ことを挙げている学生もいた。第2クォーターでは少しチャレンジングな教材を織り交ぜななら、学生が互いに学ぶ環境作りをさらに工夫したい。引き続き、学生の積極的な課題取り組みを促していく。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[E]
12
授業コード 11A09-036
教員名 SWEETLOVE, Douglas
教員コード 102522
登録人数 19
回答数 18
回答率 94.7%
休講回数 2回
補講回数 2回

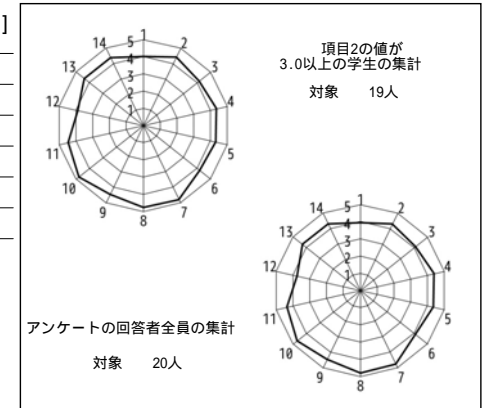


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. The students were happy to finally get back to in-class learning, so it was easy to manage time and the curriculum.
2. At first glance, the results are great. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out, and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.
3. The course runs smoothly as-is. Once the corona virus is completely finished, I want to have more time in class to do pair work, group discussions, and presentations. These are important for language learning and building fluency. Plus, I think that students expect a more active classroom when the class is taught by a native speaking teacher.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]
1
授業コード 11A09-037
教員名 LENIHAN John
教員コード 045070
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0回
補講回数 0回

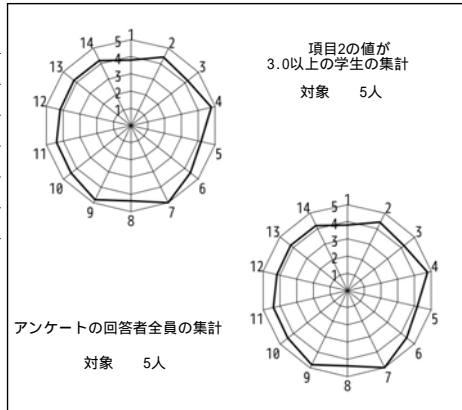


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class had the following goals: improve oral communication, daily vocabulary, the usage and origins and history of idioms, develop effective reading strategies, explore both intensive and extensive reading and to develop advanced vocabulary through the serious study of Greek and Latin prefixes, suffixes and roots. I believe that the students that showed a high level of motivation and participated actively would agree that the goals of this class were met to a very high degree. This is the top level class with a wide range of abilities and motivation. Most were engaged in the class activities with only a few that were not terribly interested at various times. The oral communication portion of this class was centered around various short plays and original writings by these students. These plays and original writings proved once again to be very popular and quite entertaining, while at the same time holding sure educational value. The extensive reading materials from the school library were chosen by the instructor, with a 2 page list of approved classic novels for the students to enjoy reading and become a bit familiar with the great books of literature in the English language, as well as some known worldwide in translation, for example, Jules Verne, Alexandre Dumas and Leo Tolstoy. Overall, The class was very pleasant to teach and very challenging and very worthwhile. I look forward to the activities of this class in the coming next two quarters.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ<再>2
 授業コード 11A09-061
 教員名 BLOWER, Luke
 教員コード 104287
 登録人数 21
 回答数 5
 回答率 23.8%
 休講回数 0回
 補講回数 0回

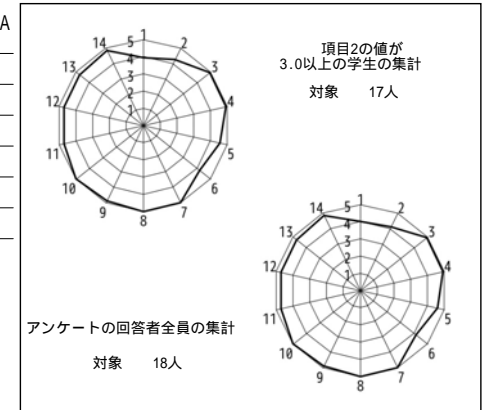


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Due to this being a repeater class, my pre-set goals were much wider than usual. That is, I felt that a main theme of this course would be to cater for the wide range of English abilities and differing interests of the students. Of the students that attended at least once, I was satisfied that the majority continued to the end of the quarter and contributed in class and reached a level of study that allowed them to get a good grade and hopefully benefit from the course.
2. I think that the wide range of abilities in this class means that some of the 'more capable' members of this class may not have been challenged as much as they should have been. The feedback perhaps mirrors this.
3. The Monday class (the 'communication' element needs a reboot and I have designed a slightly different style of learning and assessment for quarter 2

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]11
 授業コード 11A09-065
 教員名 山田 秀子
 教員コード 103595
 登録人数 18
 回答数 18
 回答率 100.0%
 休講回数 0回
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

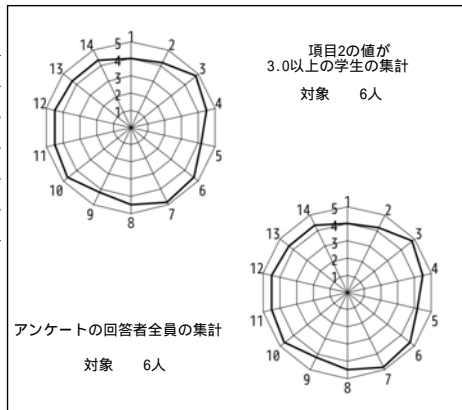
開講当初に設定していた目標は概ね達成できた。講義計画に提示した学習内容・範囲の9割以上を扱い、全員が必須課題をすべて終えることができた。数値データで平均値が最も低かったのは履修前の興味を問う項目1(4.00)で、次いで主体的な授業参加を問う項目2(4.11)であった。全般的に授業中の学習姿勢は良好で、個別の学習活動では集中し、ペアやグループで行う協同学習では積極的に参加しているように見受けられた。項目2が低かったのは、授業時間外の課題としている多読の取り組みに個人差があったことが大きく影響していると考えられる。授業の中で多読の効果を繰り返し説明したり、学生間で活動状況を共有する機会を増やしたりして改善を図る。

自分に力がついてきていると思うかを問う項目6(4.17)も少し低い平均値ではあったが、項目13(4.72)や項目14(4.83)の結果が高かったところから、授業を通して知識や技能を習得できており、授業に満足していることがうかがえる。自由記述の回答では、プレゼンテーションや会話練習が力を伸ばすために必要だと捉えられている。今後も多く取り入れていく予定である。この講義は4期連続の科目であるため、長期的な到達目標と短期的な到達目標を常に意識させて進めていくことを心掛ける。

学習環境に関しては好意時に受け止められていることがわかり、今後も続けていきたい。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ<
再[S・T]>
授業コード 11A09-068
教員名 内川 元
教員コード 101922
登録人数 10
回答数 6
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

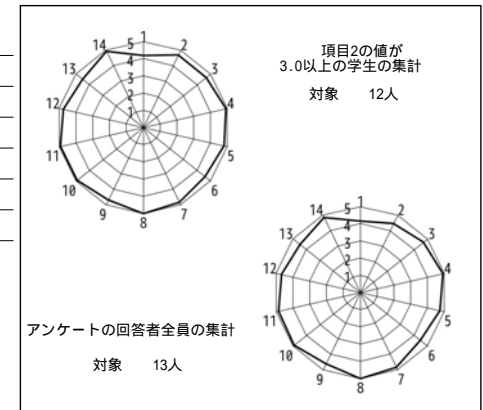
この授業はリーディングとオーラルコミュニケーションの授業で、授業時間と家庭学習時間の両方を活用してインプット量を確保すること、また日本人学習者の多くが持つ英語を聞くことへの苦手意識を克服させることに重点を置いて行っています。

履修者は10名でしたが、うち2名は一度も授業に参加しておらず、授業評価に取り組んだのが6名と、限られた人数による結果であるため単純な比較はできませんが、評価数値は全体的に例年を上回るものとなりました。再履修生のクラスであり、生徒がどのような思いを持って授業に臨んでいるのか測りかねる部分もありましたが、この結果を見て安心しました。生徒の授業態度は良好で、小テスト・テストの結果も悪くありませんでしたので、それも併せて授業目標は概ね達成出来たのではないかと考えています。

今学期は最初から最後まで通して対面で授業を行いました。生徒が遅刻や欠席をした回数も先述の2名を除けば数えるほどしかなく、大変スムーズな授業運営ができました。今後も同様の状態が続くことを願うばかりです。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<
全>1
授業コード 11A13-017
教員名 FOX, Aaron
教員コード 103869
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

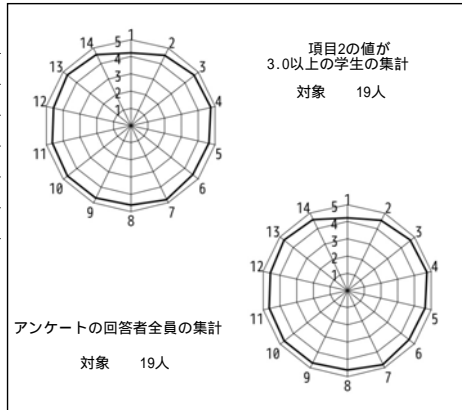


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. They were achieved. The reading goals were quite satisfactory and based on the outcomes of the test scores and application of the skills covered. For the next quarter, my primary goal is to increase the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. In this past quarter, I divided both skills into discrete classes focused solely on either reading or speaking.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<
全>7
授業コード 11A13-030
教員名 JONES William M.
教員コード 100263
登録人数 21
回答数 19
回答率 90.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

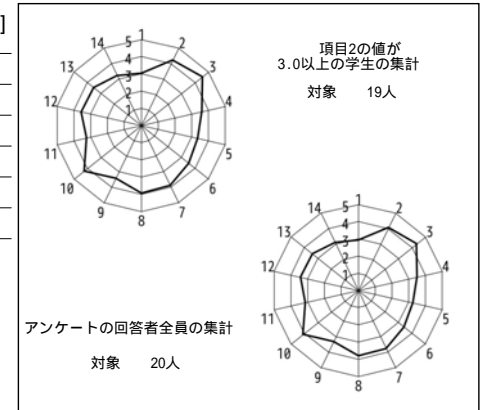


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor is not disappointed with these results. This is the first time instructor is teaching a course like this which consists of several different majors, and students consisting of sophomores and juniors, but no freshmen. Instructor will be changing a few things that will most certainly result in lower questionnaire results in the future, but instructor is concerned with, and dedicated to, the students' education. Classes, as always, are extremely challenging and will remain so. Classes are always designed and developed to help foster interpersonal communication among students, which is often difficult as we're dealing with multiple majors and sometimes large age differences. Instructor will continue to use playing cards in class and this is one of the keys to success, the randomness of groups, review, learning and teaching new material. By merely integrating playing cards into classes, learning becomes not only exciting, but also quite enjoyable. As always, instructor will continue to self-reflect during and after each lesson in order to objectively analyze and if necessary, modify materials and/or techniques.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[T]
12
授業コード 11A13-035
教員名 PALISADA Eloisa
教員コード 055830
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

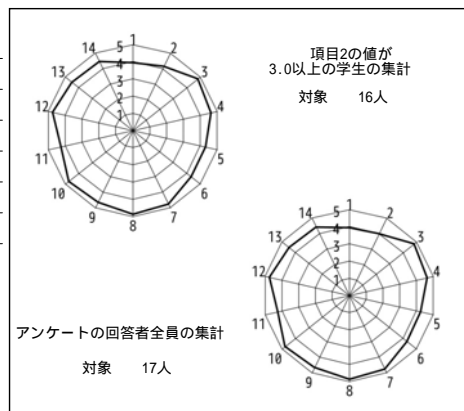


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of this course is to use spoken English for communication with a variety of activities through actual English use and develop healthy attitudes towards English. Moreover, it is geared to master the language needed for interpersonal interaction in a supportive yet challenging environment. The course has a reading component to improve their reading skills through extensive and intensive reading. The majority of these students in the 2nd year with a relatively low-level competency were not interested in the content of the course, to begin with. In other words, there is hostility toward English. It surprised me to get a very low estimation of themselves/the course showing a general dissatisfaction. Despite my effort in adapting to their needs and comprehension, it seems they wanted more explanation in Japanese especially the instructions for assignments. On the other hand, they rated high 87% for their participation and meeting the deadlines, the teacher's friendliness, and her response to misbehavior and classroom management. As a teacher, I should dedicate more appropriate guidance to motivate and encourage them, and address those who are not confident in themselves to be better. It could be effective to draw out sincere feedback at the point in need where they can understand and apply what they have learned. There is indeed much room for improvement in having effective, creative learning and teaching experience.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<全・T>2
授業コード 11A17-020
教員名 伊藤 実里
教員コード 045542
登録人数 22
回答数 17
回答率 77.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



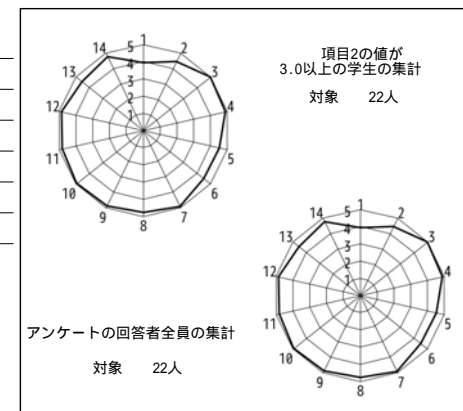
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ユニバーサルなアカデミックライティングの基本を習得すること、および英文タイプのための MS Word の基本的な使い方を習得することという2点について、大体の履修者は目標を達成することができた。一部の履修者において期末課題でもタイプの仕方にミスが見られたことは残念に思う。いちばんの反省点として、説明時のパワーポイントのスライドの進み方が早かったときがあったことを挙げておきたい。教室でノートをとる様子を見て気を付けていたが、そのようなコメントがあったので今後さらに注意したい。

自由記述で印象深かったのは、まず、提出した課題へのフィードバックが学習するうえで役立ったとの感想が複数あったことである。とくにライティングでは自分の書いた内容やタイプの仕方へのフィードバックなしに上達はあり得ないので、履修者からも同様のコメントがあったことは納得できる。もうひとつは、授業時間内に課題のトピックについてさまざまなクラスメートと話し合う機会を楽しむと同時に自分のライティングの内容に反映させることもできた様子である。選択科目では履修者に知り合いがいない場合もあれば、課題のトピックのようなことを友人とでも話題にしたことはない場合も予想できる。対面であろうとオンラインであろうと、集まっても学ぶ授業ならではの機会は今後も重視したいと思う。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<HA, HP, HJ>2
授業コード 11A25-002
教員名 酒井 美納江
教員コード 046060
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



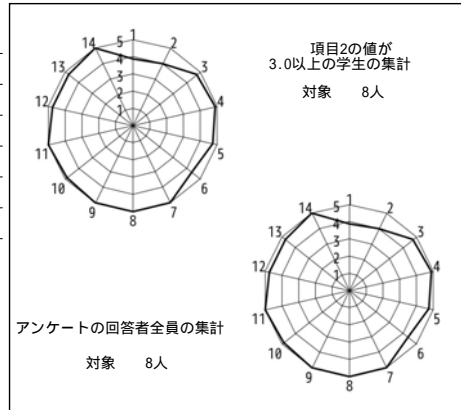
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は(1)様々な発話の音源を聞き内容把握のためトップダウン、ボトムアップの聞き方を鍛える、(2)リスニングを難しくしている音の変化(つながる音や消える音)のパターンを認知し聞き分けができるようになる、(3)語彙を増やす、を主に目指した。2か月という短い期間で学生が達成度を感じることは難しいかもしれないが、毎週提出してもらった振り返りの文書を見ると、学期の終わりには「大まかな内容が分かるようになった」「つながって変化する音に対応できるようになりつつある」等の記述を見ることができたので、(1)(2)に関してはある程度の進歩があったと思う。(3)の語彙に関しては、語彙リストを提示し、自主的に学習してもらう形式をとり、確認としてオンラインの小テストを行ったのみなので、進歩に関しては把握できていない。どちらかというと後回しになりがちな語彙の学習については、毎年試行錯誤しながら最適な指導方法を探している状態だ。

次クォーターでは、語彙リスト自体を学生に作ってもらい、確認の時間をレッスン中に設けるなどしてフォローしていきたいと考えている。リスニングの教材、指導にかんしてはおおむね肯定的な反応をもらっているのですさらにわかりやすい、やる気の出そうな課題を試しつつ発展させていきたい。自由記述で意見をもらった、海外ドラマの使い方や音源の改善ももちろん対応していくつもりだ。

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<J>1
 授業コード 11A25-019
 教員名 HAYES, Mary
 教員コード 103625
 登録人数 8
 回答数 8
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

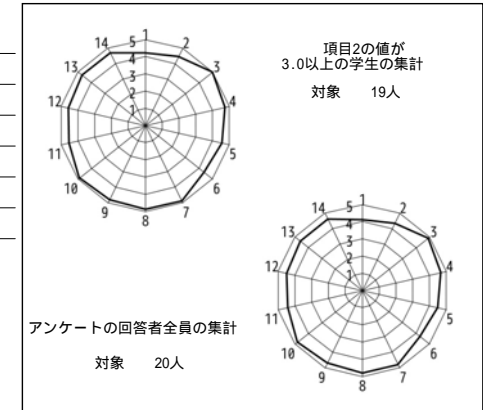


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. In this English Listening I class, the goals were to improve students' familiarity with the sounds of spoken English, by listening to lectures, taking notes efficiently, grasping the main ideas as well as details and distinguishing between minimal pairs. A further goal was to hear natural conversations and respond. The goals of the class were achieved in general by using a text, additional handouts and online practice of listening and speaking. Progress was successful.
2. Based on the data, I feel confident that the materials used helped the students to improve their skills. As it was a small and friendly class, students cooperated well with the teacher and classmates to work on the tasks and focus on the content and meaning of the materials presented in class. Motivation remained high throughout and most members showed a positive response and expressed overall satisfaction.
3. In future, I will continue to work hard to create a positive atmosphere where each class member feels comfortable. By giving students individual feedback on their efforts, I hope to encourage them to further achieve excellence in their understanding and use of the language.

2022年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全・T>8
 授業コード 11A25-034
 教員名 VIADO Cora
 教員コード 100553
 登録人数 23
 回答数 20
 回答率 87.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

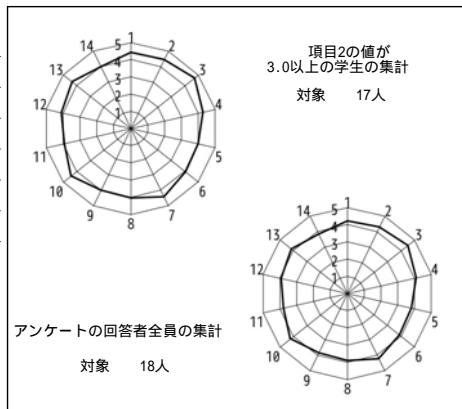


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course is to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. Listening texts included audio items, pronunciation exercises, listening activities, and conversations to promote student interest and exposure to English. The overall positive responses of the students' evaluation of the course indicate their satisfaction with the content and dynamics used in the class. The items with the higher ratings (4.90 and 4.80) pertain to the students' appreciation of the efforts made by the teacher in providing a suitable learning environment. On the other hand, the item with the lowest rating (Q1:4.10) is in relation to their initial disinterest in the subject matter prior to taking the class. Students were generally happy with the chance to get to know their classmates since they had to have a different partner every day.

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語通訳法
授業コード 31E22-001
教員名 クマイ 恭子
教員コード 101131
登録人数 20
回答数 18
回答率 90.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講は開講時、以下の3点を目標とした。

開講時目標

1. 逐次通訳は原稿ありの場合80%、原稿なしの場合60%の精度での訳出ができるようになる。
2. 英語日本語とも運用能力が向上し、背景知識が習得できる。
3. パフォーマンスとしての逐次通訳訳出ができるようになる

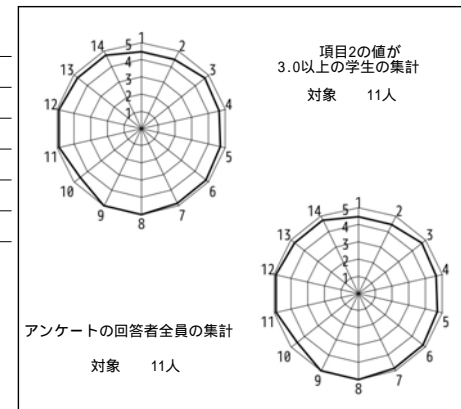
目標の到達度についてであるが、本講は様々な分野における様々な難易度の教材を用いて通訳を実践してもらうものであるため、学生の各分野に対する興味等によってパフォーマンスの出来が変わってくる。また言語及び通訳力は1クォーター（実質2ヶ月弱）という短いスパンで向上を期待できるものではない。とは言い、授業中のパフォーマンスを見ている限り、課題をコツコツとこなす学生はそれなりの伸びが見られたように思う。

本年度の当講座では学生の様子を見ながら適宜内容や難易度を修正しつつも計画に沿って授業を運営した。総じて授業の内容に関しては学生も納得・満足しているように思う。学生の反応があまりなく、運営が少々困難でもあったが、学生のパフォーマンスを仔細に見て、適宜内容を変更したのもよかったのではないか。問題はソフトよりもハード面にあったように思う。通訳に必要なとされるLL機能が普通教室では使えないため、個々の学生のパフォーマンスを確認する手段としてZoomを使用した。テクニカルな問題が発生したためZoomの使用は止め、オープンに切り換えた。

今後は上記問題点（機材の工夫）についてどうするか考えたい。

2022年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication1
授業コード 48A10-001
教員名 MEJIA, Justin
教員コード 104498
登録人数 15
回答数 11
回答率 73.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The syllabus states that students will improve their comprehension of extended, academic speech, and production their own discussion of similar topics. The students were already competent English speakers, so in order to meet these goals I focused on note-taking strategies to help students analyze what they heard and organize their thoughts with the aim of discussing them in a coherent manner. I think both aspects went extremely well (as evidenced by the stellar performances on assessments).

Overall I think my performance was better than average. The class went very smoothly, but that is probably because the high level of the students. This brought out my strengths of communicating with students and fostering a positive learning environment, but it also exposed my weakness: making things too easy or giving students too much time/instruction. I was also completely unfamiliar with the SDGs and found myself taking notes right along with the students to keep up.

Going forward, I would like to challenge myself a bit more by challenging the students more. Giving them more to do with less scaffolding and less time.